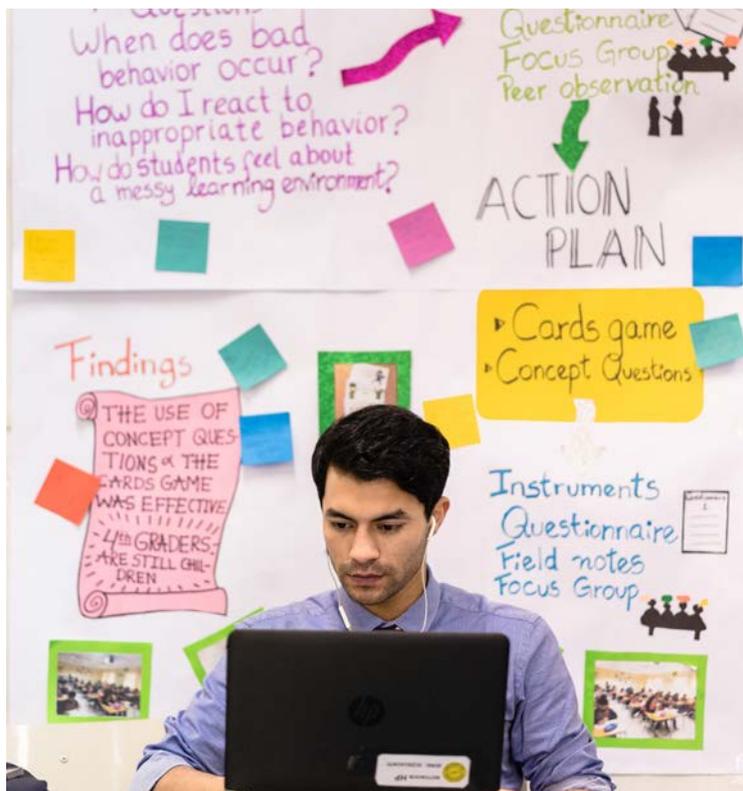


# 探索的アクション・リサーチのための ハンドブック(翻訳版)

A Handbook for Exploratory Action Research

リチャード・スミス、ポーラ・レボルド  
Richard Smith and Paula Rebolledo

翻訳:高木亜希子、田中武夫、南侑樹、藤田卓郎、河合創、滝沢雄一、永倉由里、酒井英樹



## *A Handbook for Exploratory Action Research* 日本語版翻訳について

*A Handbook for Exploratory Action Research* (Richard Smith & Paula Rebolledo 著) (2018 年)の日本語版翻訳である『探索的アクション・リサーチのためのハンドブック』の作成は、科研費研究「英語教師の成長を促す実践共有コミュニティ構築プロセスの解明」基盤研究(C)(2020-2022 年度)(研究代表者:高木亜希子)の一環として行われました。本研究は、中部地区英語教育学会の課題別研究プロジェクト「英語教育の質的向上を目指した実践研究法のデザイン」(2014-2017 年度)(研究代表者:田中武夫)を出発点としています。

翻訳者らは、日本の英語教育の文脈において、現職教師の成長や授業改善を目指し、教師が日々の実践の中で行う実践研究の研究方法に着目し検討を行ってきました。現在は、実践研究を支援するメンターに焦点を当て、実践研究を通じた教師成長の支援のあり方について提案することを目指して研究を継続しています。

本ハンドブックの理念と具体的な実践内容は、私たちのプロジェクトの趣旨と合致しており、日本の英語教師にとって大いに役立つものと確信し、プロジェクトメンバーである翻訳者らが日本語版翻訳を行い、完成に至りました。英語教育の現場で、本ハンドブックが広く活用されることを切に願っております。

なお、本日本語翻訳版の正文は本文(英文)です。オリジナル版は、ブリティッシュ・カウンシルのウェブサイト TeachingEnglish 内の以下の URL をご参照ください。

<https://www.teachingenglish.org.uk/publications/resource-books/handbook-exploratory-action-research>

2024 年 7 月

翻訳者一同

# 目次

はじめに .....	3
1. 出発点 .....	8
1.1 – うまくいった指導 .....	9
1.2 – うまくいかなかった指導 .....	9
1.3 – 情報の必要性 .....	10
1.4 – 研究の価値とは何か .....	12
2. 実践研究とは何か .....	14
2.1 – 研究とは何かを明らかにする .....	15
2.2 – しかし、研究とは何か .....	16
2.3 – 実践研究とはどのようなものか:ロレーナの話 .....	17
3. 探索的アクション・リサーチとは何か .....	19
3.1 – 「探索」の価値 .....	20
3.2 – 探索的な研究:アンドレアの話(パート1) .....	21
3.3 – アクション・リサーチ:アンドレアの話(パート2) .....	23
3.4 – それで、探索的アクション・リサーチとは何か .....	25
4. 何を探索し、何を問いとするか .....	28
4.1 – 研究をする動機 .....	29
4.2 – あなた自身の動機と焦点の絞り込み .....	31
4.3 – テーマから探索型の問いまで .....	32
4.4 – テレサの探索型の問い .....	34
4.5 – あなた自身の問い .....	35
4.6 – SMARTな質問 .....	37
5. どのように探索すればよいか .....	40
5.1 – 様々な情報源 .....	41
5.2 – マウロの話 .....	48
5.3 – 複数の情報源からの情報を組み合わせる .....	49
5.4 – データを集めるときに気をつけることは何か .....	51
6. 何がわかるか .....	55
6.1 – ダニエラの話 .....	56
6.2 – 質的データの分析と解釈 .....	58
6.3 – 量的データの解釈 .....	61

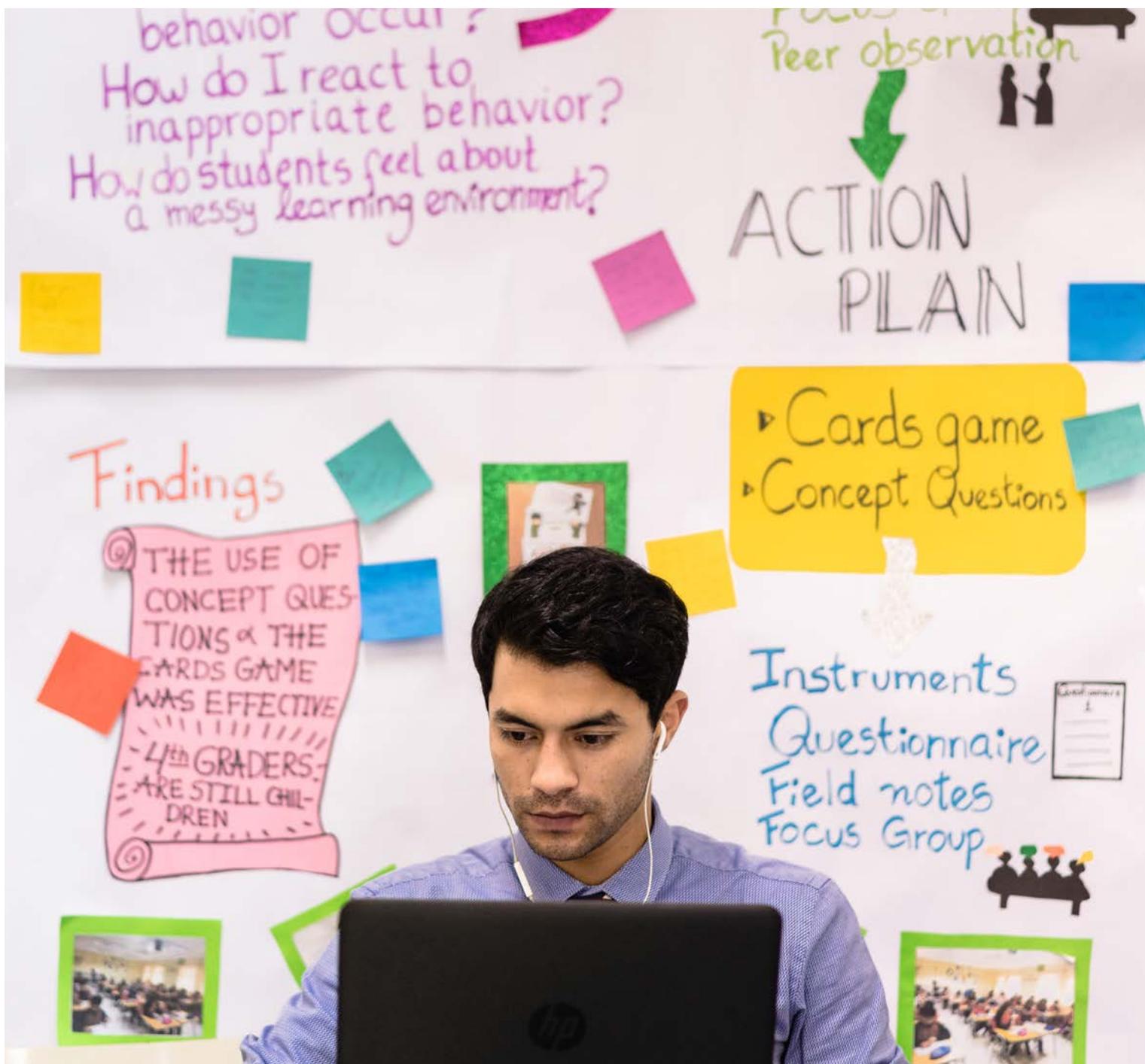
## 目次(続き)

7.	何を变えるべきか .....	66
	7.1 – 「新たな行動」は必要か .....	67
	7.2 – ハビエルの話 .....	68
	7.3 – 変化のための計画を立てる .....	69
	7.4 – 計画通りに変化を実行する.....	72
8.	何が起きているのか .....	74
	8.1 – ロレーナの話(再考) .....	75
	8.2 – 研究方法についての注意点.....	76
	8.3 – 探索的な研究とアクション・リサーチの結果の比較 .....	77
	8.4 – 自己批判的に解釈する.....	79
	8.5 – 自分の成長を振り返ること、それは大きな発見か .....	80
9.	この先どのように進めばよいか.....	82
	9.1 – あなたの研究を他者と共有する .....	83
	9.2 – 書くことで研究を共有する .....	85
	9.3 – 参加者の権利への配慮 .....	86
	9.4 – 幅広いコミュニティへの参加.....	87
	9.5 – 研究の継続.....	88
	9.6 – このハンドブックとのあなたの個人的な旅 .....	90
10.	追加資料.....	93

# はじめに

本書は、教師が継続的に専門性を向上させ、児童生徒のために役立つ実践研究を行う方法について、学術的ではない親しみやすいスタイルで書かれた実用的なハンドブックです。

本書は、英語教育における実践研究に関する文献の中でも、とくに、比較的困難な状況下で働く小学校・中学校・高校の教師を対象としている点に特徴があります。



## 困難な環境と探索的アクション・リサーチ

実践研究(teacher research)は、長い間、教師の専門性を高めるために望ましいものと考えられてきました。本書の第1章と第2章では、その論拠をいくつか説明します。しかし、教師は「教室での通常の仕事に対応する時間もないのに、教師としてどのように研究の時間を確保できるのか」と疑問に思うかもしれません。

本書で紹介している実践研究の1つである「探索的アクション・リサーチ(exploratory action research)」は、40名以下のクラスで週40回の授業を担当する高校の教師を対象に開発されました。もともとは、チリの高校の教師を対象としたプロジェクト(「チャンピオン・ティーチャーズ」プロジェクト、詳細は後述)がきっかけでした。私たちは、このような環境における教師が直面する困難を強く念頭に置いています。私たちが関わってきたプロジェクト(チリのほか、ペルー、インド、ネパール)での教師の実体験にもとづいて、主に強調したいのは、次のことです。探索的アクション・リサーチは、外部からの解決策を待つことなく、教師が教室の状況をよりよく理解し、より適切な指導方法を生み出すのに役立つ点で、困難な環境(重い指導負担、大人数の授業、教材の不足など)に対処する効果的な方法であるということです。

そこで、本書では、実践研究を行う特定の方法である「探索的アクション・リサーチ」が、比較的困難な環境においても実施可能であり、望ましいものであることを強調します。

このような困難な状況下では、教師はタコのように感じるとよく表現されます。同時に起こっている多くのことに対処しなければならず、絶え間ないストレスの中で、問題を解決するために迅速に行動しなければならないプレッシャーを感じ続けているからです。何かうまいかかないとき、うまくいく方法が見つかるまでいろいろな方法を試してみるのとはごく普通のことです。しかし、問題が増えてくると、すべての問題に対処することは不可能になります。そのようなときはどうすればよいのでしょうか。私たちの提案は、十分に検討されていない不適切かもしれない解決策にすぐ飛びつくのではなく、状況から一歩引いて、問題の本質を注意深く見極めることです。

そこで、私たちがお勧めするのは、余計な行動で今ある負担を増やすのではなく、一歩下がって行動を起こす前に状況をよく理解するための、振り返りと探索の場を作ることです。

つまり、本書ではアクション・リサーチを紹介する一方で、「アクション・リサーチ」が意味する「行動」の前に、丁寧に「探索」する段階が必要であることを強調しています。したがって、本書の大部分は、状況についての丁寧な探索を一歩一歩進めていきます。その後、アクション・リサーチで通常連想される「行動」の段階に入ります。

## チリのチャンピオン・ティーチャーズ・プロジェクトと他の文脈

本書で紹介されている「探索的アクション・リサーチ」というアプローチは、現在5年目を迎えているチリのブリティッシュ・カウンシルと教育省の共同プロジェクトの中で開発されたものです<sup>1</sup>。

このプログラムは、公教育システムの高校の教師を対象としている点で革新的です。このプログラムで開発されたアイデアは、すでにインドとネパールでもその価値が示されています(All India Network of English Teachers(AINET)、インドとネパールのブリティッシュ・カウンシルAptis Action Research Award Schemes(AARMS)、アッサム州のガウハティ大学が運営するプロジェクトにおいて)。また、TESOL CALL Interest Section Electronic Village Online(2017年と2018年)にも組み込まれ、ペルーのブリティッシュ・カウンシルが企画したチャンピオン・ティーチャーズ・プログラム(2017-18年)でも普及しています。

チリの教育省は、チリの高次教師に本書を配布し、教師の「ネットワーク」(教師の自助グループ)内での使用を推奨する予定です。また、この本は(チリの教育省とブリティッシュ・カウンシルによって)教員養成プログラムでの使用も促進される予定であり、より学術的な研究アプローチに適した入門書としても役立つでしょう。

本書は、チリの教師の経験にもとづいており、チャンピオン・ティーチャーズ・プロジェクトからの具体的な例を用いていますが、同じような環境に置かれている世界中の教師や教師教育者にとっても魅力的な本となることを願っています。

<sup>1</sup> チャンピオン・ティーチャーズ・プログラムと探索的アクション・リサーチの開発については、Richard Smith, Tom Connelly, & Paula Rebolledo (2014) 'Teacher-Research as CPD: A project with Chilean secondary school teacher' In David Hayes(Ed.) *Innovations in the Continuing Professional Development of English Language Teachers*. British Council. また、Richard Smith(2015) 'Exploratory Action Research: Why, What, and Where from?' In Kenan Dikilitas, Richard Smith and Wayne Trotman for(Eds.), *Teacher-researchers in Action*. IATEFL Research SIGを参照してください。

## 本書のスタイル

本書は、とくに小学校や中学校、及び、高校の教師を対象としていますので(このような書籍はこれまでほとんど出版されていません)、専門用語を使わず、学術的ではないスタイルで、多くの具体例を用いて執筆されています。

本書は、これまでの英語教育分野における実践研究を扱った本とは、あえて異なるものにしようと思いました。実践研究は、教師「による」、教師とその児童生徒「のための」ものであり、比較的冷たい「学術的」な表現を使う決まりや、外部から課せられた厳密な様式に従う必要はないという考えを反映し、できる限り学術的ではないアプローチを目指しました。

そのため、ある特定の活動を抽象的に記述したり、理論から実践へと進んだりするのではなく、可能な限り、事例から提案へと進んでいきます。事例は、作り話ではなく実話であり、機材や機器が十分に揃っていない、あるいは特別に恵まれた環境ではない、比較的困難な環境に置かれている教師によるものです。そのため、チャンピオン・ティーチャーズ・プロジェクトの事例を、本書を通して参照しています。とくに、姉妹本の *Champion Teachers: Stories of Exploratory Action Research*<sup>1</sup> に掲載されている事例に言及しています。読者の皆さんには、この本を読んで理解を深めることをお勧めします。説明や例には実践的な課題がついており、そのほとんどの課題には巻末に解答が記載されています。

また、「研究」というと、教師にとっては自分の「ため」のものではないという感じを与えるかもしれないため、より親しみやすいものとなるよう、視覚的に訴える(デザイン性が高く、イラストや写真が入っている)ようにしました。

## 本書の使い方

本書は、個人で活動している教師、自立した教師グループや助言者から指導を受けている教師グループ、実践研究を支援する教師団体、教員養成あるいは現職教師の教育プログラムなどで使用されることを想定して書かれています。本書の中で課される課題では、現在の指導経験を振り返る必要があるため、読者は現在教室で児童生徒を教えていることを前提としています。

理想的には、本書の内容について一緒に考えたり、課題に答えたりしてくれる人がいるとよいですが、そうでない場合は、この本を能動的に読み、頭の中で課題に取り組み、「@」のマークが表示されている課題では巻末の解答を確認してみてください。

本書は「研究方法」をすべて網羅する入門書ではありませんが、現職の教師だけでなく、教師を目指している学生との経

験からも、探索的アクション・リサーチに取り組むことは、より学術的な研究方法を訓練したり研究に取り組んだりするための、具体的な第一歩になることがわかりました。もちろん、それが本書の主な目的ではありません。自分の実践を研究することに個人的および専門的な利点があることを教師の皆さんに紹介し、非常に困難な環境に置かれている教師であっても、自分の実践を研究することがどのように実施可能であり役立つものであるかを示すことが目的です。

## 謝辞

このハンドブックを作成するために、様々な場面で以下の方々のご協力をいただきましたことを感謝いたします。(以下、敬称略)キャサリン・フッター、デボラ・セプルヴェダ、イザベル・ゴンザレス(ブリティッシュ・カウンシル・チリ)、アンドリュー・チャドウィック、トム・コネリー(ともに元ブリティッシュ・カウンシル・チリ)、ジョン・ナグ(ブリティッシュ・カウンシル・イギリス)、チリ教育省の「イングリッシュ・オープンズ・ドアズ」プログラムの担当者、クラウディア・バストス、ロレナ・ムニョス、レイラ・ニュエス、ダニエラ・ガヤルド、カミラ・ピラボロス、ハビエル・アバロス、マウロ・サエズ、テレサ・リオス、エステバン・ロペス、アンドレア・ロブレスなど、過去および現在のチリのチャンピオン・ティーチャーズ・プログラムのメンターおよび助言者から指導を受けている教師。また、テレサ・ペルッチ、カロライナ・シド、ジェマ・マルドナド、ジーニー・フェルナンデスの各氏には、事例や資料の使用を許可していただきました。最後になりましたが、本書のコンテンツ・エディターを務めてくださり、またそれ以上に、具体的かつ創造的なコンテンツの提案を随所で行ってくださったジェイソン・アンダーソンに感謝の意を表します。

<sup>1</sup> Paula Rebolledo, Richard Smith, Deborah Bullock (2016)による編集、出版地及び出版者はLondon: British Council. オンラインで入手可能: <http://bit.ly/champion-teachers>

# ここから始めましょう

では、始める前に、この自己診断のエクササイズをやってみてはどうでしょうか。これは、本書の終わりまでに皆さんに身につけていただきたい様々な種類のスキルや能力(「コンピテンシー」)の概要を示すものです。このエクササイズは、本書の巻末にも掲載しているため、学んだことを確認できます。

## 解説

次の記入用紙の主な目的は、あなたが既に持っている強みを確認するとともに、とくに専門性の向上や支援を必要とする分野を特定することです。診断ツールは、15の「探索的アクション・リサーチ・コンピテンシー」にもとづいています。

各能力には5つのレベルがあり、各能力について、自分が現在どのレベルにあるかを定める必要があります。様々なレベルの能力を持っていることが期待されますが、最初はレベル0より高い能力をあまり(あるいはまったく)持っていないかもしれません。

探索的アクション・リサーチ・コンピテンシー
A. 自分の実践を振り返り、分析することができる。
B. どのように自分の実践を向上させたらよいかわかっている。
C. 自分の実践について、よい点をあげることができる。
D. 授業でどのような問題が起きているか理解することができる。
E. 実践研究をするために、どこに焦点を当てたらよいか決めることができる。
F. うまくいっていることや課題、その他の問題から、どのように研究課題を設定したらよいか考えることができる。
G. 研究課題に適した証拠となる情報や資料を特定することができる。
H. 研究課題に答えるために情報収集の方法を決めることができる。
I. 研究課題に答えるための証拠を集めることができる。
J. 集めた証拠を分析することができる。
K. 児童生徒の提案や意見を自分の授業に取り入れることができる。
L. 実践の探究にもとづいて、(実践研究の)行動計画を立てることができる。
M. 実践の探究にもとづいて、行動計画を実践に移すことができる。
N. 行動計画の結果を評価することができる。
O. 口頭または文章による研究結果の伝え方や発表の仕方がわかっている。

レベル 0	現在この能力を持っていない。
レベル 1	この能力を使い始めている。
レベル 2	この能力を使っているが、向上させる必要がある。
レベル 3	自信をもってこの能力を使っている。
レベル 4	この能力を強みとして使っている。

## 探索的アクション・リサーチ診断

以下の表のそれぞれの能力について、あなたが現在取り組んでいるレベルに応じて0～4の数字を丸で囲んで記入してください。

能力	レベル
A. 自分の実践を振り返り、分析することができる。	0 1 2 3 4
B. どのように自分の実践を向上させたらよいかわかっている。	0 1 2 3 4
C. 自分の実践について、よい点をあげることができる。	0 1 2 3 4
D. 授業でどのような問題が起きているか理解することができる。	0 1 2 3 4
E. 実践研究をするために、どこに焦点を当てたらよいか決めることができる。	0 1 2 3 4
F. うまくいっていることや課題、その他の問題から、どのように研究課題を設定したらよいか考えることができる。	0 1 2 3 4
G. 研究課題に適した証拠となる情報や資料を特定することができる。	0 1 2 3 4
H. 研究課題に答えるために情報収集の方法を決めることができる。	0 1 2 3 4
I. 研究課題に答えるための証拠を集めることができる。	0 1 2 3 4
J. 集めた証拠を分析することができる。	0 1 2 3 4
K. 児童生徒の提案や意見を自分の授業に取り入れることができる。	0 1 2 3 4
L. 実践の探究にもとづいて、(実践研究の)行動計画を立てることができる。	0 1 2 3 4
M. 実践の探究にもとづいて、行動計画を実践に移すことができる。	0 1 2 3 4
N. 行動計画の結果を評価することができる。	0 1 2 3 4
O. 口頭または文章による研究結果の伝え方や発表の仕方がわかっている。	0 1 2 3 4

これらは、本書を読み進めていく中で、あなたが身につけていくスキルや知識です。さあ、始めましょう。

# 1. 出発点

あなた、あなたの学習者、あなたの経験や能力が、この本の主な出発点となります。あなたの実践を理解すること、自身の指導から学ぶこと、学習者に耳を傾けること、そしてあなたの経験と能力に自信を持つことが、私たちの取り組みの主な成果となることを願っています。

日々の授業では、計画、指導、活動の準備、評価、フィードバックなど、様々な活動を行っています。これらの経験は、うまくいったものもうまくいかなかったものも含めて、この本を読み進める上での出発点となります。それでは、まずそのいくつかを見てみましょう。



## 1.1 うまくいった指導

ポーラは、最初の課題の例として、自身の授業での成功体験を紹介しています。

「数年前、私は高校で10代の多くの生徒を教えていました。私は生徒に国と国籍を教えなければなりません。それはとても簡単なことに見えましたが、生徒にとっては難しいことでした。様々な国や国籍の単語を覚えるのに苦労しただけでなく、発音を覚えるのにも苦労しました。また、ある生徒は学期末までの時間が限られていたので、早急に解決策を考えなければなりません。そこで私が考えたのは、片方の面に国、もう片方の面に国籍が書かれたドミノゲームを作ることでした。生徒は、国旗と国籍を一致させたいときには、毎回、“She is from Spain. She is Spanish.”などと言わなければならないので、かなりの反復練習が必要でした。このゲームをした後、私は生徒がより効果的に行うことができる、よりコミュニケーション性の高い活動に移行しました。その結果にはとても満足しています。生徒は授業で習った語彙を覚えていて、統制された練習のような活動から、より自由度の高いコミュニケーション的な活動に移ることができただけでなく、熱心に取り組んでいました。生徒がメモを取っているのを見て、生徒が一懸命に取り組んでいることがわかりました。私は、この活動が目的に適切だと感じました。私にとってのうまくいった指導とは、生徒が積極的に参加し、学習を進めているときだと思います」

### 課題 1.1

あなたの授業で最近うまくいった経験や活動について考えてください。心の中で考えてみてください。できればそのことを誰かに話してみてください。

どうしてそれがうまくいったと言えるのですか。何を見て、何を聞いて、何を感じて、それがうまくいったと判断しましたか。



私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ を見ました。



私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ を聞きました。



私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ と感じました。

あなたにとっての「うまくいった指導」の意味は何ですか。

私にとってのうまくいった指導とは \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ したときです。

### 解説

うまくいったときの状況を振り返ってもらうことで、その経験をポジティブにした様々な側面を思い出し、説明してもらうこと

ができます。このエクササイズは、後にこれらの記憶を使って、このうまくいったことを再現したり、そこから理想的なものを新たに生み出したりできるため、役立ちます。

指導における「成功」とは、児童生徒のテストの成績を上げることだけではないということ覚えておいてください。成功は、評価を超えた様々な方法で定義することができ、それは妥当なものでもあります。児童生徒が授業に積極的に参加しているときに、児童生徒が活動に集中しているのを「見たり」、児童生徒の意見を「聞いたり」した場合、これらの成功の兆候を覚えておいて、今後の授業の中で探してみるとよいでしょう。探索的アクション・リサーチの結果として、これらの成功の兆候をあなたが再び目にするのを願っています。結局のところ、探索的アクション・リサーチの主な目的は、あなたと児童生徒が教室でより大きな成功を収めるのに役立つことなのですから。

## 1.2 うまくいかなかった指導

ここまでは、うまくいった経験の例を共有し、自分の経験を紹介してもらいました。ここでは、あまりうまくいかなかった経験に目を向けてみましょう。これは、あなたの実践について振り返るきっかけとしても有効です。

2つ目の課題の例として、チリの教師であるカミラ・ビラロポスのうまくいかなかった指導を見てみます。カミラはチリ南部のチロエ島にある学校で、10歳から13歳までの生徒を教えています。

「各レベル約28名の生徒がいますが、各学年にインクルーシブ教室(P.I.E.: Programme for Inclusion in Education)からの5、6名の生徒がいます。私の授業において、この生徒はクラスの他の生徒と比べ、参加しておらず、やる気もありませんでした。私は教師として、すべての生徒が大切であり、全員が同じ英語の能力を身につけられるように手助けする必要がありました。P.I.E.の生徒の大半は、チロエ島に近い農村や他の島から来ています。生徒の多くは、英語を教科として習ったことがなく、英語を習ったことがある生徒も、その学年で身に付ける能力に到達していませんでした。これらの生徒のほとんどは、平日は里親の家や町の寄宿学校で生活し、週末は家族に会うために家に帰るという生活をしています。私は、生徒がより快適に過ごせるように友達と一緒に座らせたり、声のトーンやボディランゲージを変えたり、さらには授業を個人に応じたものにして教室で質問するように促したりと様々な方法を試しましたが、何も効果がないように思えました」

## 課題 1.2

あなたの教室での最近うまくいかなかった経験や満足できなかった経験について考えてください。心の中で考えてみてください。1人でなければ、誰かに話してみましょう。

そして、自分自身に聞いてみてください(または、誰かに聞いてもらってください)。

どうしてそれがうまくいかず満足できないものだったのですか。どのような点が問題になったのですか。何を見て、何を聞いて、何を感じて、そう判断しましたか。



私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ を見ました。



私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ を聞きました。



私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ と感じました。

### 解説

教師は、物事が思い通りに進まない難しい状況を数多く経験しますが、うまくいった場合と同様に、何が起こったのか、なぜそうなったのかをじっくりと考える時間は通常ありません。そこで第一歩として、計画通りに物事が進まないときの兆候、つまり、成功しないときの兆候を考えてみましょう。

ポーラの経験からうまくいった指導を1例、カミラの経験からうまくいかなかった指導を1例、そしてあなた自身の経験から2つの例を振り返りました。これらをもとに、指導における状況をよく見ることで、どのように成功や失敗の兆候をとらえ、状況の理解ができるかを示しました。次の章では、うまくいったことを拡大したり(事例1.1のように)、問題を解決したりするか(事例1.2のように)、ここからどのように進んでいくかを見ていきます。今は、物事がうまくいっているかどうかを示す感覚を通してわかる兆候や、状況をよりよく理解するための情報の集め方についてもう少し考えてみましょう。

### 1.3 情報の必要性

上記の例では、ポーラとカミラは、何がうまくいっているか、あるいはうまくいっていないかを「教えてくれる」ものを「見て」、「聞いて」、「感じて」いました。課題では、読者の皆さんにも見たもの、聞いたもの、感じたものに注目してもらいました。私たち(教師)に、自分の教室で起こっていることを教えてくれるのは、私たちの感覚だからです。私たちが何かを「感じる」とときには、長年の教師としての経験から培われた直感も使っています。

見たり、聞いたり、感じたりすることで、特定の状況がうまくいっているのか、満足できるものでないのかを教えてくれる兆候と呼んでいるものがわかります。

「兆候」:(名詞)「何が起きているか、何が起こるかを示すものとみなされるもの」<sup>1</sup>

成功の兆候とは、活動に取り組んでいる児童生徒の笑顔を見たり、活動について児童生徒同士が話しているのを聞いたり、自分の経験から活動がうまくいっていると感じたりすることです。これは役立つ適切な情報です。しかし、兆候は、場合によっては状況を部分的にしか示しておらず、その兆候には以下の可能性があるかもしれません。

- 児童生徒の認識を無視している。
- 状況の一面についてしか情報を与えていない。
- 簡単に「見たり」「聞いたり」できない状況の他の側面を隠してしまう。
- 状況の新たな理解に有用な情報を見過ごさせてしまう。

私たちが一緒に仕事をしてきた教師の中には、ある状況に対する最初の考えが、他の視点からより詳細に見たとき、つまり、自分の目や耳をもっと開いたり、他人の目や耳を「借りたり」したときに、どのように変わったかを教えてくれた人がいました。いくつか例を見てみましょう。

「この探索的な研究は、私が教室で何をしているかをより意識するのに役立ちました。残念ながら、私は自分がしている悪いことではなく、生徒がしている悪いことを探していました。言い換えれば、生徒のパフォーマンスを判断する前に、プロセス全体を見る必要があるのです」(レイラ・ヌニェス)

「今回の探索で、最初の発見は私にとって非常に驚くべきものでした。研究の前、生徒は私が授業で英語を話すことを望んでいないと思っていました。しかし、質問紙の回答では、半数以上の生徒が英語での授業を望んでいると答えたのです。これは、私の見方を一変させるものでした」(ダニエル・サンタナ)

「教師として、授業中に自分のやり方に疑問を感じたときは、内容以前に生徒の興味に目を向ける必要があります。私たちは通常、内容が問題だと考えますが、そうではないかもしれません」(カミラ・ビラロポス)

これらの教師は、ある状況をより注意深く見てみることで、自分の見方が変わることに気づきました。つまり、これまで自分が持っていた「うまくいっている」「うまくいっていない」という兆候は、不完全だったり、状況を説明するには不適切だったりしたのです。これが、追加情報を集めることが重要である理由であり、状況をよりよく、より詳細に、異なる視点から理解するために必要なのです。収集した情報は、与えられた状況の解釈を、何が起きたかを示す証拠にするのに役立つ可能性があります。

<sup>1</sup> Oxford English Dictionary

「証拠」:(名詞)「確信や命題が真であるか、または、妥当であるかを示す情報、事実を立証するために使われる情報」<sup>2</sup>

ポーラの成功例をもう一度見てみましょう。彼女が気づいたことは貴重ですが、この状況のすべての特徴をより明確にするために、さらに多くの情報を集めることができます。彼女の例では、ポーラは「生徒がメモを取りながら作業しているのを見て、お互いに単語を正しく発音するように励ましているのを聞いて、最終的にその活動がその目的に合っていると感じた」と言っています。うまくいったことを示すこのような兆候は妥当ですが、その指導が効果的であったかやその理由を理解するために、もっと詳細に見てみるすることができます。例えば、彼女は次のようなことを断言することはできません。

- 生徒全員がとても積極的に参加している。そうでない場合、どの生徒が積極的で、どの生徒が積極的でないのか、そしてその理由は何か。
  - 生徒全員がその授業で学んだ語彙を使っている。
  - 生徒全員がその授業を楽しんでいる。
  - 生徒全員の英語のレベルが向上した。
  - 生徒全員がゲームを使った授業を楽しんでいる。
- うまくいかない状況の場合、カミラはP.I.E.の生徒を支援するために様々な指導を試みたものの、「何も効果がないように思えた」ことはわかりましたが、以下のことは明らかになっていません。
- 彼女が行った様々な指導を生徒がどのように思ったか。
  - 生徒のやる気のなさはどのようなものだったか。
  - 授業でどのような活動をすれば生徒のやる気ができるのか、なくなるのか。

### 課題 1.3 @

カミラがうまくいかない状況をもっと理解できるように助けてみましょう。彼女には確信が持てないことがたくさんあります。以下の文を読み、確信が持てる場合は「知っている」と書き、まだ十分な情報がない部分には「知らない」と書いてください。巻末の解答を見れば、答えを確認できます。

1. 彼女が生徒のやる気を引き出すために使った様々な指導を私たちは\_\_\_\_\_。
2. カミラが心配している生徒の背景を私たちは\_\_\_\_\_。
3. 彼女が使った指導について生徒全員がどのように思っているかを私たちは\_\_\_\_\_。
4. 生徒がやる気がないとカミラが判断した理由を私たちは\_\_\_\_\_。
5. 授業の中で、ある活動に生徒が実際にどのように反応するかを私たちは\_\_\_\_\_。

おそらく気づいたと思いますが、この状況について私たち(そ

してカミラ)が知らないこと、よりよく状況を理解するために知らなければならないことが多くあります。

### 課題 1.4 @

ポーラが語った状況と同じような練習をしてみましょう。もし、あなたやポーラが、1.1で彼女が話したうまくいった状況についてもっと理解したいとすれば、どのような種類の情報を集めることができるでしょうか。

彼女が得た兆候を読み(表A)、よりよい情報を集めるために彼女が使えると思う方法を選んで、記号を書いてください(表B)。解答を見て答えを確認することができます。注:1から5については、複数の答えがあるかもしれません。

表A. 兆候

1. 生徒はやっていることに夢中になっている。	_____
2. 生徒はとても積極的である。	_____
3. 生徒は授業で学んだ語彙を使っている。	_____
4. 生徒も先生も授業を楽しんでいる。	_____
5. 生徒が単語を正しく発音していた。	_____
6. 生徒はゲームを使った授業を楽しんでいる。	_____

表B. 情報収集の方法

A. 生徒の行動や発言についてメモを取る。
B. 語彙テストで生徒の語彙学習がどのように向上したかを評価する。
C. 授業についての意見を生徒に書いてもらう。
D. 同僚に来てもらい、見たことをメモしてもらう。
E. 生徒の行動、態度、言語使用を見るために、授業中の生徒をビデオ録画する。

### 解説

上で述べたように、うまくいっていることやうまくいっていないことの兆候は、日々の授業において重要であり、それらを振り返ることは教師としての成長につながります。しかし、これらの情報は状況の一部しか示していないこともあり、状況をよりよく理解し、必要に応じて状況を変えるためには、よりよい情報をより多く収集することが不可欠となります。

そのためには、自分の実践を「頭の中で」振り返るだけでなく、状況をより明確かつ十分に理解するために、できるだけ多くのよい情報や「データ」を集める「研究」を行う必要があります。

<sup>2</sup> Concise Oxford English Dictionary

ます。私たちが協働したある教師は、このことをとてもはっきりと言っています。

「授業の中で問題を『目にした』ときは、立ち止まり、その問題について振り返り、データを集め、分析し、その目的に沿って行動を計画すべきだと思います」(テレサ・リオス)

よい情報(「データ」)の本質については、この本の後半で触れます。ですが、さしあたって、教師が自分の指導についての情報をどのように収集できるかを示す例を見てみましょう。

## 1.4 研究の価値とは何か



私たちは、情報を集める価値について引き続き示し、さらに自分の実践を理解し、できれば状況を変えるために研究を行うことの価値について伝えたいと思います。ここでは、ポーラがチリで協働したテレサ・ペルチッチという教師の研究の話を紹介したいと思います。これは、研究に取り組む教師にとって、研究がいかに力を与えてくれるものであるか、また、今まで知らなかったことを研究がいかに示してくれるのかをよく表していると思います。

「私が働いていた学校のアカデミック・マネージャーは、生徒が課題に取り組んでいる間、すべての授業でクラシック音楽を流すように言いました。私はそれをやってみました。違いがわからなかったのをやめました。その学校の決定は、クラシック音楽が集中力や学習意欲を高めるという研究にもとづいているため、私の考えがどうであってもそれをしなければならない、と言われました。私はまったく納得できず、同僚と一緒にクラシックだけでなく他の種類の音楽も流すことにしました。

その後、授業研究について学び、自分の教室で研究を行うというアイデアは、校長が間違っていると証明するための完璧な方法に思えたので、私は一連の課題と生徒が取り組んでいる間に流す様々な種類の音楽を用意しました。生徒が課題に取り組んでいる間に起こったすべてのこと(生徒の態度や行動など)をメモしました。後日、生徒が取り組んだ様々な課題を集めてみると、私が流した音楽によって違いがあることに気づき始めました。また、私は生徒に調査をしました。生徒の意見を聞くための簡単な質問

紙です。しかし、生徒が私の質問を理解しているとは思いませんでした。そこで、最終的に、生徒にインタビューをすることにしました。BGMをかけて行ったそれぞれの活動の後に、生徒がどのように感じたか、集中できないということはなかったか、課題を終えるのに音楽が役立つと感じたか、などを尋ねました。

すべての証拠を集めて詳しく分析した後、私は諦めました。確かに、クラシック音楽を聴いているときのほうが、生徒はよく学び、より集中していました。生徒は、リラックスした気分になり、静かに取り組んでいるときよりも思考が促されると話してくれました。反対に、ポピュラー音楽は生徒を興奮させました。生徒は、踊ったり歌ったりしたくなるので、課題に集中できないと言いました。私はこの結果を同僚に伝え、上司の言うことが正しいと認めざるを得ませんでした。しかし、私は、議論に負けたとは全く思いませんでした。むしろ自分を誇りに思いました。ただ言われたことをやったのではない。

自分で調べて、自分なりの答えを見つけたんだと」(テレサ・ペルチッチ)

最終的には、校長の意見に同意せざるを得ませんでした。テレサは自信をもたせて感じています。なぜなら、彼女はもはや命令に従うだけではなくなったからです。彼女は、自分が発見したことにもとづき、自分の教育について十分な情報を得た上で、決定を下すことができると感じたのです。この話は、集めた情報によって、それまで得ていた日常的な兆候とは異なる予想外のことが明らかになることがある、という上述の指摘を補強するものです。このように、実践研究は、単に教室で起こったことを振り返るだけのものとは異なり、日常の経験を超えた新しい視点を得ることを可能にするのです。

ここで、テレサが情報収集のために行ったことを詳しく見てみることにしましょう。

音楽があるときとないとき、また音楽の種類によって何が起こるかを、彼女は比較する必要がありました。そのためにテレサは、「一連の課題と生徒が取り組んでいる間に流す様々な種類の音楽を用意した」のです。

では、それぞれの音楽の効果について、どのような情報を集めたのでしょうか。

### 課題 1.5 @

この話をもう一度読み、次のページの表に、次の情報のいずれかを記入してください。

- A. インタビューメモ
- B. 観察メモ
- C. 生徒の作品
- D. 質問紙の回答

教師は何をしましたか。	情報の種類
「生徒が課題に取り組んでいる間に起こったすべてのこと（生徒の態度や行動など）をメモしました」	
「後日、生徒が取り組んだ様々な課題を集めてみると、私が流した音楽によって違いがあることに気づき始めました」	
「また、私は生徒に調査をしました。生徒の意見を聞くための簡単な質問紙です」	
「生徒にインタビューをすることにしました。BGMをかけて行ったそれぞれの活動の後に、生徒がどのように感じたか、集中できないということはなかったか、課題を終えるのに音楽が役立ったと感じたか、などを尋ねました」	

## まとめとフォローアップ

この章の要点は、「研究」を行うことが教師にとって役に立つということでしょう。すでにうまくいっていると思われることについて情報を集めたり、うまくいっていないことを理解したりするのに、研究がどのように役立つかを見ました。ある問題や悩んでいる状況を解決したり、新しいアイデアを試してみたり、あるいは教師が不適切と考える新しいアイデアに抵抗したりする際にも、研究がどのように役立つかがわかってきました。

情報を集めることで、どのように自分の教室での経験をより深く理解できるかがわかってきました。私たちは、問いに答えるために情報を収集するこのプロセスを「研究」と呼び始めましたが、次の章でももう少し明確に定義します。今のところは、研究が教師にとっていかに役に立つかを理解していただきたいと思います。

本書のアイデアの多くが最初に開発されたチリにおいて、チャンピオン・ティーチャーズ・アクション・リサーチ・プロジェクトと呼ばれるブリティッシュ・カウンシルとチリ教育省のプログラムの中で、私たちは何名かの教師の経験について聞いてきました。チャンピオン・ティーチャーズとは、自主的にプロジェクトに参加した高校教師のことで、メンターの支援を受けながら実践研究を行うように勧められていました。このプログラムの詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください：  
<http://championteachers.weebly.com/>

## フォローアップ

次の章に進む前に、チリのチャンピオン・ティーチャーであるテレサ・リオスの報告書を読んでみましょう。彼女の話はこちらからご覧いただけます：<https://bit.ly/teresarios>

以下の質問について考えてみてください。

- 彼女は、授業で生徒が話せない原因は何だと思いましたか。
- 彼女は生徒について何を学びましたか。
- 以下の彼女の話によると、研究をすることは、教師としてどのような点で役に立ったのでしょうか。

「この探索的なプロセスによって私が発見したのは、私は生徒に何かを期待していたけれども、そもそも生徒が必要としているものを与えていなかったということです。授業中に何か問題を見つけたら、立ち止まってその問題について考え、データを収集して分析し、それに応じた行動計画を立てるべきだと思います」

## 2. 実践研究とは何か

本章では「実践研究(teacher research)」についてさらに学びます。実践研究とは、教師が自身の実践において重要だと感じている問題に自分自身で着手し実施する研究です。このような研究は、学術的な目的が主たるものではなく、専門性の向上や指導・学習の改善を目的とし、教師(と児童生徒)のために教師によって行われる点が強調されます。したがって、実践研究は、独自の規則に沿って行われ、学術研究を真似する必要はありません。実践研究は研究ですが、独自のタイプの研究です。



## 2.1 研究とは何かを明らかにする

前章では、情報を収集することによって、自分の実践をどのようにより深く探索し理解することができるか、そしてどのように状況をよりよく変化させることができるかを見ました。情報、または「データ」を収集することは、研究の重要な特徴の1つです。

しかし、多くの教師は、本書で解説しているプロセスとは異なる研究のイメージを持っています。

教師が述べる研究のイメージは以下のようなものです。



Images by: Mat Wright.

教師は、研究というとしばしば科学者や科学を想像します。しかし、研究とは実験室や大学で行われたり、「科学的な目的」のためだけに行われたりするものではありません。常に変化する教室での日常をよりよく理解したり、教室での日常に変化をもたらしたりするために、教師や生徒によって研究が行われることもあります。

以下の写真は、教室での日常に入り込んだ研究の特徴をよりの確に表すもう1つのイメージです。



Image by: Rick Carey/Shutterstock.

この写真では、ダイバーが多様性に富んだ美しいサンゴ礁を注意深く眺めています。それは、実験室ではなく、実際の環境でなされる必要があるものです。

では、以下の写真はどのようにでしょうか。



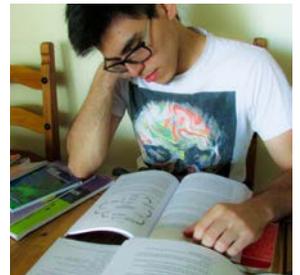
この写真では、実際の教室環境で生徒が話し合っている様子が見えます。生徒が何をしているのか、何を話しているのか、そして何を考えているのかを調べることは、海面下のサンゴ礁を調査するのと同じくらい魅力的で豊かなことです。私たちは生徒と毎日会っているからといって面白くないわけではありません。実際、最近次のような文に出会いました。

「サンゴ礁と同じくらい複雑な文化を持つ教室においては、教師は常に研究者でなければならない」<sup>1</sup>

したがって、実験室だけが研究を行う場所ではないことをわかっていただけたと思います。そして、本書では、教師が自分の指導や学習の状況を研究することができることと強調しています。しかし、言及しておく必要のある研究についてのよくある誤解がさらに2つあります。以下で、教師が研究と聞いてよく思い浮かべるもう2つのイメージを見ていきましょう。

### 誤解1 文献をたくさん読むこと

研究のためには、たくさんの文献を読むと考えるのが普通です。これは確かにそうかもしれませんが、すべての研究が必要というわけではありません。本書では、あるテーマについて他者の考えを参照することがいかに役に立つかを示していますが、それは、自分の教室をよく見て、そこから情報を得ることほど重要ではありません。また、文献は後でも読むことができます。つまり、実践研究を始める前にあるテーマについて「文献」のレビューを読んだり書いたりする必要はないのです。



### 誤解2. 論文や報告書を書くこと

これも明確にしておく必要がある誤解の1つです。教師は自分の研究について論文や報告書を書く必要はありません。学校内の同僚や学会・研究会の聴衆に向けて、自分の研究プロジェクトについていつでも発表できるのです。また、本書で示すように、研究を発表するために文章を書く必要はなく、写真やポスターを使って研究したことを話すこともできます。

<sup>1</sup> Holliday, A. (1994). *Appropriate Methodology and Social Context*. Cambridge: Cambridge University Press, p. 31.

## 2.2 しかし、研究とは何か

研究が何かを知るのに役立つ簡単な定義は、以下の通りです。

「研究」:(名詞)「立てた問いに答えるための組織的、体系的な探求」<sup>2</sup>

研究のもう一つの定義は「公開される体系的な探求」<sup>3</sup>です。

これらの両方の定義に「体系的な」という語が使われていることがわかるでしょう。言い換えれば、研究は、組織化された手順に沿って計画的に行われる必要があるのです。デービッド・ヌナンによる「研究」の定義でもこのことが強調されています。ヌナンは研究を「(1)問い・課題・仮説、(2)データ、(3)データの分析と解釈、の3つの要素から構成される探求のプロセス」<sup>4</sup>と定義しています。ここでは、ヌナンは「データ」、別の言い方をすれば関連した「情報」の収集と分析について触れています。明確にするために以下の定義を見てください。

「データ」:(名詞)「情報がとくに分析することが可能な事実もしくは統計の形態であるとき、その情報をデータと呼ぶことができる」<sup>5</sup>

### 課題 2.1 @

研究の定義をいくつか見ましたが、以下の状況について考え、研究の例として考えられるものにチェックを入れてみましょう。

- 1. ルイスは、ボゴタからロンドンへの航空券を最速かつ最安の経路で買う必要がありました。探しているものを見つけるために彼はいくつもの航空会社のウェブサイトを検索し、最適な便を選ぶために他のウェブサイトも検索しました。航空券を購入する前に、後で比較するためにその選択肢をメモしました。
- 2. フランシスは、ケーブルテレビのプロバイダーから送られてくるどの番組も見ることができないことに気づきました。彼は黒い画面しか見ることができません。どうにかテレビ番組に戻そうと、リモコンのボタンをいくつか押してみましたが、何も起こりませんでした。そして、ケーブルセットボックスの説明書があったことを思い出し、再設定の方法に関する指示を探して、なんとかお気に入りの番組を再び見ることができました。
- 3. クラウディアは、最近デスクトップコンピュータの動作が遅くなってきたため、買い換えようと決めました。持ち運ぶのに軽くて、十分なメモリの容量とスピードを備えたノートパソコンを購入することにしました。1週間後、彼女はお店に行き、セール中だったデスクトップコンピュータを購入しました。

ご覧の通り、私たちは日常生活の中で研究に取り組んでいます。したがって、研究は研究者によってのみ行われるものではなく、私たちの生活に必要な不可欠なものでもあります。それでは、教室での事例をいくつか見てみましょう。

### 課題 2.2 @

以下の教室の状況を読んで、研究の事例を表していると思うものを選びましょう。

- 1. ある数学教師は、課題を解決するために協働的に取り組んだり話し合ったりできるように、授業でグループワークを用いることにしました。しかし、生徒がグループワークにきちんと取り組んでいないことに気づきました。生徒は与えられた課題を終えておらず、各グループ1、2名の生徒のみが課題をすべて終えている状態でした。このことから、この指導方法が彼女の授業で効果的ではないと考え、グループワークを用いるのをやめました。
- 2. ある英語教師は、授業でいつも動画を使用していました。最近、生徒があまり熱心に取り組んでおらず、与えられた課題を終えていないことに気づきました。生徒に尋ねてみると、動画の英語のレベルが高過ぎて、理解できずにいることがわかりました。そこで、彼女は同僚にその動画を確認してもらいました。この同僚は、生徒が言っていたことを確認しました。結果として、彼女は、動画を理解するために必要な英語を生徒に指導するとともに、生徒のレベルにもとづいて動画をより慎重に選ぶようになりました。
- 3. ある理科教師は、指導主事の訪問を受けました。訪問後、質問をするたびに毎回同じ5、6名のグループの生徒が答えていることや、すべての生徒をより活発に参加させるようにすべきであることを、その指導主事は教師に伝えました。この後、あまり積極的ではない生徒に質問したり、より自信がある生徒については自発的に発言させるようにしたりしました。

### 解説

ここまでを要約すると、研究には、以下のような特徴があります。

1. 答えるべき問い
2. 体系的なデータ収集
3. データの分析
4. 問いに対する答え

本書を通して、研究を行う上での様々な部分やプロセスについて紹介していきますが、データ収集は、研究において不可欠な要素であり、その後に「分析」が来ることをここで再確認しておきましょう。

「分析」:(名詞)「物事の要素または構造を詳細に調べる」<sup>5</sup>

ここまで何度も強調しているように、研究は科学者のみが行うものではありません。研究は日常生活の中で行われるものであり、教師によって行われることがあります。その場合、それは「実践研究」と呼ばれ、教師が主体となって自身の文脈において行われる研究を指します。

<sup>2</sup> Hatch, E. and Lazaraton, A. (1991) *The Research Manual: Design and Statistics for Applied Linguistics*. Boston: Heinle & Heinle, p. 1.

<sup>3</sup> Stenhouse, L (1978). 'Applying research to education'. Paper given to the British Educational Research Association. Stenhouse Archive, University of East Anglia, p. 1.

<sup>4</sup> Nunan, D. (1992) *Research Methods in Language Learning*. Cambridge: Cambridge University Press, p. 3.

<sup>5</sup> <https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english/data>

## 2.3 実践研究とはどのようなものか:ロレーナの話

上で挙げられた特徴が、私たちが一緒に取り組んだチャンピオン・ティーチャーズの1人の事例に当てはまるかどうか見てみましょう。

ロレーナ・ムニョスが自分の言葉で語った研究を読み、続く表を完成させてください。

「私はオソルノの高校で教師をしており、傷つきやすい生徒を指導しています。私は9年生から11年生を指導しており、大体1クラスにつき38名から40名の生徒がいます。9年生の生徒は14歳から15歳です。このような文脈の中、私は、生徒がリスニング活動にきちんと取り組んでいないことに気づきました。授業中、生徒がリスニング活動に取り組んでいないのを見て、その理由を知りたいと思いました。

私は探索的な研究のプロセスにおいて、取り組むべき4つの問いを選びました。

1. どのリスニング活動であれば、生徒はよりよく聞き取ることができるのか。
2. 授業中、リスニングはどのように提示されているのか。
3. 生徒はリスニング教材からどのような情報を認識することができるのか。
4. リスニング教材の長さが、生徒のパフォーマンスにどのような影響を与えるのか。

情報を集めるために私は調査を行いました。生徒がそのテーマを面白いと感じていることがわかり驚きました。生徒がもっとも好きな活動は歌だったのです。生徒は教師の指示を聞くことも理解することもできていました。そこで、私はフォーカス・グループ・ディスカッションを行い、リスニングの際に簡単だと思っていることや難しいと感じていることについて調べることにしました。録音された教材が長すぎて、生徒は、活動を終わらせることができないことを私に話してくれました。それが、生徒の不満や、やる気をなくす

原因だったのです。生徒は、歌は短くて活動を達成しやすいため簡単だとも言いました。本格的な相互観察の時間も計画し、そこでは、リスニング中、または教師が指示をしている際の生徒の行動を教育実習生が観察しました。彼は、先の結果を確認するとともに、生徒が指示を聞いていることにも着目し、生徒は何をすべきかわかっていることを示してくれました。

私は、リスニングの音声を歌のように扱うことにしました。音声をいくつかのセクションに分け、情報を並べたり、穴埋めをしたりする活動を作りました。

2週間が終わるまでに、いくつかの変化が見られました。最初の変化は、生徒がきちんと活動に取り組み、ハンドアウトには正しい答えが記入され、授業に参加しようとする多くの手が挙がるのが確認できたことです。また、別の質問紙調査では、リスニング教材を歌のように扱うことで、しっかり取り組めたという回答がありました。生徒は、文章から情報を見つけ出すことができたことや、もっとも好きな活動は、正しい単語に下線を引く、穴埋めをする、仲間はずれを消す活動であることなどを答えてくれました。それでも音声が速すぎることもあり、情報を順番に並べることは難しいようでした。フォーカス・グループ・ディスカッションの参加者は、課題がうまくこなせるようになったことで、やる気が高まり、うまくいっている感じがすると述べています。このことは、別の相互観察でも確認されました。観察中、生徒は活動に集中していて他のことに気が散ることはなかったと、ある実習生が話してくれました。

振り返ってみると、アクション・リサーチを行うことが私の指導実践と生徒のリスニングスキルを向上させるのに役立つことを学びました。私たちが教師として生徒のニーズに合わせた指導を行う場合、生徒のリスニングスキルを高めることができます。このように取り組み続けるよう動機づける自分の変化にも気づくことができました。今後は、生徒が必要とすることによって、私のリスニングの指導法は変わるでしょう。最後に、簡単な行動で、教室で行っていることを変えたり改善したりできることを実感しました」

### 課題 2.3 @

ロレーナの話を読んで以下の問いに答えてみましょう。

1. ロレーナの当初の懸念は何でしたか。	
2. ロレーナの当初の問いは何でしたか。	

先に、研究には以下の特徴があることを述べました。

1. 答えるべき問い
2. 体系的なデータ収集
3. データの分析
4. 問いに対する答え

ロレーナが行ったことにこれらすべてが提示されていましたか。答えは、はいです。

研究の意思決定を行ったのは誰ですか。答えは、教師であるロレーナです。

これが研究なのです。教師によって主体的に実践される研究、つまり、実践研究なのです。

## 解説

教師であるロレーナは、自分のために、そして生徒のために研究を行いました。「どのリスニング活動であれば、私の生徒はよりよく聞き取ることができるのか」や「授業中、リスニングはどのように提示されているのか」といった、いくつかの悩み、あるいは、いくつかの(自分自身の)問いから彼女は研究を始め、同僚に授業を観察してもらったり生徒に質問したりしてデータを収集することで、問いの答えを見つけました。彼女はこのデータを慎重に検討(分析)して、リスニングの授業を行う方法についてどのような領域を改善すべきか、いくつかの結論に至りました。

## まとめとフォローアップ

この章では、教師が研究は「自分のため」にはあまりならないと思うことがよくあることについて考えました。そして、研究について明らかにするために、研究をいくつかの段階に分けたり、ロレーナという1人の教師がどのように研究に取り組んだかを示したり、そしてその研究は、彼女にとって、そして潜在的に生徒にとってとても役立つものであるということを示したりしました。これが実践研究であり、自分の仕事上重要だとと思われる問題に対し、教師によって主体的に始められ、実施される研究なのです。

## フォローアップ

もう1人のチャンピオン・ティーチャーであるレイラ・ヌニエスの話についても読んでみましょう。彼女は自分の生徒のライティング能力について理解することに関心があります。彼女の話(完全版)は以下で読むことができます。 <https://bit.ly/leylanunez>

話の中で、レイラは、同僚から洞察を得ました。彼女はどのようにしたのでしょうか。どのような点でそれは価値がある(もしくははない)とあなたは思いますか。レイラは生徒からも情報を集めました。この情報から彼女は何を学んだのでしょうか。最後に、あなたは彼女が提案する行動計画に同意するでしょうか。あなたなら、彼女の計画に何を付け足すでしょうか。



チャンピオン・ティーチャー:レイラ・ヌニエス

# 3. 探索的アクション・リサーチとは何か

前章では、研究の一般的な特徴について考察しました。また、「実践研究」とはどのようなもので、なぜ役立つのかを見てきました。本章では、「探索的アクション・リサーチ」のプロセスの中で、教師が状況を改善するために自分自身の実践を探索し、わかったことにもとづき行動するのに何が必要かについて、より詳しく見ていきましょう。



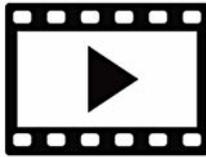
### 3.1 「探索」の価値

本章でとりあげる探索的アクション・リサーチとは、教師として自分の実践を探索、理解、改善する方法のことです。まず、「探索」の価値について検討し、状況を探索することが、その状況の変化に向けた適切な形の「行動」にどのように貢献するのかを考えていきます。まず、悩んでいる、もしくは、うまくいっていない教室の状況に対応している教師2名の事例を見てみましょう。

#### 課題 3.1 @

これらの状況について、以下の質問に答えましょう。答えは解答で確認することができます。

1. ある教師は、授業中の生徒のやる気が十分でないと感じていた。彼女は授業中に動画を使用することで、この状況を改善できないかと考え、歌や面白い動画、映画の切り抜き動画を用いた授業を計画することにした。
2. ある教師は、生徒が目標言語を使ってコミュニケーションをとることがほとんどないために、スピーキング力が高くないことに気づいた。この状況を変えるために、この教師は授業でより多くのグループワークを取り入れることにした。



これらの状況に共通していることは何でしょうか。A、B、Cから選びましょう。

- A. 両方の事例において、教師は状況についてのデータを収集した。
- B. 教師は状況を改善するために、ある種の「介入」もしくは「行動」を取り入れた。
- C. 教師は状況を改善したり理解したりするために何もしなかった。

#### 解説

素早く行動することは、教師にとって不可欠なスキルですが、とくに、もっとも重要な意思決定においては「正しく」行動しているかどうかを考えることも重要であるかもしれません。上の例1では、おそらく動画自体がやる気を起こすものであるという教師の信念のもとで動画を使用することを決めたのでしょう。しかし、生徒のやる気のなさが教材の種類よりむしろ、授業中に生徒が活発であることが許されていなかったという事実に関連していたらどうでしょう。この教師は動画の使用を決める前に、このことについて生徒に尋ねることはありませんでした。

実際、チリのチャンピオン・ティーチャーズ・プログラムのある教師もまた、生徒のやる気を向上させることに関心がありましたが、彼女は収集したデータから、授業中生徒に英語を話す機会をより多く与えることに、自身の焦点を変える必要があることに気づきました。「私が収集した情報から、練習のための十分な時間を与えていないことがわかりました。私は1回の授業もしくは週1回に1つのスピーキング活動しか行っていませんでした」と述べています。したがって、彼女の場合、テクノロジーを使った介入を取り入れたとしても状況を改善することはできなかったでしょう。

例2の教師は、授業中におけるスピーキングの時間を増やすために、生徒にグループワークをさせましたが、もし生徒がコミュニケーションのために必要な表現がわからなかったり、授業中に話すテーマに関心がなかったりしたために話していなかったとしたらどうでしょう。教師はグループワークをさせる前に生徒のスピーキング力や関心について確認することはなく、グループワークについて生徒がどう思っているかも確認することはありませんでした。

以下の対話を読んでみましょう。これは、悩んでいる状況を改善するために2名の教師の間で行われた実際の会話です。

- A: 去年、授業のために多読用の本を選ばなければならなかったのですが、どれを選ぶべきかわかりませんでした。
- B: あなたは本のカatalogを持っていましたよ。
- A: ええ、持っていましたが、生徒がどの本を気に入るのかわからなかったのです。
- B: なるほど。それでどうしたのですか。
- A: 多読用の本のタイトルを生徒に見せて、お気に入りのものを選ぶように伝えました。すると、生徒は動物の話を選んだのです。私はそれを全く予想できませんでした。
- B: なぜですか。どのタイトルを生徒が選ぶと思ったのですか。
- A: UFOとか幽霊とかそのようなもので、動物だとは全く思いませんでした。

課題3.1の例は、教師が状況を改善しようとしたり、すぐに行動に移って問いに答えようとしたりする状況を端的に表したものです。このような状況とは異なり、上の対話では、情報を収集することでどのように教師の悩みに答えたかがわかるでしょう。この場合、彼女は生徒に尋ねることで不確かな状況を探索しました。彼女は自分の選択が異なるものだったことを実感したときの驚きも報告していました。このことからわかるように、状況を詳しく調べずに早急に意思決定をすることは、データ収集を通して探索することができるような、なぜその状況が起きているのかといった理由にもとづくのではなく、誤った仮説や、(第1章で検討したように)単なる兆候や直感をもとにした仮説を立ててしまうことになる可能性があります。

### 3.2 探索的な研究:アンドレアの話 (パート 1)

ある状況を改善しようと試みる前にどのように探索することができるか、事例を見てみましょう。そして、アンドレアが自身の言葉で語った日々の話から、日々の実践にどのように探索を取り入れることができるかを見てみましょう。



私の名前はアンドレア・ローブルズです。チリのイキケで英語教師をしています。私は自分自身を新しい物、考え方、技術を探索する教師であると考え、自分の実践について振り返ることが多いです。

「私は、まとめの活動について悩んでいたため、この研究を始めることにしました。私は自分の授業のまとめ方が効率的でないか、おそらく私の活動が授業の学びや授業目的の達成を確実にするために、授業の終わりまで生徒を主体的に参加させるものになっていないと思いました。ウォームアップやメインの活動にとくに比重を置いて授業の準備をすることが多かったのですが、まとめの活動はしっかり行っていたかどうか疑問に思い始めました。

私の最初の問いは『まとめとは何か』ということでした。私にとってまとめとは、授業の最後の活動であり、生徒が学習したことを言語化したり、示したり、提出したりするものと考えていました。しかし、そうではなかったのかもしれませんが。そこで、私はまとめについての情報を得ようとインターネットで検索をはじめました。すると、私は、<https://busyteacher.org/> というサイトを見つけました。このウェブサイトには教師が様々なテーマで書いた記事がありました。幸いなことに、私は自分が探していたテーマに関連した記事を見つけることができました。その記事の中で、その教師は、まとめとは最後の活動であり、生徒によって行われるべきものであると述べていました。授業のまとめの部分においては、教師はファシリテーターの役割を持っていたのです。

その点で、私の考えていたことがその記事に書かれていたことに似ていると感じました。そのためなんとなく落ち着き、『迷う』ことはそれほどありませんでした。しかし、教師がファシリテーターとして補助的な役割を担っているということ、生徒が主役であること、もっとも重要なことは、情報は教師からではなく生徒から出てくるべきものであることが私の注意を引きました。

この行動のあと、このテーマについて何人かの同僚に尋ねてみることにしました。私には、まだ答えるべき問いがあったので、同僚の意見は役に立つかもしれないと思ったのです。私は以下の質問をしました。

1. まとめの活動を構成しているものは何か。
2. 授業をまとめることは必要か。それはなぜか。
3. まとめで直面する主要な困難点は何か。
4. まとめの活動を行うとき生徒はどのような反応をするか。

全体的に、まとめの活動の構成要素は(a)目標を思い出すこと、(b)授業の内容を確認すること、(c)授業の要約をすること、が同僚の答えでした。2名の教師はまとめの活動をそれほど重視していませんでしたが、2名は、教師が目標をどの程度達成したかを知ったり、生徒が授業の内容を確認したり、授業目標を達成したかどうかを確認したりすることが重要だと感じていました。まとめの活動について同僚から報告された主な問題点は、生徒が通常授業のまとめの部分に注意を向けず、時間が足りなくなり、生徒の行儀がよくないことでした。

この簡単な質問紙調査の後、生徒の参加がきわめて重要であるということ、つまり、授業のまとめの部分はやる気を出させるもので、かつ生徒中心でなければならないということ、そしてもっとも重要な問題の1つは時間であることをよりはっきりと理解しました。また、常に授業の目標を心に留めておくことが重要であるということもわかりました。そうすることで自分の目標がどの程度達成されたかを知ることができるのです。

私は自分の指導実践を振り返り、私のまとめの活動の特徴を認識し、それらを私が思うよいまとめの方法と比べました。

私のまとめ	私の理想のまとめ
私は、正解が1つではない、目的がはっきりしない質問を尋ねる傾向があり、授業のこの部分で生徒を指名することがありませんでした。	すべての子どもに参加する機会があるべきである。
まとめの活動は、5分ほどでした。	子どもは自分が学習したことを示さなければならない。
私は、授業のたびに同じ質問を使う傾向があり、その結果、それで生徒は授業が終わりに近づいていることがわかりました。私の質問は「今日の授業は何についてでしたか。今日の授業について教えてください。何を学びましたか」というものでした。	やる気を出させる活動。
「私は、生徒にインタビューすることにしました。そこで、BGMのある各活動に取り組んだ後、生徒がどのように感じたか、集中できていたかどうか、音楽が課題を終わらせるのに役に立ったかどうかなどを尋ねました」	次の授業まで内容を覚えてもらうための活動。

このすべてのプロセスのあと、生徒と関連する自分の『本当の研究』(と私が呼んでいるもの)を始めることに決めました。まず、私は、授業の最後に生徒がどのように反応しているのかについてもっと知りたいと思いました。そのため、私は授業を行って、まとめの活動と生徒の反応に注意しながら、その授業を行う私の様子を観察しよう同僚に頼みました。同僚はメモを取り、気づいたことを共有するために検討会を開きました。

私が授業を行ってみると、生徒がまとめの活動にあまり主体的に取り組んでいないことに気づきました。さらに、その活動に意欲的に参加した生徒はあまり多くなく、授業の内容を話すのを聞いていない生徒もいました。実際、この段階で参加していた生徒は、私が直接指示しなくても普段から喜んで参加する生徒でした。

その後、同僚との検討会でなされた報告でわかったことは、ほとんどの生徒が机の上を片付け始め、教室を出る準備をしており、ほんのわずかな生徒しか注意を向けていなかったことでした。

そういうことだったのか。頭の中で何かがひらめきました。すべてのことが積み重なって、私が感じたことが正しかったと感じました。まとめの活動では何かがうまく機能していなかったのです。

次の授業で、私は生徒に1枚の紙を配り、前の授業で何が起きたかを書くように言いました。私はそれを(母語の)スペイン語で指示したため、生徒には自分の考えを表現する機会が等しく与えられました。以下がその結果です。

- 23名が覚えていなかった。
- 3名が回答しなかった。
- 8名が正しく回答した。

ほとんどの生徒は何をしたか覚えておらず、覚えていた生徒は、本当に授業に参加したいと思っていた生徒でした」

### 課題 3.2 @

アンドレアは自分が認識した状況をどのように探索したのでしょうか。解答で自分の答えを確認しましょう。

以下の文を読んで与えられた語彙を使って空欄を埋めましょう。



アンドレアは授業を(1 \_\_\_\_\_)方法が効果的かどうかわからなかったため、この研究を行うことにした。この状況を明確にするために、アンドレアはいくつかの(2 \_\_\_\_\_)を思いついた。それから、彼女の問いに答えるため

に、彼女は同僚に(3 \_\_\_\_\_)を行い、インターネットを検索し同僚に自分の授業を(4 \_\_\_\_\_)するよう頼んだ。彼女はまた生徒に授業の何を覚えているかを思い出すよう求めた。アンドレアは彼女が必要としていたすべての(5 \_\_\_\_\_)を収集した後、彼女は状況を(6 \_\_\_\_\_)、その状況をよりよく(7 \_\_\_\_\_)ことができた。

アンドレアの経験をより詳しく見て、もう少し理解するようにしてみましょう。彼女が「悩み」と呼ぶもの(彼女の場合、明確な「問題」ではなく、必ずしもすぐに解決が必要でないもの)から始めています。授業をまとめるための新しい方法をすぐに試すのではなく、彼女は状況を理解することにしたのです。

ある意味では、彼女はそうすることで「慣れ親しんだものを未知のものにした」のです。つまり、慣れ親しんだものを新しい視点から見たのです。私たちが直面する問題のある、もしくは悩んでいる状況から一歩下がって客観的に見ることは、難しいですが、とても効果的かもしれません。教師はとにかく課題を解決することに飛びつく誘惑に駆られがちですが、一歩引いてみることも重要です。

しかし、探索するときは何をするのでしょうか。アンドレアの探索を見ていくと、私たちは以下の段階を確認することができます。それが「探索的な研究」を特徴づけるものです。

#### A. 探索のための計画を立てる(問いとデータを得る方法について計画する)

これは、自分の実践を振り返る段階であり、焦点を当てる領域や状況を定める段階です。ここでは、答えるべき問いを考えたり、尋ねられている問いに答えるための情報を収集する方法を計画したりします。

#### B. 探索する(データを集める)

ここでは、認識した状況を明らかにするためにデータを収集します。重要なことは、効果的にデータを分析したり解釈したりできるよう順序立てて収集することです。

#### C. 分析と振り返りを行う(データにもとづいて問いに答える)

ここは、全体のプロセスを分析し、起きたことについて振り返る段階です。ここでは、もし必要であれば行動計画を後に作るために、あなたが特定した、悩んでいる、あるいは、うまくいっていない状況を明確にすることができます。

### 課題 3.3 @

上で見たステップをもとに、アンドレアが探索中に行ったことを要約した文を読み、それらに対応する段階と合わせましょう(左にある活動の順番はバラバラになっており、右のAとBに対しては2つ以上の活動が入ります)。その後、解答例で答えを確認しましょう。

1. 問題を明確にするために役立つ質問をする。

2. 同僚に授業を観察するよう依頼する。

3. ウェブ上で「まとめ」の意味を調べ明確にする。

4. 得られたすべての情報を分析し、自分の「まとめ」の効果について結論を出す。

5. 授業のまとめ方が、指導の中で問題のある部分であることを確認する。

6. 同僚に質問紙を配り、「まとめの活動」についての認識を尋ねる。

A. 探索のための計画を立てる

B. 探索する

C. 分析と振り返りを行う

### 3.3 アクション・リサーチ:アンドレアの話 (パート 2)

私たちは、ある特定の状況を探査する研究がどのようなものであるかを見てきました。教師の中には状況を探査するだけで十分である可能性もあり(それで状況が解決すると気づくことがあるかもしれませんが)、このタイプの探索的な研究については次のいくつかの章でも焦点を当てていきます(第6章まで)。しかし、本書ではこのような研究がどのように「アクション・リサーチ」(変化を起こそうと試み、何が起こるかを体系的に観察する方法)になりえるかについて考えます。

アンドレアの授業のまとめ方の事例に戻りましょう。以下に、アンドレアが研究をどのように続けたかを見ることができません。

「その瞬間、私は何かをしなければならぬと決めました。この状況を変えるために変化を起こさなければならぬのでした。それで、私は同僚に再度私の教室に来て授業を観察しメモを取り、授業について話す検討会を再度開くよう依頼しました。

今回は、活動を変えることにしました...『覚えておきたい何かを勉強するとき、役立つことは何か』を考え始め、私にとって効果的だった活動がマインドマップであることに気づきました。私は授業を普段通り行い、授業を終えなければならないときに、マインドマップにより多くの時間をとりました。その活動を授業終了のチャイム10分前に始めました。生徒にペアワークをするように言い、授業で学んだすべてのことについてマップを描くよう伝えました。パートナーと話す、メモを取る、色を使う、といったことを生徒は行いました。

クラスの前でマップについて生徒に説明させるためにランダムにグループを指名しました。生徒はマップを描き、それについて説明しました。すると驚くことに、その他のグループが授業で得た情報、生徒が作った具体例、そして生徒が以前に学んだことを描き加え始めたのです。生徒の多くがこの最後の活動に取り組んでいたため、何かが変わったことに気がついたのです。

検討会で同僚から報告されたこととして、すべての生徒がその活動に主体的に取り組む、グループ内で考えを共有し、補足情報を付け加えながら意見を言っていたこと、すべての生徒が、つまり、前回の授業で集中していなかった生徒でさえ、とてもやる気に満ちているのが見えたことがありました。

次の授業では、最初に観察してもらった授業と同じ方法を繰り返しました。具体的には、生徒に対して1枚の紙に(母語であるスペイン語で)前回の授業について覚えていることを書くように言いました。生徒の答えは以下の通りです。

- 30名が前回の授業内容を覚えていた(そして多くの生徒がマップを描いた活動を覚えていた)。
- 4名の生徒は覚えていなかった。

生徒のほとんどが前回の授業を覚えていました。ですから、私が前回の内容を振り返れば、学習が前回の授業と関連付けられ、意味のあるものになる可能性があります。授業に変化を起こすことができれば、状況を完全に変わることができると、そして、もっとも重要なことは、変化を起こすことはそれほど難しいことではなく、生徒に影響を与えるということです。

もっと研究をしたり振り返りを行ったりする必要があると思っています。しかし、本当に確信したのは、まとめの活動がとても重要だということです。生徒が学んだことを振り返ることができる活動をじっくり探す必要があります。ここでは教師として接するのではなく、支援者として接するのです。あえて言うなら、まとめの活動は学習者のメタ認知能力を発達させなければならないのです。

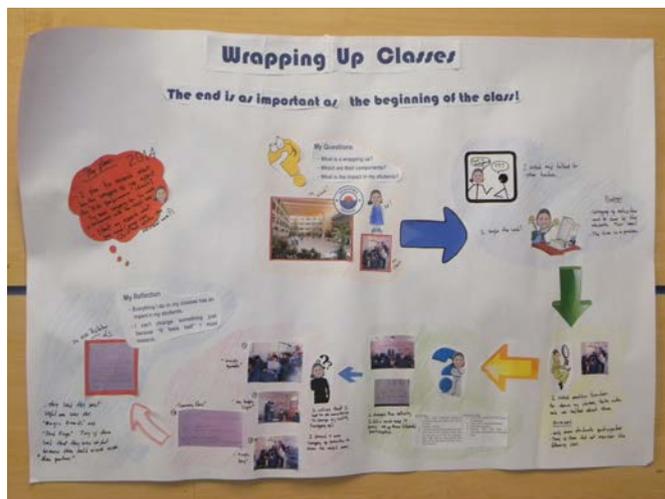
より多くの問いが私の中で生まれました。私はさらなる変化をもたらし、再び研究を行い、その結果をまた共有しようと思います」

### 解説

ここでは、アンドレアが、後の行動に活かすため、探索の際に集めた情報を使うことで、どのように探索から行動に移っていったかを見ることができます。例えば、彼女の同僚が、彼女がいつも同じ指導方法(生徒に質問する形)をとっていると伝えたため、彼女は授業をまとめる方法を変えることにしました。彼女が集めた情報から、生徒が授業内容を覚えておくために支援が必要であることを彼女は学びました。それで生徒の記憶を補助するためにマインドマップを使うと決めたのです。結論として、アンドレアは状況を探索し、その後、理解したことをもとに、それに従って行動を起こしました。その変化がうまくいくかどうか確かめるために、彼女はさらにデータも取ったのです。

### 課題 3.4 @

ある与えられた状況で教師が何をしたかを描写する以下の一連の出来事を見てください。これらの教師が状況を探索しようとしているのか、その状況に対しすぐに行動しようとしているのかを考えましょう。そして自分の答えを解答で確認しましょう。



1. 生徒が授業中に携帯電話を使いたいと主張していることにある教師が気づいた。この状況に対応するために、言語学習を目的として携帯電話を使わせるような活動を計画した。

- A. 教師は状況をまず探索している。
- B. 教師は状況に対しすぐに行動している。

2. 同僚が生徒のグループをまとめるのに苦労していた。生徒に尋ねたところ、活動が楽しくないので受け身になっていたと主張した。

- A. 教師は状況をまず探索している。
- B. 教師は状況に対しすぐに行動している。

3. ある教師は生徒に歌を教えたいと思っていた。生徒が何の曲が好きか疑問に思ったため、それを知るために生徒に調査を行った。これをもとに、最新のポップソングを教えることにした。

- A. 教師は状況をまず探索している。
- B. 教師は状況に対しすぐに行動している。

アンドレアの研究の「行動」の部分には、研究の探索の部分と同じ要素(データ収集、分析、解釈)が含まれています。ただし、状況を広く探索するよりも、実行されている「行動」を評価することに重点が置かれています。彼女の研究の行動部分におけるこの段階は、以下のように識別されます。

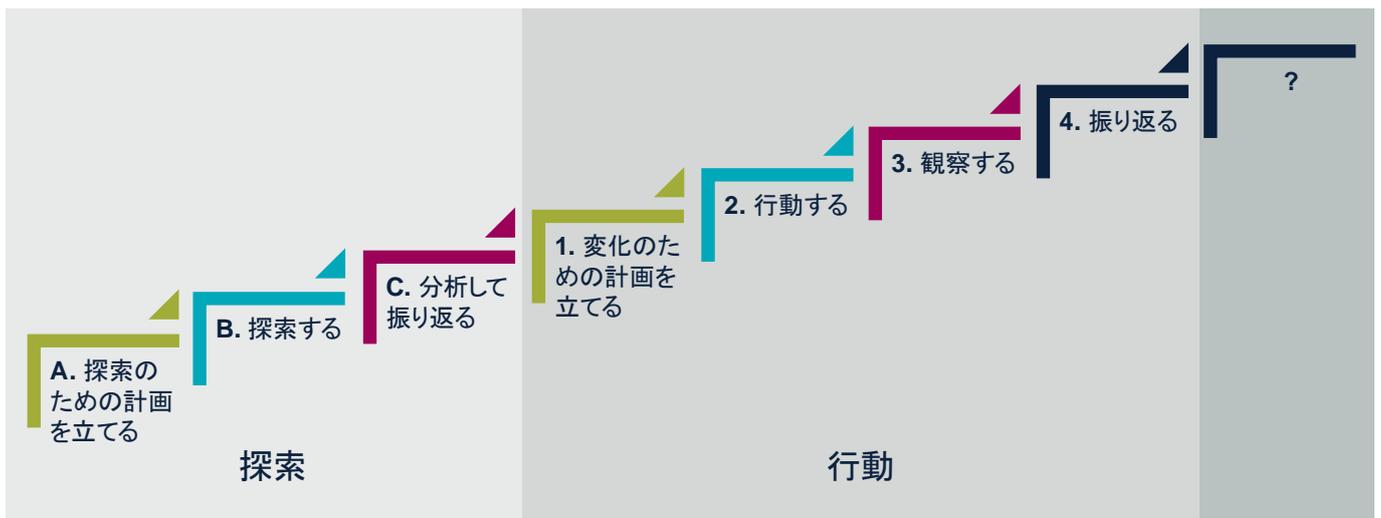
1. (変化のための)計画を立てる  
この段階では、何を変えるかを決め、何が起きるかを見るさらなるデータの集め方を計画します。
2. 行動する(変化を実行する)  
計画した変化(「介入」)を行動に移します。
3. 観察する(データをもとに何が起きるのを見る)  
介入が起こっている間、もしくは起こった後にデータを収集し、それを分析します。
4. 振り返る(何が起きたのかを解釈する)  
ここは、何が起きたのか解釈を行い、とくに介入の効果について振り返り、さらに必要と思われる行動について検討する段階です。もちろん、さらなる研究が必要だと考えるかもしれません。その場合、(A)に戻ってさらに探索するか、(1)のさらなるアクション・リサーチを行うことになります。

### 3.4 それで、探索的アクション・リサーチとは何か

探索的アクション・リサーチとは、探索的な研究(アンドレアの話のパート1(上記3.2))の後にアクション・リサーチ(アンドレアの話のパート2(上記3.3))が行われるものです。言い換えれば、全体のプロセスは以下ようになります。

- A. 探索のための計画を立てる(問いとデータの収集方法を計画する)
  - B. 探索する(データを収集する)
  - C. 分析と振り返りを行う(データをもとに問いに答える)
- 
1. (変化のための)計画を立てる
  2. 行動する(変化を実行する)
  3. 観察する(データをもとに何が起きるのを見る)
  4. 振り返る(何が起きたのかを解釈する)

このように探索的アクション・リサーチを図示できます。



探索的アクション・リサーチのステップ

### 課題 3.5

上で強調されたように、アクション・リサーチに取り組む前には十分な探索がとても重要になります。それはなぜでしょうか。先を読み進める前にあなたが考える理由を1つ2つ書き留めておきましょう。ヒント:課題3.1や3.4で読んだ話を思い出してみてください。



---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

状況を変える行動を計画する前に状況を探索する、もっともな理由が少なくとも3つあります。

1) 何をすべきかを決める前に、私たちは現在の状況について理解する必要があります。教師として、私たちは教室内で何が起きているのかを理解していると思っていますが、必ずしもそうとは限りません。課題3.1の問題解決(と関連した解説)の例は、探索しなければ、私たちは簡単に誤った行動をとって状況をさらに悪くしてしまうこともあることを示しています。

2) 私たちの行動が成功したかどうかを決めるには、その状況を行動前の状況と比較する必要があります。初めの状況を探索しデータを収集することで、その状況についての十分な情報を得ることができます。関連した別の利点は、新たな行動後にも同じような方法で情報を収集することができ、状況を比較することが容易になることです。

3) 日々の指導と教室内での探索を組み合わせることはそれほど難しくありません。教師の負担を増やしすぎず、普段行っていることと探索をうまく合わせるべきです。探索とは本質的に、状況を異なった方法で見たり、詳しく見たりすることを意味します。これまでに見てきたように、様々な理由から利点があるのです。

第2章とこの章のアンドレアの話で見たように、研究は問いから始まり、自分に尋ねた問いとともに成長します。そして、ここで、探索的アクション・リサーチが2つの異なる基本的な研究の問いを持つということを強調しておくことが役立つかもしれません。そしてそれは、「探索的アクション・リサーチのステップ」の図に示されている2つの別々の局面(探索と行動)に関連しています。

#### 探索

探索型の研究課題(exploratory research question):

現在の状況はどのようなものか。

#### 行動

改善型の研究課題(action research question):

私が試みた変化の効果は何か。

この2つの主な問いだけが探索的アクション・リサーチに必要です。これらをより具体的かつ詳細にすることもできますが、私たちが行うべきことは、この2つの問いに答えることだけなのです。

この段階で、問いについての疑問があるかもしれません。認識した関心や困難をこれらの問いに合わせてどのように探索できるのか、もしくは、より具体的な問いの例を見たいと思うかもしれません。心配しないでください。それらはすぐに出てきます。本書の残りの部分では、以下の通り探索的アクション・リサーチの各ステップについてより詳しく見ていきます。

#### 探索型の研究(exploratory research)

- 課題、関心もしくは悩みを明確にして具体的な問いを決める。[第4章]
- 問いに答えるために必要となるデータを収集する。[第5章]
- 問いに答え、状況をよりよく理解するためにデータを分析し解釈する。[第6章]

これら3つのステップで十分であるかもしれないことを覚えておいてください。あなたが得る新たな理解はそれ自身が様々な形で役立つでしょう。または、アクション・リサーチの形に発展させたいと思うかもしれません。

#### アクション・リサーチ(action research)

- 変化のための計画を立て、実施する。[第7章]
- 何が起きているのかを観察し、変化を評価し、次に行いたいことを考える。[第8章]

## まとめとフォローアップ

この章では、探索することの価値を見てきました。とくに、児童生徒を指導する日々の課題に教師が没頭しているときには、状況についての教師の認識は、現実と一致しているとは限らないことも指摘しました。アンドレアの話をもとに、直面する状況を探索し理解した後に初めて、彼女のとった行動が可能になったことがわかりました。また、探索的アクション・リサーチの7つのステップを認識しました。最初の3つのステップは探索についてのものであり、残りの4つのステップは行動についてのものでした。本書の残りの章も楽しみにしています。

## フォローアップ

第2章のロレーナの話は今度はより詳しく振り返ってみてください。以下のリンクよりアクセス可能です。<https://bit.ly/lorenamunoz>

ここでは、より完全な探索的アクション・リサーチのプロジェクトについて記述しています。各ステップで行ったことについての彼女のメモをもとに、以下の表を完成させてください。最初のステップは例として示されています。

探索的アクション・リサーチのステップ		ロレーナは何をしたのか。
A	探索のための計画を立てる	彼女はリスニング活動についての問題に気づき、取り組むべき4つの問いを決めました。
B	探索する	
C	分析し振り返る	
1	変化のための計画を立てる	
2	行動する	
3	観察する	
4	振り返る	

# 4. 何を探索し、何を問いと するか

探索的アクション・リサーチとはどのようなものか、理論的にも、これまでに紹介した何人かの教師の実践からも、かなり明確なイメージがすでにもっているはず。さらに理解したい場合は、チリのチャンピオン・ティーチャーズ・プロジェクトの教師の話を読んでみるとよいでしょう。また、このハンドブックでこれまで何度も参照し、今後も参照し続けることになる姉妹本の *Champion Teachers: Stories of Exploratory Research* (<http://bit.ly/champion-teachers>)でも教師の話を読むことができます。準備ができれば、自分の研究を始める方法を明らかにするために、本書を読み進めましょう。

**How to motivate my 10<sup>th</sup> Grade Students to WORK during my class?**

**What are the activities my 10<sup>th</sup> graders like the most?**

- Q: 36% No fav, 36% Nothing, 72% 🤔
- Would? 33% Music, 18% Groups, 18% hands & Drawings

**What do my 10<sup>th</sup> graders do during the English class?**

- 42% DO NOT PAY ATTENTION 🤔
- 28% WATCH THE PHONE 📱

**What do my 10<sup>th</sup> graders expect from the English class?**

- Q: 22,2% 😞
- "FUN" 😊

**How do I react when my 10<sup>th</sup> graders do not work in class?**

- "REPEAT" 🙅
- "CLEAR" 🗑️
- "NICE" 😊

**Actions**

🎵 + 👥 + 🙌 = 75% Yes! 👍

**Participation?**

- Regular class x 19 😞
- MUSIC x 13 😊

## 4.1 研究をする動機

前章では、アンドレアの研究テーマが、これまでに読んだ本や他の誰かの提案からではなく、彼女自身の指導について抱いていた関心事から始まったことを紹介しました。第2章では、実践研究は主に教師(と学習者)自身のためのものであり、教師にとってさらなる負担にならないよう管理しやすい方法で行われるべきであるということも述べました。

そう考えると、あなたの研究の主な動機は、外部からではなく、自分、自分自身の経験、目的、必要性からくるものであることは至極当然です。そうだとすると、おそらく次のように思うかもしれません。「でも、どう始めればよいのだろう。私の授業に起きている多くのこと、取り組むべき問題や解決すべき問題、解決すべき悩み(puzzle)がこんなにたくさんあるのに」まずは、あなたの研究は、a) 成功例、b) 悩み、c) うまくいっていない状況、から始まることを念頭に置くことが重要です。

### A. 成功例: うまくいったこと、さらに探索してみたいこと

例えば、読解力を高めるために短い物語を使うと、生徒の読解力が向上することに気づいたとします。生徒のスキルのどの側面が向上したのか、どのような物語だとよりうまくいくのかを知りたいと思うかもしれません。また、他のジャンルの物語(漫画など)でも同じように期待される効果が得られるかどうかを調べたいと思うかもしれません。

### B. 悩み: 児童生徒や児童生徒の学びについての疑問や問い

例えば、授業が退屈だと生徒があなたに何度も言ってきたとします。しばらく生徒を観察していると、より活発な活動を計画したとしても、授業に十分取り組んでいないことに気づきます。生徒が授業についてどう考えているのか、どうすれば生徒にとって魅力的な授業になるのかを知りたいと思うでしょう。

### C. うまくいっていない状況: うまくいかなかったこと、その理由を知りたいと思っていること

例えば、生徒が自信を持ってその言語を話せるようになるために、授業でロールプレイを使い始めたとします。しかし、その活動への生徒の反応はよくなく、人前で話すときに恥ずかしさや不安をまだ感じているようです。なぜこのようなことが起こっているのかを知りたいと思うかもしれません。



ほとんどの教師は、取り組みたい課題を数多く抱えています。焦点を絞る最初の段階として有効な方法は、日々の授業での様々な分野やカテゴリーを考えることです。ここでは、マイケル・ウォレス<sup>1</sup>が提案したカテゴリーを参考にして、以下のリストを作成しました。

- A. クラス運営: 児童生徒の行動、教室の配置などに関する状況
- B. 適切な教材: 教科書、読み物、ICT機器に関する問題
- C. 特定の指導分野: スキルの指導(例: ライティング)、内容(例: 文法や発音)、全体的なアプローチ(例: タスクにもとづく学習)に関する状況
- D. 児童生徒の態度、達成度、やる気: 児童生徒の興味、成長などに関する問題。ここには、児童生徒と教師の信頼関係に関する問題も含まれる。
- E. その他

<sup>1</sup> Wallace, M, 1997. Action Research for Language Teachers. Cambridge: Cambridge University Press.

### 課題 4.1

上記のカテゴリーを使用して、あなたがさらに調べてみたい特定の事柄(築き上げてきた成功の場合)、明確にしたい問題(悩みの場合)、解決・改善したい問題(うまくいっていない状況の場合)についてメモをしながら、次の表を完成させてみてください。

カテゴリー	あなた自身の問題(複数可)
A. クラス運営	
B. 適切な教材	
C. 特定の指導分野	
D. 児童生徒の態度、達成度、やる気	
E. その他	

### 課題 4.2 @

アンドレアとレイラの話(第3章を参照)をもう一度読んでください。この教師たちの研究の主な動機(成功例、悩み、うまくいかなかった状況)を特定し、日々の授業に関するどのカテゴリー(上記の課題4.1のAからEまで)にもっとも関連しているかを考えてみましょう。

1. アンドレアの授業のまとめについての話	
動機とカテゴリー:	

2. レイラの書くことについての話	
動機とカテゴリー:	

問題、悩み、疑問、心配、あるいは成功でさえ、どのようなことから始めようとも、これらの1つに焦点を当てることを決め(一度にすべての関心事に対応することはできないため)、その焦点に関連するいくつかの問いを考える必要があります。本章の残りでは、まず、焦点を見つける手助けをします。その後、「よい」問いの立て方に進みます。それで研究を始める準備がほぼ整います。

教室には研究対象となる興味深いものが数多くあるため、ある特定のテーマに絞り込んで問いを決めるのは難しく、ときには、研究のプロセスの中でもっとも難しい箇所です。

## 4.2 あなた自身の動機と焦点の絞り込み

先に見た動機は、実践研究を通して、あなたの教室、児童生徒、指導をより理解し、それらを変えることにつながります。しかし、研究を行うためには、まず特定のテーマを選択する必要があります。言い換えると、可能性のあるすべての焦点から主要な焦点に絞るのです。以下の課題は、そのために役立つでしょう。

### 課題 4.3

課題4.1の答えを念頭に置いて、以下のそれぞれの状況に当てはまる文章を埋めてみましょう。

a) うまくいったこと、もっと調べてみたいこと:

私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ が嬉しい。

b) 児童生徒と児童生徒の学びについての疑問や問い:

私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ についてよくわからない。

c) うまくいかなかったこと、その理由を知りたいと思うこと:

私は \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ に不満だ。

自分が探索したいと思い、さらに追求する価値があると思うテーマに気づいたかもしれません。しかし、いくつかのテーマは、あなたやあなたの学習者にとって、他のテーマよりも取り組みやすく関連性が高い可能性があります。テーマのリストを絞り込むには、「MUSE」と呼ばれる要素を検討することをお勧めします。これは、研究テーマになりうる各テーマが、「管理が可能なもの」「緊急性が高いもの」「重要性が高いもの」「魅力的なもの」の4つの要素をどの程度備えているかを示すものです。

### 管理が可能なもの (Manageable)

これは、普段は軽視される基準ですが、心に留めておくことが大切です。限られた時間の中で、実際に自分で探索できる研究テーマを選ぶことがとても重要です。地元での英語教育の教育課程や教科書の使用状況についてより理解することに興味があるかもしれませんが、それを実行できるかどうかを検討する必要があります。より効果的な授業を可能にする様々な教室のレイアウトを検討したい場合、実際に教室のレイアウトを変更できるかどうかを考える必要があります。これらの場合、答えが「いいえ」であれば、別のテーマを検討した方がよいでしょう。



### 緊急性が高いもの (Urgent)

例えば、自分や学習者の心の健康に影響を与え、学習にも影響を与えているような何かがある場合、様々な理由から、できるだけ早く対応すべき問題があります。数ヶ月間、ある学習者のグループを教えていて、学習者の行動が原因で、何ら改善が見られないことに気づいたとします。この場合、とくに時間も1つの要因になっているとき、この状況を調べてみることは、他の分野を調べるよりも緊急性が高いかもしれません。



### 重要性が高いもの (Significant)

焦点を当てる分野は、重要なことである必要もあります。つまり、それは、あなたやあなたの学習者、さらには、あなたの学校も場合によっては恩恵を受けるものであるということです。例えば、学習者が自分のレベルに合った読み書きはできるのに、話し言葉でのコミュニケーションができないことに気づいたとしたら、この問題に取り組むとよいでしょう。これは（「緊急性が高いもの」の場合と違って）すぐに対処すべき差し迫った必要性はないかもしれませんが、学習者は読み書きだけでなく、話し言葉も育成する必要があることをあなたがわかっているため重要だと言えます。同様に、もしクラス運営があなたの学校で懸念される全般的な問題であることに気づいた場合も、このカテゴリーのテーマは重要であると考えられます。



### 魅力的なもの (Engaging)

選ぶテーマが、あなたにとって興味深く、集中して時間をかけたいと思えるものであることが重要です。あなたが単に読んだことがある分野や焦点を当てる「べき」と言われた分野に焦点を当ててしまうと、研究を進めることが負担になるかもしれません。探索的アクション・リサーチは、あなたとあなたの学習者の両方が楽しめる活動であることが理想です。



### 課題 4.4

課題4.3で書いたアイデアを、研究を行う動機になるものとして見てみましょう。ここでは、それらをMUSEの基準に沿って評価し、以下の表にチェック(または5点満点で点数)をつけてください。できれば、あなたのテーマの1つが、すべての項目にチェックが入るとよいでしょう。

				
	管理が可能なもの	緊急性が高いもの	重要性が高いもの	魅力的なもの
1				
2				
3				

もし、それでもテーマが決まらない場合は、あなたの思考を促すために、次のような形式で1週間日誌をつけてみましょう。

1. 今日の授業で気に入ったこと .....
2. 今日の授業で迷っていること .....
3. 今日の授業でうまくいかなかったこと .....

1週間後、日誌を振り返り自分のアイデアを読んでみましょう。テーマになりそうなものが見つかるかもしれません。もし見つからなくても、落胆しないでください。自分が研究する分野について納得できるまで、時間をかけて日誌を書き続けるとよいでしょう。また、困ったことや気になることがあれば、同僚に相談してみるのもよいでしょう。焦点を当てる分野を選択するのに役立つはずですよ。

### 4.3 テーマから探索型の問いまで

前章では、自分の実践を探索し、実践を理解し、実践に潜在的な変化をもたらす方法として、探索的アクション・リサーチ (EAR) を紹介しました。

EARプロジェクトを始めるよい方法の1つは、あなたが焦点を当てるテーマや分野を選択し、それを「紐解く」ことです。これは、さらにその内側を探索することを意味します。別の例えで言うと、このプロセスは玉ねぎの皮をむくようなものです。



玉ねぎの皮をむく前に見えるのは、外側の層、つまり私たちの目に見える部分です。その後、玉ねぎをむいていくと、次から次へと層が現れます。

このプロセスを、考えられる研究テーマに当てはめてみると、最終的には、主要な問いや疑問にたどり着くのに役立つ、あるいは、すぐには見えないものを「見る」ことを助ける、一連の問いになります。ときには、ある状況に没頭するあまり、問題を明らかにする方法を思いつくのが難しいこともあります。このような場合には、批評してくれる友人の助けがとても有効であり、お勧めです。批評してくれる友人には、信頼できる同僚やメンター（指導を仰ぐことのできる経験豊富な同僚）の場合があります。前章では、アンドレアが授業のまとめ方の研究について語っていました。アンドレアには、研究を支援してくれるメンターがいました。

アンドレアが研究を始めたときにメンターと交わした会話の抜粋を以下に示します。この対話を見れば、メンターがどのようにアンドレアの「玉ねぎの皮むき」と、研究課題の設定を始める手助けをしたかがわかるでしょう。

**アンドレア:** 私がとくに興味があるのは、どのように授業をまとめるかということです。それが効果的でないとまさに感じています。

**メンター:** どのように「授業をまとめる」かとあなたは言いましたが、具体的には授業のどの部分を指していて、どのくらいの時間をかけるのですか。

**アンドレア:** 授業のほんの最後、つまり、最後の5分です。

**メンター:** 「効果的でない」というのは、具体的にどういことですか。何が気に入らないのですか。

**アンドレア:** わかりませんが、ただ正しくないと感じ、うまくいっていないと感じることがあります。授業をまとめても、自分が見たいと思うものが見えてきません。よいとは思えないのです。

**メンター:** でも、「よい」とはどういうことですか。あなたにとって「効果的な」授業のまとめ方とはどのようなものですか。

**アンドレア:** そうですね。授業の主要なテーマをつかむことだと思います。長くなりすぎはいけないということを読んだこともあります。

**メンター:** なるほど。このことについて同僚に尋ねてみたことはありますか。

**アンドレア:** とくにありません。

**メンター:** それについて文献を読んでみるのもよいでしょうか。同僚にも聞いてみるとか。

**アンドレア:** ええ、それはよい考えです。

**メンター:** あなたの授業のこの部分について、生徒がどう思っているか聞いてみましたか。

**アンドレア:** いいえ、生徒に聞くことは考えていませんでした。それもいいかもしれません。

**メンター:** 授業のその部分であなたはどのようなことをしますか。

**アンドレア:** 生徒に授業の要点をまとめてもらいます。



**メンター:** どうやってそれをやりますか。

**アンドレア:** その日に学んだことを聞くのですが、それではうまくいっていないのかもしれない。

**メンター:** 自分のしていることを十分に自覚していますか。自分のしていることをリストにできますか。

**アンドレア:** そうですね、あっという間に終わってしまいます。

**メンター:** 自分のしていることをもっと詳しく見てみることは役立ちますか。

**アンドレア:** はい、もちろんです。自分では気づかなくうちにしていることがありますから。

**メンター:** 授業のまとめについての悩みから、より多くの情報を得るために必要なものは何でしょうか。

**アンドレア:** 効果的な授業のまとめ方とは理想的にはどのようなものなのかを知る必要があると思います。また、私が授業のまとめをするときに実際に何が起こるのかも知る必要があります。そして、授業のこの部分について生徒がどう考えているのかももっと知るべきだと思います。

今読み終えた対話は、アンドレアがメンターの助けを借りて、どのようにEARの探索の段階に集中できるようになったかを示しています。これは、批評してくれる友人の助けを借りたり、1人でやってみたりすることもできるでしょう。

## 課題 4.5 @

前のページのアンドレアとメンターの会話は、ある特定の状況についてどのように様々な問いができるかを示しています。この会話にもとづけば、アンドレアの主な探索型の問いは何だと思えますか。

1	
2	
3	

解答を見て、彼女が実際に答えようとした研究課題を見つけてください。

### 4.4 テレサの探索型の問い

ここまで見てきたように、状況をよりよく理解し、効果的にデータを収集するためには、特定の問いや複数の問いを用意しておくことが重要であり、そうすることで、後で証拠をもとに答えを出すことができます。

ここでは、チリのチャンピオン・ティーチャー、テレサ・リオスの例を、彼女自身の言葉で紹介します(第1章のフォローアップ課題に取り組んでいる場合、彼女の研究について第三者の立場ですでに皆さんは読んでいます)。テレサは高校教師で、授業中に生徒が英語を話さないことを心配していました。どのように主要なテーマの領域から探索型の問い(exploratory questions)を提案しているかに注目して、彼女の説明を読んでみてください。

「生徒が学んでいる言葉を使うことは生徒にとって重要であると思っています。生徒は、簡単な文章を読み書きすることはできますが、期待されたほど授業中に話さないことに気づきました。伝えるべきことを伝えるための語彙が不足しているのではないか、自分の考えや意見、何でも言いたいことを口に出してなかなか伝えられないのではないかと思います。なぜ生徒が授業で話さないのかを知りたかったのです。なぜ口頭で言葉を使うことが生徒にとってそんなに難しかったのでしょうか。

国が示す教育課程では、話すことを重視する必要があるとされているため、私は生徒に授業で話してほしいのです。

学校で英語を学び始めたときから生徒が身につけている、あるいは、現在身につけようとしている言語を、簡単なパターンを用いながら使う際、何が問題なのかを私は確認したかったのです。話すことは、もっとも育成するのが難しいスキルの1つだとわかっています。

このプロジェクトを進展させるために、私の最初の研究課題は以下の通りとしました。

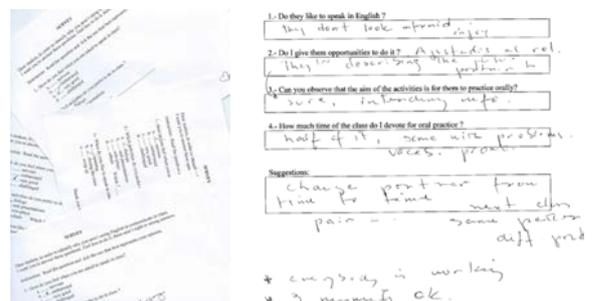
- 私の生徒が授業中に話さないのはなぜか。
- 私の生徒は英語で話すことは好きなのか。
- 生徒が授業で話すためにどのような機会があるのか。

これらの質問を念頭に置いて、自分の授業を振り返る必要があったため、同僚2名に、生徒に口頭で練習させるためにどのような活動を行っているかを尋ねてみました。『生徒にもっと自由に話させるために、授業でどのような指導を行っているのか』という単純な質問です。2名とも『対話』と答え、まずはガイド付きの会話から始め、より個々の生徒に応じたものにしていったとのことでした。

次に、どの活動が一番好きか、いつ話したいと思ったか(授業の最初か最後か)、いつ口頭による活動をしたかについてのデータを集めるために、生徒用の質問紙を用意しました。授業中の気持ちや好きな活動についての3つの質問です。

その後、同僚の教師を招いて私の授業を見学してもらい、生徒に口頭練習をさせるためにどのような活動をしているか確認してもらいました。彼には『好意的な批評のための訪問』にするために、質問が書かれた紙を渡しました。

質問紙調査の後、私は、生徒にどんな活動が一番好きか、あるいは嫌いか、どんなことを口頭でするのが好きかなどを尋ねて形式ばらない会話もしました。



上で述べた方法の後、生徒がもっとも好きな活動について興味深いことがわかりました。生徒は寸劇や対話を好み、魅力的だと感じたものの1つに観光がありました。生徒の1人は、町で観光客に会ったときに話さなければならない必要性について言及しました。私たちは観光客が多い地域に住んでいますが、生徒は、観光客にどのように話しかけるか、町のどこかに行くための道順や指示、案内をどのように伝えるかを学びたいと言っていました。

生徒は、授業でもっと話したいと言っていました。

私の同僚は、生徒が1人の相手としか話をしておらず、話す機会が少ないことを指摘し、話す相手を替えることを提案してくれました。

私が収集した情報によれば、生徒に十分な練習時間を与えていませんでした。1回の授業で1回、あるいは週に1回しかスピーキング活動を行っていませんでした。

上記の話の中で、テレサが、どのように問題となっている状況をさらに探り、そのための問いを自分に投げかけることで、研究を始めようと決めたかを見ることができました。テレサの主な探索型の問いは、次のようなものでした。

■ 私の生徒が授業中に話さないのはなぜか。

そして、彼女は2つのことにとくに興味を持っていました。

■ 私の生徒は英語で話すことは好きなのか。

■ 生徒が授業で話すためにどのような機会があるのか。

見てわかる通り、これらの問いは次のことを試みています。

- A. 主要な問題を明確にし理解する。
- B. 研究プロセスに方向性を与える。
- C. 行動に移る前に、その教師が自分の文脈で答えを見つけるのを助ける。

## 4.5 あなた自身の問い

あなた自身の探索型の問いを考えるために、(1) あなた自身の認識を探る問い、(2) 他者の認識(とくに児童生徒の認識)を探る問い、(3) 行動(児童生徒の行動、あなたの行動も)を探る問いを考えることができます。

1. 自分自身の認識を探ることは、なぜある状況が自分にとって重要なのか、それについて何を理解しているのか、何を期待しているのかを明らかにするために重要であり、その状況に不満がある場合にはとくに重要です。第3章のアンドレアの場合、なぜ自分が授業のまとめの展開方法に不満を感じているのかを明らかにするために、授業のまとめとは何かを理解する必要がありました。その結果、彼女は効果的な授業のまとめについての考え方を探る必要がありました。
2. 他者の認識を探ることも重要な着目点です。ある状況を完全に理解するためには、学習者(場合によっては保護

者や同僚)が何を考え、何を感じているかを知る必要があるからです。前述の4.4において、テレサは、授業で生徒が英語で効果的にコミュニケーションをしていないと感じていたため、スピーキングタスクについての好みを生徒に尋ねました。つまり、生徒の視点からこの状況を理解するために、活動についてどう思うかを尋ねたのです。

3. 児童生徒や自分自身の行動を探ることで、教室で実際に何が起きているのか、自分が何をしているのか、児童生徒が何をしているのかを明確に把握することができるとでしょう。アンドレアもテレサも行動に焦点を当てました。アンドレアは授業の最後に生徒がどのように行動したかを見て、テレサは自分と生徒がスピーキングの練習をするために何をしたのかを探りました。このようにして、アンドレアとテレサの2人は、自分たちが何をしているのか、どのように教えているのか、そして生徒が指導に対しどのように反応しているのかについて、重要な、ある意味では、驚くべきデータを得たのです。

### 自分の認識を探る

例)

\_\_\_\_\_とはどういう意味か。

\_\_\_\_\_について、私はどう思うか、感じているか。

なぜ私は\_\_\_\_\_が起こると思うのか。

\_\_\_\_\_の代わりに何が起こってほしいと思うか。

### 他者の認識を探る

例)

私の児童生徒は\_\_\_\_\_についてどう思うか、感じているか。

私の同僚は\_\_\_\_\_をどう思っているか。

### 行動を探る

例)

\_\_\_\_\_はいつ、どのくらいの頻度で起こるか。

\_\_\_\_\_が起きたとき、私は何をするか、言うか。

\_\_\_\_\_が起きたとき、私の児童生徒は何をするか、言うか。

課題 4.6 @

ある状況をもとに、上記のカテゴリーと問いのフレームを使って質問する練習をしてみましょう。例を見て、与えられたテーマに対して質問をしてみましょう。答えは解答で確認してください。

例)

テーマ:私の生徒は、私にだけ英語で話しますが、お互いには話しません。

自分の認識を探る

授業のどの部分で生徒が私に話しかけてくるか。  
英語でお互いに話すことがなぜ生徒にとって重要だと思うか。

他者の認識を探る

私の生徒はこのことについてどう考えているか。

行動を探る

ペアワークでは、どの生徒が英語で話し、どの生徒が話さないか。  
ペアワークでは、いつ生徒は英語で話し始めるか。

今度は、用意された別のテーマについて、下の表に問いを書いてみましょう。

テーマ:授業の最後に宿題を説明する際、明確に説明する時間が少ないことが多い。

自分の認識を探る

Blank lines for writing answers to the first question.

授業のどの部分で生徒が私に話しかけてくるか

Blank lines for writing answers to the second question.

なぜお互いに英語で話すことが重要だと思うか

Blank lines for writing answers to the third question.

前の章で読んだアンドレアの例や、4.4のテレサの例では、3つのカテゴリー(自分の認識と他者の認識、そして行動)のうち、2つまたは3つの主な探索型の問いが問われていることがわかります。必ずしもこのようなケースばかりではありませんが、質問を管理が可能な数に抑え、異なる視点から問題を見ようとするのはよいことです。

では、自分のテーマで考えてみましょう。

課題 4.7

(課題4.4 から)主なテーマの領域を書き出し、読んだ例を参考に、またこのセクションで提供されている質問フレームを使って、自身の探索型の問いを提案してください。

私が着目する領域は \_\_\_\_\_

Hand-drawn notepad with a pencil icon and four numbered lines, each ending with a question mark, for writing questions.

## 4.6 SMARTな質問

研究を続ける前に、研究課題をできるだけよいものにしようにすることは重要です。しかし、「よい」とはどのようなことでしょうか。一般的な目標と同様に、これについて考える1つの方法は、あなたの探索的な研究課題が「SMART」であるかどうかを確認することです<sup>1</sup>。

よい探索的な研究課題とは：

**STUDY-ORIENTED**(研究志向であること)

**MEASURABLE**(測定可能であること)

**ACCURATE**(正確であること)

**REALISTIC**(現実的であること)

**TOPIC-FOCUSED**(テーマに焦点を当てていること)

### 1. 研究志向であること

ある状況に対し行動を起こすことよりも、その状況を研究・調査することを目的としていること。この段階での問いは探索型の問いであるため、すぐに状況を変えるために行動を起こすのではなく、状況を理解するために探索することに重点を置くべきです。例えば、「どのようにすれば生徒のライティングを上達させることができるか」ではなく(これがあなたの全体的な関心事であるかもしれませんが)、「生徒のライティングスキルを指導するために、私は今何をしているのか」とします。

### 2. 測定可能であること

答えることが可能であること。興味深いことであっても、簡単に観察したり記録したりすることができないため、測定することが難しいことがあります。例えば、「私が質問したとき、生徒の頭の中で何が起きているのか」ではなく、「私が質問したとき、生徒はどのように感じたと言うか」とします。

### 3. 正確であること

明確かつ具体的で、よく定義されており、一般的すぎたり、曖昧すぎたりしないこと。また、「地に足がついている」ということでもあり、例えば、教室を見たり、実践について考えたり、児童生徒に尋ねたりして、問いに答えることができるようにします。例えば、「私の生徒はどれくらいやる気があるのか」ではなく、「私の生徒は授業でどのような活動が好き、あるいは、嫌いと言っているのか」とします。

### 4. 現実的であること

理想的すぎず、答えることが可能なこと。測定可能かもしれませんが、自分で、あるいはチームであっても、与えられた時間内に、あるいは個人の能力の範囲内では測定できないことがあります。「この問いに自分で答えることができるだろうか」と自問してみてください。例えば、「教科書作成者が教科書にこれらの特定の話題を盛り込んだ意図は何だったのか」ではなく、「10代の薬物使用、望まない妊娠、難民についての話題について、様々な教師がどう扱っていると言及するか」とします。

### 5. テーマに焦点を当てていること

全体のテーマに関連していること。答えを見つけたい興味深い問いが数多くありますが、中心となるテーマに集中するようにして、他の問いは別の機会に考えるべきです。例えば、主たるテーマが活動の指示をどのように改善するかであれば、「どのようなスピーキング活動であれば生徒がより多く話すのに役立つか」ではなく、「異なる種類の活動においてどのように指示を出せばよいか」とします。

## 課題 4.8 @

次の質問を見て、それらが「SMART」であるかどうかを判断してください。そうでない場合、SMARTのどの基準を満たしていないでしょうか。答えは解答で確認することができます。

探索型の問い	SMARTか	判断基準
1. 生徒の英語学習に影響を与えるものは何か。	いいえ	現実的ではないし、測定もできない
2. 生徒はいつ英語を使ってお互いにコミュニケーションをとるか。		
3. なぜ生徒は学習しないか。		
4. 生徒は宿題をするときに何回辞書を使っているか。		
5. 映画を使って生徒のやる気を引き出すにはどうすべきか。		
6. 授業で、生徒はどのくらいの頻度でペアワークをしているか。		

<sup>1</sup> 本書のSMARTの定義は、原文から変更されたものである。

### 課題 4.9

前述の4.5節の最後(課題4.7)で書き留めた探索型の研究課題を、パートナーと、グループで、あるいは1人で、「SMART」の基準を使って確認してみましょう。どのようにすれば、その問いをより「研究志向である」「測定可能である」「正確である」「現実的である」「テーマに焦点を当てている」問いにすることができるでしょうか。修正した問いをここに記入してみましょう。

1. \_\_\_\_\_
2. \_\_\_\_\_
3. \_\_\_\_\_
4. \_\_\_\_\_

### 課題 4.10 @

課題4.8に戻って、SMARTではないと判断した問いを、よりSMARTなものに書き換えてみてください。

探索型の問い	編集された問い(改善が必要なもののみ)
1. 生徒の英語学習に影響を与えるものは何か。	
2. 生徒はいつ英語を使ってお互いにコミュニケーションをとるか。	
3. なぜ生徒は学習しないか。	
4. 生徒は宿題をするときに何回辞書を使っているか。	
5. 映画を使って生徒のやる気を引き出すにはどうすべきか。	
6. 授業で、生徒はどのくらいの頻度でペアワークをしているか。	

### 課題 4.11

上記の4.9の問いを24時間「寝かせ」ましょう。その後、その問いを見て、もう一度「SMART」にしてみましょう。また、今度は、批評してくれる友人やメンターにも問いを見てもらい、同様にSMARTなものにします。修正した問いをここに書いてみましょう。

1. \_\_\_\_\_
2. \_\_\_\_\_
3. \_\_\_\_\_
4. \_\_\_\_\_

## まとめとフォローアップ

この章では、様々な問題を思い浮かべ、その中から焦点を当てるものを(MUSEを使って)決め、自分自身の認識や他者の認識、行動を探るための研究課題を考え、その問いをできるだけ「SMART」なものにするまでのプロセスを順を追って見てきました。研究課題を決めることは、(教師による)研究プロセスの中でもっとも難しく、またもっとも重要な部分の1つです。問いは決して「完璧」ではありませんが、そろそろ前に進むときでしょう。次の章では、あなたが考え出した研究課題に答えるために、どのような種類の情報、つまり「データ」が相応しいか決定する段階に進みます。

## フォローアップ

ダニエラは、自分の状況をよりよく理解するために、いくつかの探索型の問いを思いつきました。次の章の準備をするために、ここで彼女の話を読むことをお勧めします。 <https://bit.ly/danielagajardo>

ダニエラが彼女の研究で行った様々なことについて、メモで表を埋めましょう。また、同僚と一緒に質問したり答えたりしてみてください。

ダニエラの研究	
1. 彼女は何を探索しようと決めたか。	
2. 彼女はどのような質問をしたか。	
3. 彼女は情報を集めるために何をしたか。	
4. 彼女はどのような情報を得たか。	

# 5. どのように探索すれば よいか

前章で行ったように、自分自身に質問することで(あるいは他の誰かに質問してもらうことで)、焦点を当てようとした状況について注意深く考え始め、自分が何を知っていて何を知らないのかをより意識するようになったという意味で、あなたはすでに探索を始めています。本章では、このように振り返りを継続できる方法を提案し、また、探索型の問いに答えるために外部からの情報源をどのように探すかといった方法を提示します。



アンドレアの話を簡単に振り返った後、探索的アクション・リサーチにおいて教師が実際に用いるであろう12種類のデータについて学びます。そして、もう一人のチャンピオン・ティーチャーであるマウロが、自分の研究課題に答えるためにどのようにデータを集めたかを見ていきます。また、複数の異なる情報源を組み合わせることがいかに有効であるかを見ていきます。これをもとに、あなたの研究課題の答えを見つけるためのデータをどのように集めるかを決める際に役立つ課題を提示します。

## 5.1 様々な情報源

第3章で紹介したアンドレアの話を思い出してみましょう。彼女の探索型の問い(exploratory question)は次のようなものでした。

1. 授業のまとめとは何か。
2. 自分の授業のまとめの特徴は何か。
3. その部分で生徒はどのように反応するか。

彼女はこれらの問いに答えるのに十分な情報を集めた後、授業をまとめる様々な新しい方法を試してみることにしました。第3章の最後で見たように、基本的な「改善型の研究課題(action research question)」は常に次のようなものです。

4. 私が試みた変化の効果は何か。

アンドレアは、この問いを報告書の中で明確に述べていませんでした。しかし、状況を探した後、授業の最後に異なる活動を試してみようと思われ、これらの活動がどれほど効果的であるかを見ようとしたことは明らかです。このために、彼女は起こったことと以前に発見したことを比較しました。

### 課題 5.1 @

自分の研究課題(1、2、3、4)に答えようとするために、彼女は具体的にどのようなことをしましたか。以下の表Aの各質問の横に(a)、(b)、(c)、(d)を記入してください。[ヒント:(b)と(d)は複数回使用できます]

表A. アンドレアの探索型と改善型の研究課題

1. 授業のまとめとは何か。
2. 自分の授業のまとめの特徴は何か。
3. その部分で生徒はどのように反応するか。
4. 私が試みた変化の効果は何か。

表B. アンドレアは情報を集めるために何をしましたか。

A. インターネットで答えを探した。
B. 同僚に授業を観察するよう頼んだ。
C. 何人かの同僚に授業のまとめについて尋ねた。
D. 生徒の反応を尋ねた。

これまで見てきたように、様々な探索型の研究課題に答えるために、アンドレアは異なる種類のデータを使用しました。そして、研究のアクション・リサーチの部分に関して言えば、新しい活動の効果をはっきりと見ることでできるように、彼女は同じようなデータの情報源を使用しました。

この章では、皆さんが使用できる様々な情報源、情報源へのアクセス方法、情報源を研究課題に効果的に合わせる方法について、さらに詳しく見ていきます。

忙しい教師の皆さんに余分な負担がかからないような研究方法を、私たちは重視していることを忘れないでください。ここでは、私たちが関わってきたプロジェクトの中で、高校の教師たちが余分な手間をかけずに実際に使ってきた情報源をご紹介します。

1. 自分が書いた振り返りやメモ	2. そのテーマに関する他の人が書いたアイデア
3. 同僚との雑談のメモ	4. 児童生徒が書いた振り返り
5. フォーカス・グループ・ディスカッションのメモや録音	6. 個人とのインタビュー/会話のメモあるいは録音
7. 質問紙の回答	8. 授業案や教材
9. 授業を録音(画)したもの	10. 授業を批評してくれる友人のメモ
11. 授業の写真	12. 課題に対する児童生徒のパフォーマンス(書かれたもの、あるいは録音(画)されたもの)

ここでは、それぞれの情報源の使用に何が含まれるのかを見ます。それぞれの基本的な長所、つまり、それらが何に使えるのかを考えてみましょう(すべての情報源を使うわけではなく、研究課題に合わせて情報源を選択するというのを覚えておくことが重要です)。順を追って、各種のデータが、自分自身の認識、他者(例えば児童生徒)の認識、あるいは実際の行動やパフォーマンスに関する問いに答えるのにもっとも適しているかどうかを心に留めておいてください。

### 1. 自分が書いた振り返りやメモ

振り返りを書くこと(例えば、授業の直後や帰宅後に書くメモや完全な文の形)は、特定のテーマや疑問について自分の認識を探索するよい方法です。これは、何かについての意味を自問することなのです。一例として、アンドレアは、自分にとって「効果的な」授業のまとめ方とは何を意味するのかを自分で考えるために、自分が書いたものを振り返りとして使いました。

自分の授業の日誌や振り返りのジャーナルをこれまでつけたことがなければ、最初のうちは自分の考えや感情を書き始めるのが難しいかもしれません。もしそうであれば、最初はメモに書いてみましょう。書いたものは自分のためだけのものであることを忘れないでください。それを誰かに見せる必要はありません。句読点や文法などは気にせず、思いつくままに、できるだけ「自由に」書いてみてください。後で読むことができれば、それでよいのです。振り返りを書く時間を見つけるのは難しいかもしれませんが、20分だけでも有意義な時間となります。

### 2. そのテーマに関する他の人が書いたアイデア

ある状況に対する自分の認識をメモするだけでなく、そのテーマについて他の人が何を書いてきたかを知ることも役に立ちます。それを読めば、他の人の意見と自分の意見を比較できますし、またこれから探索しようとしているテーマについても学ぶことができます。アンドレアは、「授業のまとめ」の意味や役割についてもっと調べようとした際、このようにしました。彼女が行ったのは、それに関する情報をインターネットで

探すことでした。そして生徒に参加させ、生徒が学んだことに焦点を当てた「まとめ」が効果的であるとすいくつかのウェブサイトを見つけました。

あるテーマに関するこのような情報を集めるには、アンドレアがしたようにインターネットで探すことや、雑誌や学会誌、本を読むことが考えられます。

### 課題 5.2 @

あるテーマについて他の人が書いた考えを探す練習をしてみましょう。今回は、この課題のために、アンドレアが見つけたものを補う「授業のまとめ」に関する追加情報を見つけてください。インターネットを見て回り、アイデアを見つけたらメモを取りましょう。

注: 解答で得た情報を実際に確認するといった演習もできます。

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

### 3. 同僚との雑談のメモ

同僚と雑談してみても、ごく自然な形で自分の認識を探索することができます。あるテーマについて深く振り返る機会がなかったために、自分が何を本当に考えていたのか気づかないことがよくあります。同僚と何かを話すだけでも、自然な会話の中で自分の意見を述べる機会が得られます。

会話中に出てきた考えやそれについて自分が考えたことをメモしておけば、自分の認識についての興味深いデータを集める機会となります。

1つの例として、次の2名の教師の対話を読んでみましょう。生徒のやる気のなさについて、イザベルがどのように振り返り始め、意見を共有しているかに注目してください。

**イザベル:** 私の生徒のやる気のなさについて考えています。

**マリオ:** 具体的にどのようなことで悩んでいるのですか。

**イザベル:** そうですね、生徒が私の授業を楽しんでいないようです。活動にも積極的に参加してくれません。私が何をしても楽しんでいないようなのです。そういうことは先生にもありますか。

**マリオ:** 全部ではないですが、いくつかのクラスであります。でもええ、確かにあります。

**イザベル:** 本当に気になっていて、どうしてそのことでこんなに悩んでいるのか考えてみたいです。

**マリオ:** えっと、生徒が楽しめないような活動を準備するのはよくないですね。

**イザベル:** そうなのです。私もそれが一番の問題なのです。自分が楽しいと思う授業を準備しても、生徒が全く興味を示さないのです。

**マリオ:** でも、生徒はその活動を好きではないと言っているのでしょうか、それとも先生がそう感じているだけなのでしょうか。

**イザベル:** そうですね、あまり興味があるようには思えませんが、実際にそのように生徒が言ったことはありません。もし、生徒が退屈しているとしたら、それは別の理由かもしれないので、それを確かめる方法を見つけたほうがよいのだと思います。もうひとつ、活動を終えるのに時間がかかるのは、そもそも生徒を活動に取り掛からせるのに時間がかかっているからです。

**マリオ:** 私にも同じことがあります、いつも同じグループの生徒にそれが起こることに気づきました。

**イザベル:** 私の場合、生徒は皆、不満か退屈か興味がないのだという感じがします。私が考えたものに参加したがない感じなのです。

この対話の中で、イザベルは生徒がやる気を失っているという考えをどのようにして深めたかがわかります。生徒が明らかに参加していないことが、主に以下の理由で彼女を動揺させていることに気づきます。

■ 彼女が準備した活動に生徒が参加しない。

■ 生徒は退屈、不満そうに見える。

■ 生徒を課題に取り掛からせるのに時間をかけているため、予想以上に活動に時間がかかっている。

彼女はまた、生徒が実際にどう考えているのかを知るために、生徒に相談する必要があるかもしれないことを理解しています。

このような会話のメモは、自分の認識を明らかにできるため、イザベルにとって役立つでしょう。その後、生徒の認識や行動に関する情報を彼女が集めることで、自分の懸念が妥当かどうか、その後、どのように状況に対処することができるかを確認することができるでしょう。

### 4. 児童生徒が書いた振り返り

ここでは、ある状況についての他者の認識を集める方法を考えていきます。この場合、他者の認識というのは、児童生徒の認識(意見、考え、感情)を指します。

児童生徒が振り返りを書いてみることは、児童生徒の認識を探索するためのよい方法です。特定のテーマについて感じたことや考えたことを、母語でも英語でもよいので(選択はあなた次第です)、児童生徒に書き出してもらうことができます。例えば、授業の最後の5~10分で、渡した紙にメモ形式で自由に書かせることができます(黒板にあなたが書いた質問や口頭で尋ねた質問に答える形で)。あるいは、宿題として書かせることもできるでしょう。

このような証拠を残すことの利点の1つは、とくに児童生徒に名前を書かせない場合、率直な意見や感情が出てくることです。あなたは今まで知らなかったことを知ることができます。しかし、あなたが知った意見や感情は、その授業の児童生徒の多くと共有できるものではないかもしれません。これを質問紙で補足的に確認することができます(下記7参照)。

## 5. フォーカス・グループ・ディスカッションのメモや録音

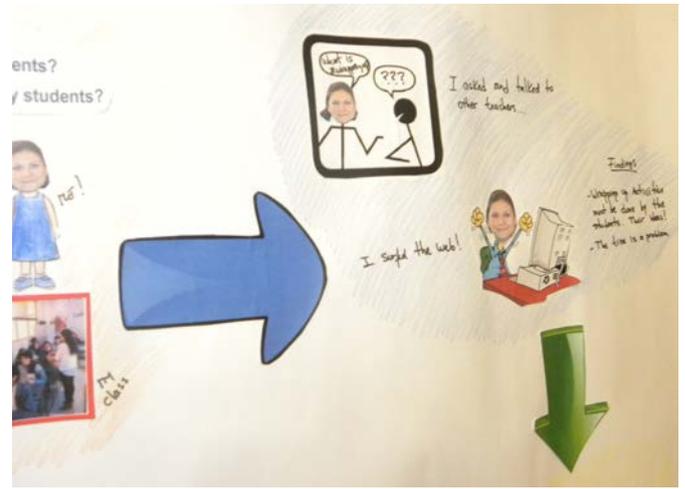
特定の問題に対する児童生徒(または他の教師や保護者)の認識を知るために、他にできることは、授業時間外にグループにして意見や考えを尋ねてみることでしょう。このようなグループでの会話や「フォーカス・グループ・ディスカッション」では、常にあなたに注目させるのではなく、グループのメンバーができるだけ自由に発言することが重要です。したがって、1人が質問に答えた後、グループを見渡し、他の人に別の意見や考えを出してもらおうとよいでしょう。しばらくすると、このようなことをする必要がなくなるかもしれません。つまり、グループのメンバー間の話し合いがより自然に進み始めるということです。しかし、話があなたの研究の焦点から外れ始めたら、研究テーマに優しく誘導しましょう。

フォーカス・グループ・ディスカッションの利点の1つは、比較的短い時間内に複数の人の意見を聞くことができることです。また、他の人の意見が刺激となって、さらに共有したいという気持ちにさせ、個別にインタビューするよりもテーマを深く掘り下げられることもあります。一方で、複数のメンバーが集まることのできる時間を見つけるのが難しいことがあります。

## 6. 個人とのインタビュー／会話のメモあるいは録音

個人にインタビューする場合、グループで行うよりも多くのことを話してくれる人がいるかもしれません。しかし、自分の児童生徒、あるいは児童生徒の親であっても、インタビューで回答する際、あなたを「喜ばせたい」と思っているかもしれないことを忘れないでください(つまり、児童生徒は自分が考えたことや感じたことについて「偽りのない真実」を話してくれるとは限らないのです)。匿名で振り返りを書かせたり、匿名で質問紙調査を実施したりすることで、より正直な答えが得られることがあります。いずれにしても、「より適切なインタビュー」を始める前に、雑談でインタビューを受ける人をリラックスさせるようにしましょう。

個人に行うインタビュー、あるいは形式ばらない会話の利点は、特定の問題を深く掘り下げることができることです。おそらく質問紙よりも深く掘り下げることができます。事前に質問項目を準備しておきましょう。ただし、新しい役立つ情報が得られそうな場合には、更なる質問をして想定外の方向に進むことも選択肢に入れておきましょう。最後に、インタビュー(フォーカス・グループや個別のインタビュー)ではメモを取ることを忘れないようにしましょう。インタビューが終わってすぐ、どのような発言があったか忘れる前に、メモをより詳しい内容に書き換えましょう。録音しておけば、当然より正確な情報を得ることができますが、インタビューを書き起こすのに長い時間がかかるため、インタビューの最中や直後にとったメモも同様に役立ちます。



## 7. 質問紙の回答

人の態度、感情、考え、意見(一言でいうと「認識」)についての情報を集めるために、教室研究でも、他の形式の研究(例えば、政治的意見や市場調査)でも、質問紙を使った調査が実施される場合がとて多いです。実際、多くの人が「研究」というと、無意識に「質問紙」を思い浮かべる傾向があります。しかし、私たちは、人の意識を知るのに、他にも同様に優れた方法(上記の1から6のような方法)があることを知ってもらうために、質問紙をあえて7番目(つまり1番目ではない)に置きました。

質問紙には、比較的多くの人の認識を簡単に集めることができるという大きな利点があります。しかし、質問紙には欠点もあります。例えば、インタビューでは、相手の回答に応じて、特定のテーマを掘り下げていくことができますが、質問紙ではそのようなことはできません。また、質問紙の作成には時間がかかりますし、質問項目も明確でなければなりません。児童生徒に簡単な感想文を書いてもらったり(上記4)、会話やインタビュー(上記の5と6)をしたりした方が容易な場合もあります。あるいは、これらを先に行い、その回答を参考にして質問紙を作成することもできます。

チャンピオン・ティーチャーの1人であるハビエル・アバロスは、まさにこのようにして質問紙を作成しました。彼は、自分の生徒の英語学習に対する気持ちや態度を知ることに興味を持っていました。まず、彼は生徒と一緒に座って話をし、生徒個人の回答をメモしました。そして、クラス全体が同じような認識を持っているかどうかを知りたかったため、彼は受け取った1人ひとりの回答を以下のような表にまとめました。ハビエルは、生徒に質問を確実に理解して欲しかったため、元の調査はスペイン語で行われました(以下に質問項目を英語に翻訳しました[訳者注:本書では日本語に翻訳しています])。

提示文	当てはまる	どちらでもない	当てはまらない
1. Inglés es un idioma muy difícil. [英語はとても難しい言語である。]			
2. Me pongo nervioso cada vez que tengo clases de Inglés. [英語の授業があるときはいつも緊張する。]			
3. Inglés me frustra porque no sé nada. [英語について何も知らないので、イライラする。]			
4. Me siento imposibilitado de aprender inglés. [英語を学ぶのは不可能だと思う。]			
5. Siento que tardaré mucho tiempo en aprender inglés. [英語を学ぶのに長い時間がかかると思う。]			
6. Yo puedo aprender inglés pero siento que es difícil. [英語を学ぶことはできても、難しいと思う。]			
7. Me siento motivado debido a mis notas en inglés. [英語の成績のおかげで、やる気が出る。]			
8. No aprendo inglés por flojera. [怠け者なので、英語を学べない。]			
9. Me siento avergonzado en inglés porque pienso que me puedo equivocar. [英語で恥ずかしいと感じるのは、間違っているかもしれないと思うからだ。]			
10. Me da vergüenza preguntar en inglés. [英語で質問するのは恥ずかしい。]			

ハビエル・アバロスの質問紙からの抜粋

ハビエルの話は、第7章でも見ることにします。チリのチャンピオン・ティーチャーズ・プログラムにある質問紙の別の例として、この本の巻末にある「追加資料」(no.2)の例も見ることができます。

いずれの例の質問紙にも「閉じた」質問(はい、いいえで答えが済んでしまうような質問)しかありません。つまり、質問紙に答える生徒には、自分の言葉で自分の認識について自由に書く機会が与えられていません。その代わりに「閉じた」選択肢の中から選ぶこととなります。これには、異なる生徒の回答を数えることで簡単に比較することができ、特定の問題について大多数の生徒がどう考えているかを判断できるという利点があります。しかし、質問紙に開いた「Wh」疑問文を含めれば、多くのことを知ることができることもあります。あるいは、書くためのヒントを与えつつ、ある程度多様な回答を制限したい場合、最初の部分を与えた文を完成させるように求めることもできます。例えば、先ほどのハビエルによる質問紙の最初の項目に代えて、次のような文を完成させるように生徒に求めることができたでしょう。

(英語は \_\_\_\_\_ 言語である)。

これに相当する完全に開いた「Wh」疑問文は、「英語はどんな言語だと思いますか」になるでしょう。

生徒が質問紙を返却する前に、名前を書かせる必要があるでしょうか。もし生徒が名前を書けば、特定の生徒に書いたことの意図を尋ね再調査することができます。もし名前を書かなければ、生徒は自分の認識についてもっと正直に書く気になるかもしれません。妥協案として、生徒が書いた答えについて後であなたと話しても構わないという場合にのみ名前を書くよう生徒に伝えてもよいでしょう。

### 課題 5.3 @

ハビエルの質問紙にある閉じた質問のいくつかを、文を完成させる問いにつくり換えてみましょう。質問項目2と7と10でやってみましょう。次に、同じ質問項目に対し、「どのように...」で始まる完全に開いた質問を考えてみましょう。

## 8. 授業案や教材

これまでのところ、認識に関する情報源として、あなた自身のものと他者(児童生徒、親、同僚)の認識について考えてきました。今度は、様々な種類の行動について見ていきます。授業中や授業直後に、授業案や授業のために用意した教材にメモを書き込んだり、その授業案や教材についてのメモを書いたりしておけば、とても役に立ちます。

例えば、なぜいつも時間が足りず、授業案を終えることができないのかに興味があるとしましょう。授業案には、それぞれの活動にどれくらい時間をかけるかを書くようにするとよいでしょう。授業中に授業者あるいはその授業を観察している人が、それぞれの活動に実際にかかった時間を書き留めます。そうすれば、どの活動に予想以上の時間がかかったかがわかり、その理由を考えることができます。授業案や教材には、他の種類のメモを書くこともできます。もちろん、授業を録音(画)したり(下記9)、他の誰かが授業を見たり(下記10)すれば、授業で何が起こったかをより簡単に知ることができます。

## 9. 授業を録音(画)したもの

授業を録音またはビデオ録画することで、クラスで何が起きているかを新たな別の視点から理解することができます。録音や録画したものを再生し、指導していた際にとらえ損ねていたことをメモすることもできるでしょう。また時間があれば、授業の一部を書き起こして、教室での会話(自分の、児童生徒の、または両方の)を客観的に記録することもできます。実際、あなたの研究課題が教室での会話に何らかの点に関連するのであれば(例えば、あなたの指示の出し方や質問の仕方、児童生徒の間違いを修正したときの児童生徒の反応に関心がある場合)、批評してくれる友人にあなたの授業を観察してもらい(下記の10を参照)よい洞察を得られたとしても、授業を録音(画)しその一部を書き起こすことは、ほぼ必須となるでしょう。

録音(画)を始める前に、何を「とらえること」に関心があるのかについて、研究課題に従って慎重に検討してください。もし、教室での会話のある側面のみに関心があり、他の行動には関心がなければ、音声の録音で十分かもしれませんが、もしそれが重要であれば、ビデオで録画をしておく、誰が話しているのかを特定するのに役立ちます。一方、教室でのあなた自身の発話にもっとも関心がある場合は、ボイスレコーダーを自分の机の上、つまり自分が普段話している場所の近くに置いておけば、他の人の声をとらえてしまうことをそれほど気にする必要はありません。クラス全体のやり取りで児童生徒の声を録音するのはかなり難しいでしょうから、この場合は授業をビデオで録画するのがより有効でしょう。あるいは、誰がいつ発言したかを自分や観察した人がメモしたものと組み合わせるとよいでしょう。

## 10. 授業を批評してくれる友人のメモ

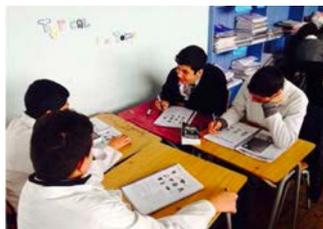
ある状況で児童生徒や自分自身の行動を探索するためには、自分で状況を観察し、メモを取り(上記8のように)、あるいは録音(画)(上記9のように)の助けを得ながら行うことができますし、他の誰かに何が起きているかを観察してもらい、その観察メモを共有することもできます。

たとえ自分の授業を観察するために録画したものを使ったとしても、授業が「普通」に見えて見逃してしまうことがあるため、友人に授業を観察してもらうことが役に立ちます。批評してくれる友人に授業のメモを取ってもらうことは、「もう1つの目」が与えられ、何が起きているか新しい視点が提供されるという点でよいです。

もちろん、以下のような制約や難しさがあります。

- 批評してくれる友人は、あなたの指導を「よい」か「悪い」かで判断したがる傾向があるかもしれません。あなたの同僚には、自分の役割が授業を判断することではなく描写することであり、あなたの探索を支援することであると理解してもらうことがとても重要です。あなたは何に関心があるかをはっきりと伝え、同僚がそれに焦点を合わせるようにします。そのためには、一連の問いや観察すべき事項のリストを渡し、より焦点を絞った観察をしてもらうとよいでしょう。
- 他の誰かが部屋にいてメモを取っているの、児童生徒(そしてあなたも)は、いつもとは違う行動をとるかもしれません。この問題を解決する方法は、同僚がそこにいる理由を児童生徒に説明し、この人が取っているメモは児童生徒やあなたを評価するのに使われることはないことと安心させることです。
- あなたの授業を観察する都合を合わせたり進んで観察してくれたりする同僚を見つけるのは難しいかもしれません。これは解決するのが難しい問題ですが、地元の教師のグループや団体に参加したり、(国によっては)指導主事や指導助言者、あるいは主幹教諭に相談したりするのも1つの方法です。

このような制約や難しさはありますが、同僚に授業のメモを取ってもらうことは、教室でのあなたや児童生徒の行動に関する情報を得るのにとっても有効な方法です。1つよい点をあげるとすれば、(例えば、自分の授業の記録を聞いたり見たりするまで時間がかかるかもしれませんが)すぐにフィードバックを得ることができることです。授業を観察する際に明確な焦点を持つことは、これまで見てきたように非常に重要であり、そのサンプルとなる観察の枠組みを、本書巻末の「追加資料」(no.2)で見ることができます。あなたが自身の観察の枠組みを計画する際の参考にしてみてください。



### 11. 授業の写真

研究課題との関連で、授業の写真の撮ることが役立つ場合があります。例えば、机の配置や、黒板やホワイトボードの使い方に関する課題であれば、写真が役に立ちます。チャンピオン・ティーチャーズの一人であるマウロは、この章の後半で紹介するように、教室の配置を変えたことを記録するために写真を使いました。他の情報源と組み合わせることで、このことは変化の効果を確認するのに役立ちました。

### 12. 課題に対する児童生徒のパフォーマンス(書かれたもの、あるいは録音(画)されたもの)

児童生徒のパフォーマンスの問題を理解するために、児童生徒の書いた作品を見て分析することができます。例えば、なぜ児童生徒が特定の文法構造を間違っているのかに興味がある場合、児童生徒の作品のサンプルを見て、どのように文法が使われているか描写することから始めるのが合理的でしょう。口頭による表現の場合、児童生徒が取り組んでいるスピーキング課題を録音し、それを書き起こすことができます。書き起こしにはかなりの時間がかかるため、あなたが関心のある特定の問題が生じていると思われる発話だけを選んで書き起こすこともできます。

また、これらの手法と、児童生徒との会話やインタビューを組み合わせることで、児童生徒のパフォーマンスにおける特定の特徴の理由を理解するのに役立ちます。もし児童生徒のその後の作品(例えば、アクション・リサーチの介入後)のサンプルを最初のパフォーマンスと比較することになれば、その変化の理由や児童生徒がいまだに直面している困難について児童生徒自身に振り返らせることはやはり価値があるでしょう。

### 課題 5.4 @

まとめてみましょう。ここまであなたが読んできた内容から、1. から12.までのデータのうち、どの種類のデータが以下のことに適しているでしょうか。

- A. 自分自身の認識を探る
- B. 他者の認識を探る
- C. 行動(パフォーマンスを含む)を探る

以下のA、B、Cの横に1から12までの数字を書いてください。その後、巻末の解答で自分の答えを確認してください。

焦点	データの種類
A. 自分自身の認識を探る	
B. 他者の認識を探る	
C. 行動(パフォーマンスを含む)を探る	

## 5.2 マウロの話

以下は、チリ人の教師、マウロ・サエズが行った研究の話です。彼は、自分の授業を系統立てるよりよい方法を探索することに興味を持っていました。彼がどのようにして証拠を集めたかに注意しながら、彼の話を読んでみてください。

### マウロの話

「私の研究テーマは、自分の教室をどのように配置するかです。なぜこのテーマを私は選んだのでしょうか。私は『サマーキャンプ』というセミナーに参加しました。そこではたくさん興味深いテーマが紹介されていて驚いたのと同時に、それを実践に移す心の準備ができました。その年度が始まり、私のほとんどの授業がうまくいっていないことに気づき、ある考えが浮かびました。それは生徒の座席を再配置することでした。それを考慮し、教室の配置とそれに対する生徒の受け止め方について、生徒にもっとも適した方法を見つけたいと思いました。

そこで、私は探索型の問いを次のように記しました。

- 私の生徒は個別に座っているとき、どのように行動しているか。
- 席の配置が個人の活動にどのように影響を与えているか。
- 生徒は個人の活動についてどのように感じているか。

最初のデータを集めるために、同僚に私の(個人で、協働で、グループで活動しなければならない)授業を観察してもらい、授業中の生徒の行動を書き留めてもらいました。もちろん、よりよい観察をするために、私の英語教師としての経験や、生徒の普段の行動も考慮しました。さらに、自分自身で情報を得るために、授業全体をビデオで録画しました。生徒から集めたデータに関しては、3つの質問紙を作成しました。それぞれ、生徒が個人で、ペアで、グループで活動しなければならない授業のためのものでした。

私は、質問紙による情報を集め、情報を整理するために、生徒からもっとも多く得られた考えを考慮に入れました。また、同僚と私が行った観察について同僚と相談し、複数の科目を通じてその行動が繰り返されているということで意見が一致しました。

生徒は個人で活動しているときには適切な行動を示しますが、ほとんどの生徒が授業で見せる繰り返しのパターンがあります。これは、観察している教師や私が気づいたことですが、質問があるときにはいつでも、疑問を明らかにするために、まずクラスメイトに尋ねるのです。その後、疑問が解消されない場合は、教師に助けを求めるというも

のです。そこで私は、生徒は本来1人で活動するよりも仲間と一緒に活動することを好むのではないかと考えるようになりました。

生徒の意見としては、クラスメイトと一緒に活動することは好むが、グループで活動することは好まないとのこと。というのも、クラスメイトにちゃんと活動しようとしないう生徒が少なくとも1人いると感じているからです。個人で活動することを好む生徒も何人かいますが、ほとんどの生徒は、より生産的で快適な環境で活動するという観点では、ペアで活動することが自分に合ったクラスの配置だと指摘しています。

その結果を知って、私はペアワークを実施し始めるために教室の配置を変更する許可を学校当局に求めました。ペアの組み合わせは感情面と規律面を考慮しなければならないので、少し難しかったです。

幸い、私は生徒のことをよく知っていたので、生徒のニーズや相性に合わせてペアを組むことができました。そして、生徒がペアで活動しなければならない活動や授業を行いました。

私は最終テストで生徒から得られた結果に驚きました。4.0~7.0の成績を収めた生徒が95%以上で、授業に対する不評はわずか4%だったのです。

私の計画にはもともとペアでの活動が含まれていなかったため、私は授業のために協働での活動を伴う活動を新たに作らなければならませんでした。今回の経験により、私は授業の進め方に関して生徒の意見を取り入れた授業の進め方ができ、快適な環境を作ることができたと思います。

この経験は学業成績だけでなく、生徒の授業に対する姿勢においても非常に役に立っているため、今では年度当初から生徒がペアで活動できる活動を取り入れようと考えていますし、同僚にもペアワークを実施するように勧めています」

### 課題 5.5 @

マウロの話にもとづいて、下の表を見て、彼が自身の探索型の問いに答えるために集めたデータの種類を記入し、表を完成させてください。前述の 5.1 で共有したデータの種類のリストを使用してください。

教師	研究課題	データの種類
マウロ	1. 生徒が個々に座っているとき、生徒はどのように行動するか。	
	2. 座席の配置は個人の活動にどのような影響を与えるか。	
	3. 生徒は個人の活動についてどのように感じているか。	

課題 5.6 @

前の章では、授業の生徒のコミュニケーション不足、とくにスピーキングの不足についてのテレサの話を読みました。彼女の問いに答えるために彼女が集めたデータの種類の種類を思い出してみてください。思い出せない場合は、ざっと読み直してもよいでしょう。

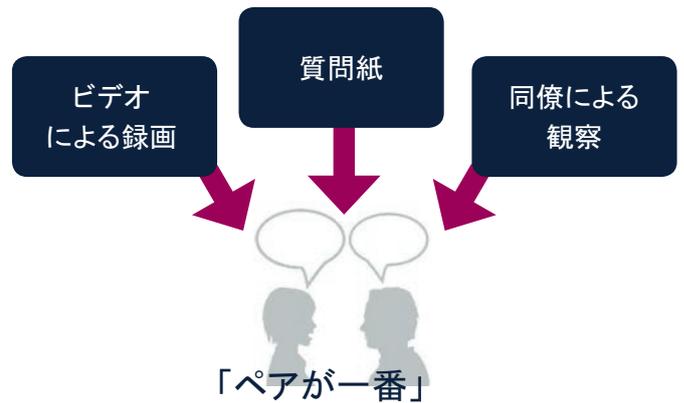
教師	研究課題	データの種類
 テレサ	a.1. 自分の生徒が授業で話さないのはなぜか。	
	a.2. 自分の生徒は英語で話すことが好きか。	
	a.3. 授業で発言するのにどのような機会があるか。	

5.3 複数の情報源からの情報を組み合わせる

この章で考えてきたチリのチャンピオン・ティーチャーたち(アンドレア、マウロ、テレサ)の話から、チャンピオン・ティーチャーが皆、複数の情報源から情報を集めていることに気づいたかもしれません。例えば、マウロは自分の授業を録音し、同僚に観察してもらい、生徒にも質問紙を配付しました。複数の情報源を組み合わせることには、多くの利点があります。

1つの利点として、1つの情報源のみからデータを集めるよりも、状況の全体像をとらえやすくなります。例えば、学習者が書くときに主に何が難しいかを知るために質問紙を使うことができますが、それだけではなぜそれが学習者にとって難しいのか理解する手助けにはならないかもしれません。学習者にインタビューをすれば、詳しく答えてもらうことができるため、この理解に役立ちますが、質問紙で尋ねなければ、そもそも何人の学習者がこのような問題を抱えているのか知ることはなかったでしょう。

もう1つの利点は、複数のタイプの情報を集めることで、1つの情報源から見たものを確認し、研究の信頼性を高めることができることです。例えば、マウロの同僚は、学習者のほとんどがペアで活動するときにもっとも活動に参加することに気づきました。またマウロは、自分の授業のビデオ録画を見たとき、学習者がペアで活動している際、うまくやり取りし、お互いに協力し合っているようであったことにも気づきました。一方、質問紙の回答では、ほとんどの生徒がペアでの活動が好きであると答えていました。もし1つの情報源からしか情報を得られない場合、状況の理解には役立つかもしれませんが、信頼性に欠けるかもしれません。言い換えると、結論を出すためにそのデータは当てにはならないということです。ある状況の理解を確認するために、複数の情報源からデータを得るプロセスは「トライアングレーション」と呼ばれます。簡単に言えば、ある問題を2つ以上の異なる視点から見ることです。



課題 5.7 @

異なる種類のデータを特定の順序で集めることには、時として利点があります。例を挙げてこれを見ていきましょう。

あなたは、児童生徒の約半数が宿題をしないか、その取り組みが悪いことに気づき、この状況を調べるためにさらに情報を得たいと思っています。これは教室内のことではないので、直接データを集めること(例:観察すること)はできません。それで、以下の3つのデータ収集法を選択することにしました。

- 4, 5名の児童生徒によるフォーカス・グループ・ディスカッション
- クラス全員に対する簡単な質問紙調査
- クラス全員に対し、次のような質問を使って、5分間で振り返りを書かせる。クラス全員に対し、次のような質問を使って、5分間で振り返りを書かせる。「宿題についてどう思いますか。」

どんな順番でやりますか。それはなぜですか。

---



---



---

注) 解答で答えを確認してみましょう。

### どんなデータを集めるか

次はあなたの番です。第4章の最後に書いた探索型の研究課題を思い出してください。それぞれの問いに答えるために、どのようなデータを集めようと思いますか。以下は、入手を検討できる様々な種類のデータのリスト(1.から12.まで)を、あなた自身の認識、他者の認識、行動／パフォーマンスのどれを探るのにふさわしいかどうか照らし合わせたものです。

#### あなた自身の 認識を探索する

- 1. 自分が書いた振り返りやメモ
- 2. そのテーマに関する他の人が書いたアイデア
- 3. 同僚との雑談のメモ

#### 他者の認識を 探索する

- 4. 児童生徒が書いた振り返り
- 5. フォーカス・グループ・ディスカッションのメモや録音
- 6. 個人とのインタビュー/会話のメモあるいは録音
- 7. 質問紙の回答

#### 行動(パフォーマンスを 含む)を探索する

- 8. 授業案や教材
- 9. 授業を録音(画)したもの
- 10. 授業を批評してくれる友人のメモ
- 11. クラスの写真
- 12. 課題に対する児童生徒のパフォーマンス(書かれたもの、あるいは録音(画)されたもの)

### 課題 5.8

下の表に、探索型の問いと、それぞれの問いの探索の焦点(自分の認識、他人の認識、行動)を書き出してください。こうすると、それぞれの問いで集める必要のあるデータの種類を特定するのに役立ちます。そして表の最後の欄には、現実的に入手可能なデータの種類を記入しましょう。

探索型の問い	焦点	データの種類
例: 私の授業のまとめの特徴は何か。	行動	授業について批評してくれる友人のメモ
1. _____ _____ _____		
2. _____ _____ _____		
3. _____ _____ _____		

## 5.4 データを集めるときに気をつけることは何か

自分の研究と探索型の問いについて、さらに考えてみましょう。それに答えるために、現実的にどのような情報を得ることができるでしょうか。「現実的に」というのは、自分であるいは同僚の協力を得て、比較的短時間で、最小限の準備で集めることができる情報を意味します。できる限り情報収集は、通常の計画や指導の時間を大幅に削るような作業であるべきではありません。

他に考慮すべきことは、データ収集の方法に対して具体的であるということです。質問紙やインタビュー、教室での観察は一般によく用いられているので、データ収集のプロセスを始める前に、それぞれの方法で検討しておきたいことの一覧を以下に示します。

### いくつかのコツを紹介します。

5.1で示した12の異なるデータの種類を見てください。まず、自分の研究の焦点に関係のないものは消してください。例えば、宿題の何らかの側面を研究したいのであれば、自分の授業をビデオで録画しても役には立たないでしょう。

時間と実用性について考えましょう。あなたはおそらく忙しいでしょうから、欲張りすぎないようにしてください。最初に少しでもデータを集めておけば、必要になったらいつでも戻ってさらにデータを集めることができます。職場、教材や機器、学習者、学校の時間割次第では、その選択肢のうちいくつかは他よりも収集可能なデータとなるでしょう。

研究課題を念頭に置き、できれば見やすい場所にそれを書いておきましょう。データ収集法の考えが浮かんだらすぐに、研究課題に戻って、その方法が問いに答えるために必要となる情報を集めるのに役立つかどうかを確認します。データを集め、今それを分析しているところを想像してみてください。それは研究の問いに答えるために役立っていますか。想定される答えを質問紙に記入したり、友人とのインタビューをロールプレイしたりするのもよいかもしれません。

研究方法	考慮すべきこと
質問紙 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 混乱や誤解を招かないよう質問は簡潔にしましょう。</li> <li>■ 必要な情報を与えてくれる質問の種類を使いましょう。閉じた質問と開いた質問を使い分けるとよいかもしれません。(巻末の追加資料(no.2)の例を参照。「その他」の回答欄が設けられています)</li> <li>■ 質問紙は要点が絞られた簡潔なものにしましょう。質問紙に関連のない質問が多すぎることがよくあります。よい質問紙は、長いからよいのではなく、できる限り短い時間で適切な質問を行うからよいのです。</li> <li>■ 同僚に質問紙を確認してもらい、フィードバックをもらいます。できれば、質問が明確であることを確認するために、違うクラスの児童生徒に回答してもらいます。</li> </ul>
インタビュー 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インタビューの前に質問項目を決めましょう。</li> <li>■ 得られた回答が短すぎたり、情報が少なすぎたりする場合に備えて、追加の質問を考えておきましょう。</li> <li>■ 「開いた」質問を心がけ、児童生徒を特定の答えに「誘導する」質問は避けましょう。</li> <li>■ インタビューを行う日時を事前に考えましょう。</li> </ul>
教室での観察 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 観察する前に焦点化する領域を決めましょう。そのために、観察のチェックリストを作成するとよいでしょう(巻末の追加資料(no. 2)の例を参照)。</li> <li>■ 同僚に授業を見てもらう場合、事前に同僚と焦点や手順を確認しておきましょう。</li> <li>■ 授業を録音(画)する場合、児童生徒に録音(画)することを伝えましょう。</li> <li>■ 技術的な問題を避けるために、収録機材を適切に準備しましょう。</li> <li>■ 収録機材の置く場所を事前によく検討しましょう。</li> <li>■ 事前に収録の日時を考えておきましょう。</li> </ul>

## 課題 5.8

データを集めるための主な方法として、質問紙、インタビュー、教室での観察を使用することをもし決めたとしたら、データ収集を開始する前に、次のチェックリストをガイドとして使用し、考慮すべき様々なことを把握しておきましょう。可能であれば、計画する際、同僚や批評してくれる友人か誰かに手伝ってもらいましょう。それができない場合、できるだけ批判的に自分で質問してみよう。

研究方法	考慮すべきこと	Check ✓
質問紙 	1. 質問を用意しましたか。	
	2. 質問は理解しやすいものですか。	
	3. 様々な質問形式を使用しましたか。	
	4. 質問紙は十分簡潔なものですか。	
	5. 質問は、探索する主要な問題と関連していますか。	
	6. 同僚に質問紙を確認してもらいましたか。	
	7. 別のクラスの児童生徒に質問紙を(「試験的」に)回答してもらいましたか。	
インタビュー 	1. 質問を用意しましたか。	
	2. 追加の質問を考えましたか。	
	3. 質問は理解しやすいものですか。	
	4. インタビューの日時を決めましたか。	
	5. インタビューの場所を決めましたか。	
	6. 収録する場合、収録機材を準備しましたか。	
	7. メモを取る場合、どこで、どのようにメモを取るかを決めましたか。	
教室での観察 	1. 観察で焦点化する領域を決めましたか。	
	2. 同僚に授業を観察するよう依頼しましたか。	
	3. 同僚に観察の焦点を知らせましたか。	
	4. 録音(画)する場合、児童生徒に録音(画)することを伝えましたか。	
	5. 観察の日時を決めましたか。	
	6. 録音(画)する場合、収録機材を準備し、どこに置るか計画しましたか。	
	7. メモを取る場合、どこで、どのようにメモを取るかを決めましたか。	
	8. 観察のための日時を選びましたか。	

テーマを決め、探索型の問いを特定し、集める必要のあるデータの種類を決定したら、研究スケジュールを立てることをお勧めします。研究スケジュールは、研究のプロセスで行うべき様々な行動と、それぞれの行動に必要な時間を記録しておくのに便利な方法です。

このことに役立ててもらうために、データ収集のプロセスで行う必要があるかもしれない事柄を以下にまとめました。また、研究の探索段階に要するおおよその時間(11~14週間)も示しましたが、この時間は私たちの経験にもとづいたものにすぎず、様々な要因で変わることがあります。各ステップの詳細については、次のページを読んでください。

やるべきこと	時間
1. 学校、児童生徒、その他の関係者に知らせ、許可を得る。	1週間
2. 関係する可能性のある同僚に相談する。	1週間
3. データ収集の日時を計画する。	1週間
4. データ収集の方法(質問紙、インタビューの質問、観察チェックリスト、振り返りノートなど)を設計する。	2~3週間
5. データを収集する。	4~6週間
6. 収集したデータを分析し、振り返りを行う。	2週間

研究スケジュールを変更させるかもしれない考慮すべき様々な要素があります。それは以下のようなものです。

- 休暇による授業の中断
- 病気休暇
- 学校行事
- 学年暦の変更
- 試験
- 自然災害
- 研究を行うために学校の許可を待つこと
- 教員研修
- あなたを観察し、批評してくれる友人を見つけることの難しさ
- 教師の評価

左のような混乱を避けるためにも、締め切りを柔軟に設定することをお勧めします。もしそのような事態が発生したら、準備していた余分な時間を使う必要があるでしょう。

### 課題 5.9

上記の行動と時間のリストをもとに、自分の研究、問い、集める必要のある情報の種類を考慮し、自分の研究スケジュールを計画するために、以下の表を埋めてみましょう。

The notebook shows a four-month planning grid. Each month is labeled 'Month X - すべきこと' and contains four rows labeled 'Week 1' through 'Week 4'. The pages are lined, and a green bookmark is visible in the center.

## まとめとフォローアップ

この章では、研究課題からデータ収集の方法までを説明しました。様々な種類のデータ(振り返りを書くこと、インタビューや観察のメモ、質問紙の回答など)について、実践的な説明と例を見ました。それぞれの課題では、どのように問いの内容に方法を合わせる必要があるかが示されました。最後に、データ収集のプロセスで考慮すべき重要なことをいくつか提示しました。

### フォローアップ

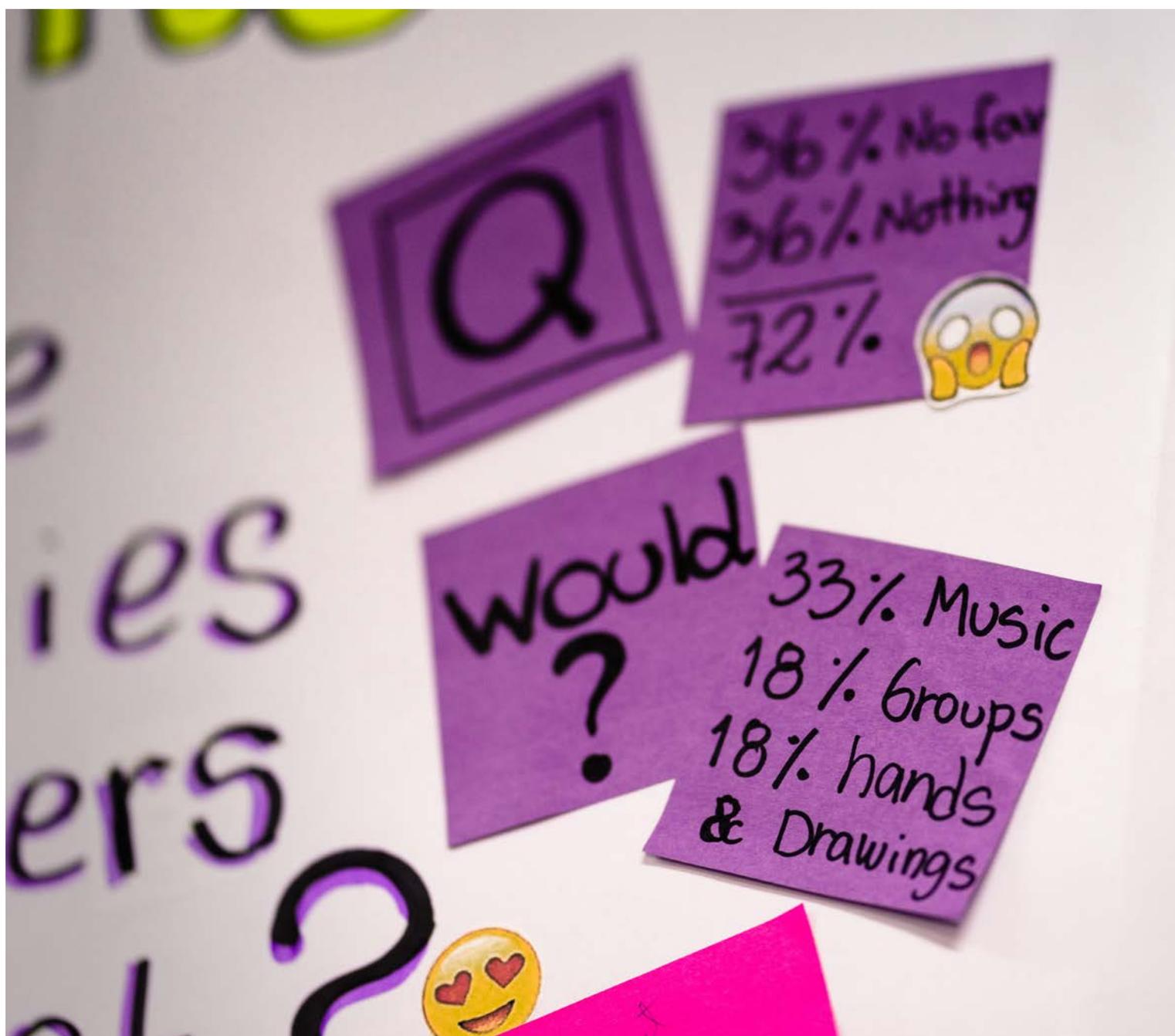
第3章と本章の冒頭では、アンドレアの話を見ました。思い出してもらうために、ここで彼女の話の全文を読んでみることをお勧めします。 <https://bit.ly/andrearobles>

アンドレアの話の中で、彼女が集めた異なる種類のデータを特定してみてください。彼女は何らかの形で「トライアングレーション」を使用しましたか。複数の種類のデータを集めることは、彼女にとってどのように役立ちましたか。

## 6. 何がわかるか

前章では、問いに答えるためにどのような種類の情報(データ)を収集できるのか、そして、データを得るためにどのような「方法」を活用できるのかを検討しました。方法については、例えば、学習者を観察したり、学習者にインタビューしたり、コメントを書かせたり、質問紙に答えさせたりすることを取り上げました。

本章では、収集されたデータの分析方法に目を向けます。そして、研究課題に答えるために、わかったことをどのように解釈できるかを考えます。



## 「分析」:(名詞)「ある物の要素や構造の詳細な検討」<sup>1</sup>

第2章では、「研究」の異なる定義を紹介しました。これらの定義によると、データの「分析」は研究のプロセスの重要な部分であるとされています。分析は、結論を導き出し、意思決定することができるように、注意深く情報を吟味することを含みます。

わかりやすいようにこのプロセスを説明するつもりです。というのは、「データ分析」は、かなり専門的な知識や技能が求められる活動のように思われ、例えば、多くの人がデータ分析には複雑な統計手法が含まれるに違いないと考えているからです。データ分析というのは実は比較的簡単で、楽しいことですらあると示すことができればと思っています。

### 6.1 ダニエラの話

ダニエラ・ガハルドによるアクション・リサーチの話は、それ自体で心揺さぶるものです。また、「量的」データと「質的」データという、2つの基本的に異なるデータの種類に関する重要な区分について理解するのに役立ちます。両方とも役立つのですが、それぞれ異なる方法で役立ちます。ダニエラの事例の最初の段階について読み、課題 6.1 に取り組んでみましょう。

「それでは、この印象的で、ワクワクする経験について話をさせてください。それは私の生徒を対象に話すことを促す目的のプロジェクトとして始まりました。私は、生徒たちの行動についてメモを取りながら、観察する期間から始めました。

そのプロセスで最初に気づいたのは、生徒が英語ではなく母語で答えたり話したりすることに慣れていることでした。

私は『なぜ英語で答えようとしらないのですか』と生徒に尋ねてみました。そして、生徒の回答から次のことがわかりました。生徒がスペイン語で答えるたびに、私は生徒が質問を理解していないか、英語で表現する方法を知らないと決めつけてしまい、生徒の母語で質問を解説していました。その結果、生徒は母語を活用して意味を理解することがずっと簡単で快適なものとなっていました。そのとき、私は最初の教訓を学びました。『生徒を過小評価してはいけません。生徒は適切な方法で言語に向き合うための道具を身に付け始めているが、もし教師がそうすることをさせないと、生徒はまったく試みようとしないうだろう』そしてそれ以来、私は生徒には英語だけで話すことを決意しました。そうすることで、生徒に英語を話すように促すことができました」

ダニエラは何がわかったのでしょうか。ダニエラの質問紙調査の結果の一部を次に示します。それらを読んで、下の課題に取り組んでください。

#### 1. 授業で英語を話すのが好きですか、また、楽しいですか。

はい:20

どちらでもない:13

いいえ:5

#### 2. 英語を話すことはあなたにとって重要ですか。

はい:32

わからない:3

いいえ:5

#### 3. 将来、英語を話したいですか。

はい:30

わからない:3

いいえ:3

### 課題 6.1 @

ダニエラの生徒の回答にもとづいて、次の文を完成させてください(電卓が必要かもしれません)。解答であなたの答えを確認できます。

A. \_\_\_\_\_% の生徒は、授業で英語を話すことを間違いなく楽しんでしています。

B. \_\_\_\_\_% の生徒は、英語を話すことが重要だと考えています。

C. \_\_\_\_\_% の生徒は、将来、英語を話したいと思っています。

それでは、次の3つの質問(A~C)について考えてみましょう。)

A. このデータは生徒について何を教えてくれますか。

B. このデータは何を教えてくれませんか。

C. ダニエラの生徒に質問するとしたらどのような質問をしたいですか。

### 解説

ダニエラが質問紙調査を通して収集した情報を見ると、主に数字と割合の形で表現されていることがわかります。これが、量的データと呼ばれるものです。つまり、数値、統計値、または割合の形の情報です。ある状況がどれほど一般的かあるいはそうでないかを理解するのに役立ちます。言い換えれば、それは「何人いるか」「どのくらいの頻度か」といった質問に答える助けとなります。

上記の質問1~3は、典型的な「量的な質問」です。英語教師として、あなたは、質問にはYes/No疑問文もあることに気づくかもしれません。そのような質問からは、限定された範囲の答えを得ることができます。その他によく用いられる量的な質問は、「どれくらいの」「いくつの」「どのくらいの期間」「いつ」などで始まるものです。もちろん、質問をせずに量的データを収集することもできます。例えば、同僚に授業を観察してもらい、あることを何回行ったかを数えてもらうことによって、量的データを得ることができます。

<sup>1</sup> Oxford English Dictionary

以下に示すように、ダニエラは、別の種類の、さらに役立つ質問を質問紙に加えました。

1. 英語を話すとき、どのように感じますか。
2. 英語の授業でどのような活動が好きですか、あるいは行いたいですか。

これらの2つの質問は、典型的な「質的な質問」です。このような質問は多くの場合、開いた質問です。(この場合のように)人が何を考えているか、または感じているかを理解するのに役立つ幅広い回答を得ることができます。このような質問を使えば、研究の中で参加者の声を聞くことができます。

これら2つの質問によって、感情、意見、印象、性質などの説明を含む、いわゆる質的データが収集されました。ダニエラが把握していた問題の原因を理解するために、これらの質問をどのように尋ねる必要があるかに注目してみましょう。「どのように」と「なぜ」は、おそらくもっともよく使われる質的な問いです。質的データは、量的データとは異なり、語句や短文、長めの文、あるいは文章として視覚的に表されるものです。

## 課題 6.2

以下のダニエラのさらなる調査結果について読み、次の質問DとEに教えてください。

4. 英語を話すとき、どのように感じますか。

グループA(15名の生徒)は、授業で英語を話すとき、快適でリラックスしており問題ないと感じています。授業で話す活動を行うことは、正確に話すことのできるスキルを伸ばすのに役立つと感じています。

グループB(23名の生徒)は、英語を適切にまたは正確に使用する力を持っていないため、緊張し、不安を感じ、自信がありません。生徒のほとんどは、間違ったり、クラスメートが生徒の間違いを笑うのを聞いたりすることを恐れて、緊張し、自信がなく、恥ずかしい思いをすると回答しました。回答の中には、正解を知っていると気持ちがいいが、間違っているとイライラするという生徒もいました。最後に、1人だけ、発音に自信がないため、話す問題やテストが好きではないと答えました。

5. 英語の授業でどのような活動が好きですか、あるいは行いたいですか。

この質問への回答のほとんどは、より実践的で、面白く、グループワークを授業で行うことに集中していました。回答が多かった順に、歌、ゲーム、カラオケ、映画、口頭練習、演技、クイズやジグソー学習、絵を描いて当てるゲーム、グループ競争、単語の綴り、ディベート、単語の発音を繰り返したり覚えたりすることがあげられました。また、生徒の中には、もっと英語の授業や放課後の英語のワークショップを実施するよう提案するものもいました。

D. ダニエラは上記の2つの質問をすることで、どのような追加情報を入手しましたか。

E. なぜこれが役に立ちましたか。

## 6.2 質的データの分析と解釈

量的データの分析には、基本的に数をかぞえることが含まれます(上記の6.1および下記の6.3を参照)。一方、質的データの分析には、コーディング、つまり、類似したアイデアを簡単にグループ化できるようにアイデアにラベルを付けることが含まれることがよくあります。

例えば、「グループワークについてどう思いますか」という質問に対して書いてもらった4名の生徒の回答を考えてみましょう。

- A. 練習するのが好きです。
- B. リラックスしているのが好きです。
- C. 英語を話すことが好きです。
- D. 安心して英語で会話することが好きです。



これらの回答は異なる表現が用いられ、すべて異なりますが、よく読むと類似点に気づきます。「キーワード」または「コード」とも呼ばれるラベルをそれぞれの個別のアイデアに付けていくと、類似点がより明確になるでしょう。

回答	コード/ラベル
A. 練習するのが好きです。	[+練習]
B. リラックスしているのが好きです。	[+リラックス]
C. 英語を話すことが好きです。	[+英語を話すこと]
D. 安心して英語で会話することが好きです。	[+英語を話すこと] [+安心して]

上記の(D)の場合のように、1つの回答の記述に複数のコードを付与することができることに注意してください。また、コードは1つの単語である必要はありません。「英語を話すこと」のように、2つ以上の単語を使用できます。必要に応じて、「好き」には「+」、嫌いには「-」などの記号を使用できます。ただし、あなたが使用することになる実際のコードと記号は、データで読み取ったものに対応するように、あなたが作り出していきます。使用「しなければならない」という決まったコードや記号はありません。

上記のコード/ラベルの列をもう一度見ると、おそらくいくつかの類似点を特定することができるでしょう。話すことで英語を練習することの楽しみについて考えるならば、生徒が英語を「使うこと」が好きであると言うことができます。また、「リラックス」することと「安心して」いることは同じようなものに見えるので、これも共通の概念であると言えます。ここで、「カテゴリー」と呼ばれる大きなラベルの下にアイデアをまとめてみましょう(下の表を参照)。カテゴリーは基本的に「より大きなコード」です。これは、互いに類似しているためにまとめられたコードが含まれているためです。

回答	コード/ラベル	カテゴリー
A. 練習するのが好きです。	[+英語を練習する]	[+英語を使う]
B. リラックスしているのが好きです。	[+リラックス]	[+リラックス]
C. 英語を話すことが好きです。	[+英語を話すこと]	[+英語を使う]
D. 安心して英語で会話することが好きです。	[+英語を話すこと] [+リラックス]	[+英語を使う] [+リラックス]

この分析を要約すると、この生徒のうち3名は、英語を使用したり練習したりするグループワークが好きであり、4名の生徒のうち2名は、グループワークがリラックスできるということを肯定的にとらえています。

これまで、小さなデータのまとまりを分析する方法を見てきました。結果は、下に示されたように、教師の「調査結果」を構成します。

**データ+分析=調査結果**

しかし、調査結果は、「データが語ること」だけではありません。さらに何かが必要です。それは調査結果について解釈することです。

「解釈する」:(他)動詞。「何かがある特定の意味を持っていると判断したり、それをそのように理解したりすること」<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Oxford English Dictionary

調査結果を解釈するには、次のような質問を自分に問いかける必要があります。



基本的な問いは「だから何か」です。もともと設定していた研究課題や研究動機を思い出しながら、調査結果が何を意味するのかを判断する必要があります。例えば、上記のデータの場合、教師の研究課題が「生徒はグループワークが役立つと思うか」であったとしたら、少なくとも対象の生徒にとってその答えは明らかに「そう思う」のようです。もし同じクラスの他の生徒が同様に答えるならば、教師は、グループワークを活用し続けてもよいということを明らかに示していると解釈してもよいでしょう。

### 課題 6.3 @

どのような類似点が見られるかを考えながら、引き続き質的データにコードを付けてみてください。今度は、特定の研究課題に関連づけて調査結果を解釈することしてみましょう。

「私[教師]は生徒の母語であるスペイン語を教室で使用すべきか」という、教師がとくに興味を持っていることや研究課題について、授業での話し合いの中で、異なる8名の生徒がどのように答えたか見てみましょう(教師はこの話し合いを録音し、後でその録音を聞きながら個々の生徒の回答を書き留めました)。

各回答について1つ以上のキーワードを書き出してみてください。次に、類似点(カテゴリー)が出現するかどうかを確認してください。最後に、教師がスペイン語を使うべきかどうかについて調査結果から何がわかると思うかを数文でまとめてみましょう。

- A. 「私たちがわからなくなったとき、スペイン語を使ってもらえば助かると思います」
- B. 「母語が使われれば、理解しやすくなると思います」
- C. 「母語が使われると、授業への興味がなくなります」
- D. 「理解できない場合は、スペイン語で話す方がよいです」
- E. 「スペイン語が使われると、授業の進度が遅くなる可能性があります」
- F. 「理解できたと感じると、安心します」
- G. 「しばらくして、私たちが知っている言語が使われると、すぐに退屈します」
- H. 「目標言語が使われた方が、より早く学べると思います」

コードを整理し、コードからカテゴリーを作成するのに役立つために、以下のような表を作成するとよいでしょう。

回答	コード/ラベル	カテゴリー
A. 「私たちがわからなくなったとき、スペイン語を使ってもらえば助かると思います」		
B. 「母語が使われれば、理解しやすくなると思います」		
C. 「母語が使われると、授業への興味がなくなります」		
D. 「理解できない場合は、スペイン語で話す方がよいです」		
E. 「スペイン語が使われると、授業の進度が遅くなる可能性があります」		
F. 「理解できたと感じると、安心します」		
G. 「しばらくして、私たちが知っている言語が使われると、すぐに退屈します」		
H. 「目標言語が使われた方が、より早く学べると思います」		



課題 6.4 @

授業で教師が使用するインタラクションの異なるパターンについての振り返りを5分間で生徒に書いてもらった次の抜粋を見てください。その際の質問は、「ペアワークとグループワークについてどう思いますか」でした。各回答の横に、好きなようにキーワードやキーフレーズを書いてください。その後、カテゴリーを生成しながらどのような類似点と相違点が見られるかを述べ、そのデータを要約した短い文章を書いてください。その際、「だから何か」に関して(この教師自身の悩みである「ペアワークはグループワークよりも効果があるか」に関連して)考えてください。

同じデータでも人により異なる語を使ってコード化したり要約したりするので、内容がほぼ同じであれば、あなたの答えがいくつかの点で異なっても心配しないでください。質的データをコード化したりラベル付けしたりする方法について納得できない場合は、別の視点の意見をくれるように批評してくれる友人に頼むとよいでしょう。あなたと他の人のコード化の方法を比較してみるのはとてもよいことです。

解説

これまで、この節では、質的データの例と、コード化し、カテゴリーを生成する方法を紹介してきました。また、児童生徒からの回答をコード化し、分類し、解釈する課題を行いました。質的データを分析する際に、どのような手順をとればよいのか、はっきりしたイメージを持つことができたと思います。これらの手順をまとめると次のようになります。

1. 個人で作業し、各回答の横にキーワードまたはキーフレーズを書きます。
2. これらのキーワード(「コード」)を見て、類似点を特定し、カテゴリーをつくるためにアイデアをまとめることができるかどうかを考えます。
3. (可能であれば)同じ課題を行った同僚とカテゴリーを比較します。
4. 主なカテゴリーを説明する要約を書きます。
5. 「だから何か」という問いについて考えます。あなたの調査結果は、研究課題に答えるのにどのように役立ちますか。

質問に対する回答例を使って、これらの手順を見て(実際に試して)きました。しかし、質的データには、児童生徒に振り返りのメモを書くよう指示したときに得られるような文章の形もあります。コード化の方法は同じです。次の課題で試してみてください。

「私たちがペアで活動するとき、マリアは私に言葉の意味を教えてください。彼女は私にとって辞書のようなものです」-カーラ

「アグスティンは私の親友なので、私たちはいつも同じグループになるようにして、冗談を言い合います。とても楽しいです。でもペアワークでは、女の子と一緒に勉強するのが好きです。女の子はもっと真面目です」-ビセンテ

「グループは騒がしいです。また、ビセンテと一緒に活動するのは好きではありません。彼は英語を話すのが速すぎます。私は1人で活動する方が好きです」-アグスティン

「グループワークでは、みんな私の答えを写します。そして私にとってもたくさん質問をします。まず自分で練習問題をしてから、他の生徒と比較するのが好きです。その方法はとても役立つと思います」-ソフィア

「私はペアワークとグループワークが好きです。とくに、誰と一緒に活動するかを選択できる場合は好きです」-マリア

この課題には、次の表を使用しましょう。

コメント	キーワード	カテゴリー
1. カーラ:「私たちがペアで活動するとき、マリアは私に言葉の意味を教えてください。彼女は私にとって辞書のようなものです」		
2. ビセンテ:「アグスティンは私の親友なので、私たちはいつも同じグループになるようにして、冗談を言い合います。とても楽しいです。でもペアワークでは、女の子と一緒に勉強するのが好きです。女の子はもっと真面目です」		
3. アグスティン:「グループは騒がしいです。また、ビセンテと一緒に活動するのは好きではありません。彼は英語を話すのが速すぎます。私は1人で活動する方が好きです」		
4. ソフィア:「グループワークでは、みんな私の答えを写します。そして私にとってもたくさんの質問をします。まず自分で練習問題をしてから、他の生徒と比較するのが好きです。その方法はとても役立つと思います」		
5. マリア:「私はペアワークとグループワークが好きです。とくに、誰と一緒に活動するかを選択できる場合は好きです」		

要約 / 結果についての解釈

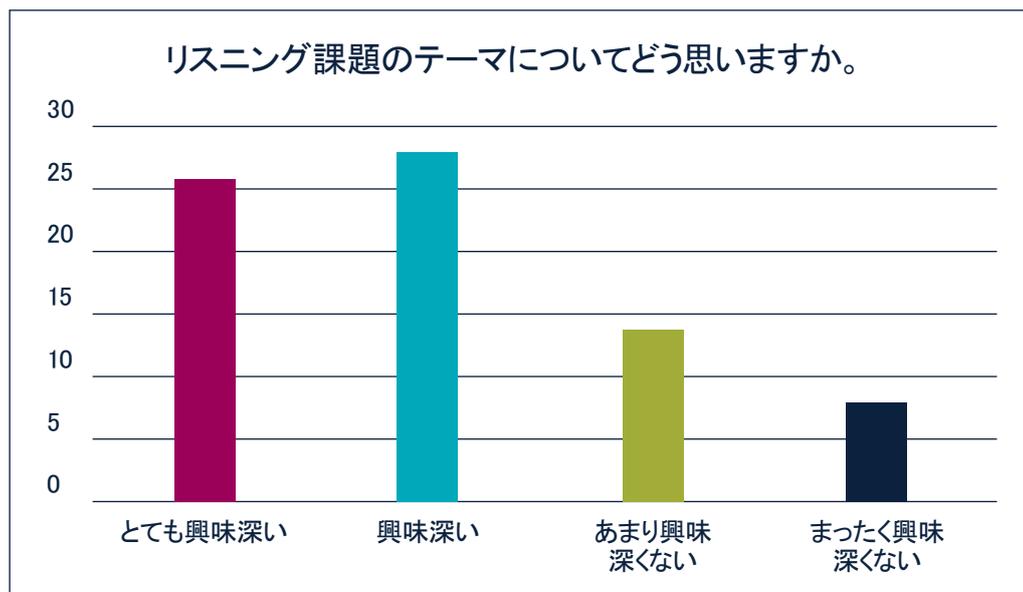
### 6.3 量的データの解釈

質的データ(6.2を参照)と同様に、量的データも解釈する必要があります。単に「データ自体が語る」わけではありません。数字や割合は、あなたの問いについて、いくらかの情報は与えてくれますが、あなたが見つけたことの意味を完全に説明するものではありません。このためには、「だから何か」と自問する必要があります。この質問に答えるには、データを視覚的な方法で整理すると便利な場合があります。これにより、データをよりよく理解できるようになるからです。

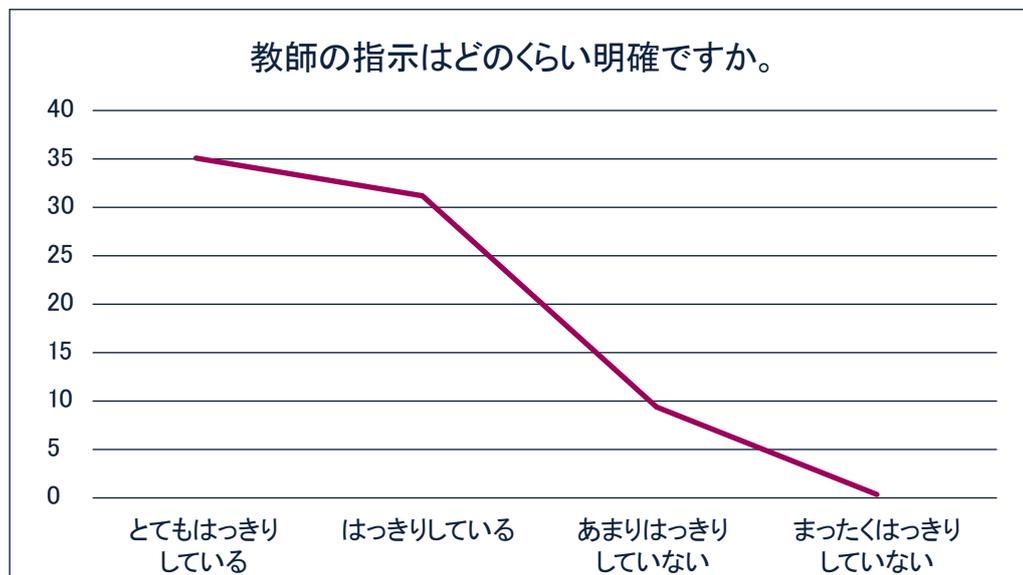
例えば、ロレーナ(彼女の話は第2章で紹介されました)は、彼女の生徒がリスニング課題を熱心に取り組まないことが気になっていました。彼女がしたことの一つは、質問紙調査を通して生徒の考えや好みを把握することでした。彼女は生徒の回答を(以下に示す)表にまとめました。

1. リスニング課題のテーマについてどう思いますか。	とても興味深い	興味深い	あまり興味深くない	まったく興味深くない
	26	28	14	8
2. どの活動がもっとも好きですか。	歌	教科書の活動		映画
	48	1		27
3. 教師の指示はどのくらい明確ですか。	とてもはっきりしている	はっきりしている	あまりはっきりしていない	まったくはっきりしていない
	35	31	10	0

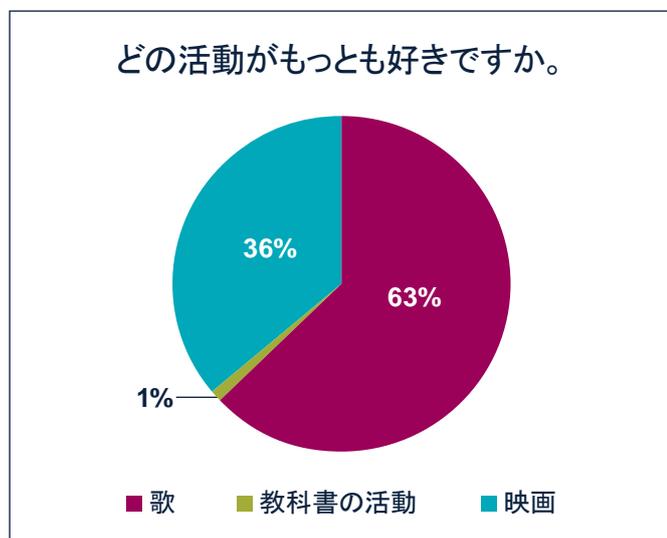
前ページのような表を利用することで、もっとも頻度の高い回答が何かを知ることができます。グラフを作成すると、さらに明確になります。例えば、以下に、質問ごとのグラフを作成しました。



棒グラフ



折れ線グラフ



円グラフ

各グラフを見ると、もっとも強い好み、つまり(山のような)「ピーク」をより簡単に確認でき、「だから何か」という質問に答えることができます。ローレーナの場合、リスニング課題に対して生徒が肯定的にとらえていることに気づくことができました。これは彼女が予想していたことではありませんでした。また、リスニング課題の際、生徒の取り組みがよくない理由がまだわかりませんでした。そこで、彼女はさらに理解を深めるために、フォーカス・グループ・ディスカッションの調査結果を分析することにしました。

課題 6.5 @

別のチャンピオン・ティーチャーであるダニエラ(上記6.1)の話は、彼女の質的および量的データの例を見てみました。ロレーナのように、彼女は、解釈を容易にするために量的データを整理する表も活用しました。

例えば、質問紙調査で、ダニエラは「授業中、何パーセントぐらい理解していますか」と質問しました。彼女は、異なる割合を選択した生徒の数を数え、表にまとめました。右側には、得られた質的な回答を要約しました。量的データにもとづいて、棒グラフを作ってみてください。その後で、解答を確認しましょう。

割合	生徒の人数	質的な回答の要約
100%	3	授業の50%以上を理解している子どもは、その授業で扱った語を常に理解できるとは限らないと述べました。しかし、生徒は、高いレベルの理解を深めるために、主要内容だけでなく、副次的な内容も理解できていました。それで授業を理解するには十分でした。
90%	8	
80%	6	
70%	2	
60%	3	
50%	5	
40%	7	授業全体を理解していない生徒は、授業での規律が欠けているため、適切に注意を向けたり、集中したりできないと主張します。
30%	1	
20%	1	
10%	1	
0%	1	

何がわかりますか。山は何ですか。ダニエラの研究課題は、「生徒は授業中どの程度理解しているか」でした。この問いに照らして、彼女は上記の調査結果をどのように解釈すると思いますか。

解説

このデータから多くのことがわかります。教師の観点からは、概ねよいことです。生徒の大多数は、教師の言うことのほとんどを理解でき、知らないことを理解しようとするところからよく学んでいる可能性があります。ただし、データには2つの「山」があります。80~90%に最大の山がありますが、40~50%にも山があります。データをグラフに変換することで、より明確になり、ダニエラがこの問題や、このクラスにどのような問題があるのか、また、潜在的な解決策についても考えることができるようになることに注目してください。

次に、別のチャンピオン・ティーチャーズであるハビエル・アバロスと一緒に別の例を見てみましょう。ハビエルがクラスで学習者のやる気に関して把握している問題について読んでください。

「私は、様々な理由で学校を中退した若者と大人(16歳から60歳)のために公立学校で研究を行いました。生徒に教え始めたとき、私たちが英語について話す際、生徒が時々怖がったり静かになったりしているように見えることに気づきました。生徒は私を恐れていたのではなく、英語そのものを恐れていたようでした。そして生徒の英語のレベルがとても低いことに気づきました。『生徒が英語を恐れているのに、英語を学ぶことができるだろうか』と私は疑問に思いました。私はいくつかのテストを実施し、成績が低いことがわかりました。それで、『英語についてどのように感じているか』『なぜ英語を学ぶことができないと思うか』『言語を学ぶことに心地よさを感じたり自信があったりしたか』と生徒にランダムに尋ね始めました。私はメモを取りました。英語を学ぶことに嬉しさを感じる生徒もいましたが、英語が苦手な生徒の中には『英語がわからない』『英語はどうでもよい。役に立たないから』『ここはチリだから、スペイン語で十分』『間違っただけをしていると思うと、英語では恥ずかしい感じがする』などと述べる生徒もいました。より詳しく調べるために調査をすることにしました」

ハビエルの研究の最初の部分で、質問紙調査によって得た回答は次の通りです。

設問	そう思う	どちらでもない	そう思わない
1. Inglés es un idioma muy difícil. [英語はとても難しい言語である。]	3	2	2
2. Me pongo nervioso cada vez que tengo clases de Inglés. [英語の授業があるときはいつも緊張する。]	6	0	1
3. Inglés me frustra porque no sé nada. [英語について何も知らないので、イライラする。]	5	1	1
4. Me siento imposibilitado de aprender Inglés. [英語を学ぶのは不可能だと思う。]	2	2	3
5. Siento que Inglés está muy lejos para aprender. [英語を学ぶのに長い時間がかかると思う。]	3	0	4
6. Yo puedo aprender Inglés pero siento que es difícil. [英語を学ぶことができても、難しいと思う。]	4	2	1
7. Me siento motivado debido a mis notas en Inglés. [英語の成績のおかげで、やる気が出る。]	4	2	1
8. No aprendo inglés por flojera. [怠け者なので、英語を学べない。]	3	1	3
9. Me siento avergonzado en inglés porque pienso que me puedo equivocar. [英語で恥ずかしいと感じるのは、間違っているかもしれないと思うからだ。]	3	2	2
10. Me da vergüenza preguntar en inglés. [英語で質問するのは恥ずかしい。]	5	0	2
11. Creo que puedo aprender inglés pero no confío en mí. [英語は学べると思うが、自分に自信がない。]	3	3	1
12. Creo que puedo aprender inglés. [英語を学べると信じている。]	4	2	1
13. Entiendo las palabras pero no sé cómo pronunciarlas. [単語は理解できるが、発音の仕方がわからない。]	6	1	0
14. Me aterra inglés porque no sé cómo pronunciar. [英語の発音の仕方がわからないので怖い。]	3	2	2

## 課題 6.6 @

ハビエルが得た質問紙調査の回答を見てください。そう思うか、そう思わないか、過半数の回答に丸を付けてください。これらの回答に共通するものは何でしょうか。

全体として、ハビエルはこれらの結果をどのように解釈したと思いますか。言い換えれば、最初に抱いた質問である「英語について生徒はどのように感じているか」「言語を学ぶことに心地よさを感じたり、自信をもったりしているか」に対して彼はどのように答えたでしょうか。解答で、あなたの答えを確認しましょう。

次の章で、ハビエルの話に戻り、彼がこの探索的な研究からアクション・リサーチにどのように移行したかを見ていきます。

## まとめとフォローアップ

さて、これまで、探索的な研究のプロセス全体を見てきました。どのように研究計画を立てるかを見ましたが、

- あなたの問いに応じて、
- 特定の種類のデータを収集し、
- そのデータに応じて、分析および解釈をすること

第4章と第5章では、教室のデータを収集して関心のある分野を探索する方法について見てきました。第6章では、データを理解する方法を見ました。このことによって、例えば、なぜある活動がうまくいくのか、なぜある問題が生じるのか、教師が行うことについて学習者はどのように考えているのかなどのように、状況をよりよく理解することができます。第7章と第8章では、探索を通じて得た新しい理解にもとづいて、どのように指導に変化をもたらせるか、つまり、探索的な研究がどのようにアクション・リサーチに変わるかを見ていきます。

## フォローアップ

第5章では、様々な教室の配置に対する生徒の反応を調べることに興味を持っていた教師であるマウロについて読みました。探索の結果、マウロは生徒が教室のある配置を他の配置よりも好むことを発見しました。どの配置だったのでしょうか。また、どのようにしてこのことがわかったのでしょうか。

マウロはこの理解に至った後、その効果を評価するためにいくつかの活動を試みることにしました。彼は何をしたのでしょうか。彼の詳細な話は <https://bit.ly/maurosaetz> で読むことができます。



# 7. 何を変えるべきか

探索のプロセスを見てきましたが、「探索的アクション・リサーチ」の「行動」の部分に移ります。何かを変えたいかどうか確かめるときです。この章は、変化のための計画を立てる場合にも、計画した変化を実行する場合にも役立ちます。第8章では、効果を調べ、その行動がどのような影響を与えたのかを振り返ることに焦点を当てます。

**How to motivate my 7<sup>th</sup> grade students to speak in English?**

**Teaching context**  
General López  
-36 students  
Escuela Municipal  
Martín Alonqueo  
Vilcún, Araucanía Region

**Research Questions**

1. What do my students do during speaking activities?
2. What topics do my students are interested to speak about?
3. What do I expect from my students to do in speaking activities?
4. How do I create a confident environment for my 7<sup>th</sup> grade students to speak English in class?

**Action plan**  
SING  
Group work

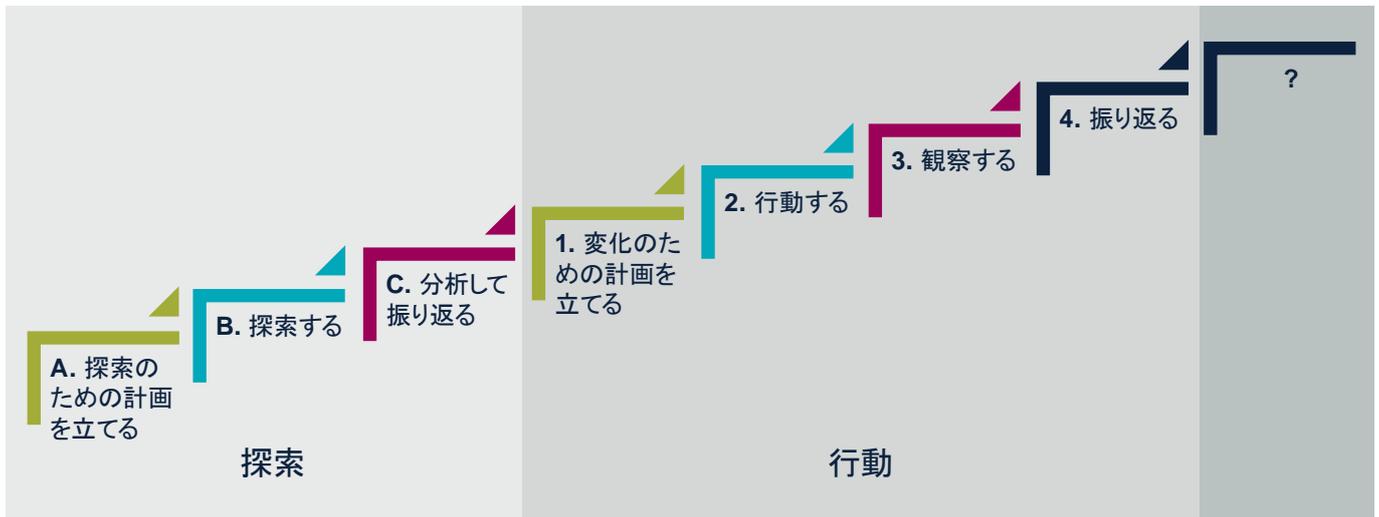
**Relevance**  
Lack of interest / No participation  
Importance of communication  
Reasons - Opinions

**Data collection methods:**  
- Questionnaire  
- Observation  
- Lesson plannings

**Conclusions & Findings**  
High expectations  
Cooperative work

**CHANGE!**  
→ Motivation ↑  
→ Meaningful activities  
→ Students' interest  
→ Concrete evidence %

Do research ✓✓



## 7.1 「新たな行動」は必要か

探索することで、悩んでいる状況、問題のある状況、また、うまくいっている状況でさえも理解を深めることができることを見ました。その結果の分析と解釈にもとづいて、何らかの新しい「行動」が今必要なのかを判断する必要があります。まず、新たな行動の必要はない場合について考えてみましょう。

### 新たな行動の必要はない場合

#### a) 「物事がうまくいっているように見える」場合

探索的な研究課題に関するデータを解釈したとき、例えば、問題だと思っていたことが、児童生徒の視点では、実際には問題ではないとわかれば、それで満足するのかもしれない。

#### b) 「探索すべき新たなことがある」場合

一方、探索すべき新たな悩みや課題が見つかることもあります。この場合には、第4章から第6章で説明した手順にしたがって、新たなテーマと研究課題を掲げて、新たに探索的な研究のプロセスを始めることもあります。

#### c) 「指導がすでに変化している」場合

どんな変化が起こるかは様々です。実際、探索しているだけで、いくつかの変化を起こしていることに気づいたかもしれません。まず、自分の状況の理解が変化したでしょう。結果として、すでに別のやり方で教え始めているかもしれません。

#### d) 「教室の雰囲気はかなりよくなっている」場合

問いを探索する際に児童生徒に関わってもらうことで(例えば、何かについての意見を尋ねることを通して)、教室の雰囲気がすでによくなったと感じたかもしれません。児童生徒は、その学習プロセスへの貢献者としてさらに評価されていると感じ、そのこと自体が児童生徒との「信頼関係」を深め、教師としての尊敬をさらに得るかもしれません。もし、児童生徒と研究の結果を共有したり、議論したりすれば、これもまた、関係性と学習の改善に役立ちます。

ここでは、ある教師、カーラ・オジェダが気づいたことを紹介します。

「信頼関係は、パズルの重要なピースです。なぜなら、あなたは教室の中では1人ではなく、生徒に注意を払う必要があるからです。もっと理解するために、生徒のことを決めつけるのではなく、時間をかけて生徒と話し、生徒の言うことにしっかりと耳を傾けることが必要です。そうすることで信頼関係が深まります」(最終研究報告書)

このように、問題を探索したり、児童生徒の貢献や関わりを受け止めたりする行為自体が、前向きな変化をもたらすことにつながります。例えば、雰囲気がよくなったり、問題が減ったり、教師としての幸福度が上がったりしたらそれで十分だと感じるかもしれません。

### 新たな行動への欲求

状況の新たな理解により、何かを変える必要性、つまり、助けになると思われる指導のアイデアを取り入れようと感じることもあるでしょう。実際にどのような変化があったかを確認するために、データを集めて分析すれば、(単なる「新たな行動」ではなく)アクション・リサーチに取り組むことになります。

あなたはすでに既存の状況がある程度深く探索しているので、変化をもたらそうとする「前」と「後」の状況の違いを分析することは、満足感があり、比較的簡単なことです。次の章(第8章)では、このような前後の比較をどのように行うか(そして、比較に役立つデータをどのように集めるか)について、さらに検討します。ここ(第7章)では、引き続きあなたが変えるべきことを明確にする支援をします。

つまり、この章の残りの部分と次の章では、状況に対する新たな理解が、何らかの変化を望むことにつながり、それが「アクション・リサーチ」につながるものと想定しています。

アクション・リサーチは以下のステップを踏むことを忘れないでください。

1. (変化のための)計画を立てる

2. 行動する(変化を実行する)

3. 観察する(データをもとに何が起きるのかを見る)

4. 振り返る(何が起きたのかを解釈する)

さて、あなたは、実践の中で、異なる教え方、授業の構成の仕方、学習者の支援の仕方など、何かを変える必要があると感じているでしょうか。もしそうであれば、具体的に何を变えたいですか。

探索的な研究を行ってみて、アクション・リサーチに移行する必要性を感じたり、取り組んでみたいと思ったりしますか。その場合は、この先を読んでみてください。

## 7.2 ハビエルの話

下記の7.3では、あなた自身の「アクション・リサーチ」で調査する望ましい変化を明確にするために、新たな行動に役立つような様々な情報源について考えます。まず、最初に、ある教師が問題のある状況を調べた結果、どのような行動をとったかを見てみましょう。

前章の6.3で見たように、ハビエル・アバロスは、(何らかの原因で)恵まれない学習者が授業中やる気になれないという問題を抱えていました。質問紙調査の結果を分析して解釈した後、ハビエルは、このクラスの学習者に対しては、他のクラスと同じ方法では対処することができないことに気づきました。彼は、学習者の自信を高め、温かく前向きなクラスの雰囲気を作ることが、最優先事項であると考えました。彼が実施したことをいくつか紹介します。

「アイスブレイクの時間を増やし、仕事や家庭、夫婦のことなどに関する冗談を言いました。そして、生徒が落ちてきたところで、これからすることを説明して授業を始めました。授業の後半では、練習をしながら(活動をしながら)、1つひとつの項目について丁寧に指導していきました。間違えたときには、必ず『よくやっていますね。ここでは間違っただけでも大丈夫です。続けてください』という言葉を添えて、なぜ間違えたのかを説明しました。そのように言うと、生徒は微笑み、『本当ですか』と尋ねるので、『ええ、もちろん』と返しました。生徒の英語に対する自信が高まり、イライラが一気に解消されました。あるとき、私はスーパーやショッピングモール、地下鉄など、様々な場所の標識を英語で作るという活動を考えました。生徒はすでに多くの標識に慣れ親しんでおり、たとえすべての単語を理解していなくても、記号はよく理解でき標識の意味をつかむことができるというのが主なねらいで

した。生徒は、その作業で、日常の文脈が英語の理解に役立つことを理解しました。それから私はこのようなことを年間を通して行いました。授業を受ける生徒が増え、活動への参加もよくなり、生徒は英語にかなり慣れてきたと感じました。それと同時に、生徒の成績も上がっていき、もちろん、同じ理由で2学期は1学期よりもよくなりました。その後、再び同じ調査を行いましたが、結果は非常によいものでした」

### 課題 7.1

ハビエルは、状況を変えるためのアイデアをどこから得たと思いますか。

#### 解説

ハビエルは、多くの教師と同様、「やる気の欠如」という大きな課題に直面していました。この問題に対する簡単な解決策はありませんが、彼の話からできることが何かしらあることがわかります。ハビエルは、状況を探索した上で、次のような小さな行動を起こしました。

- アイスブレイク活動をする。
- 冗談を言う。
- 各授業の全体計画を説明する。
- 励ましながら訂正する。
- 標識作りなどの創造的な活動をする。

どのようにして彼の授業で前向きな変化が起きたのか、彼のアイデアがどこから来たのか正確にはわかりませんが、その変化は以下の組み合わせによってもたらされたと考えられます。

- A. 特別な行動を伴わない変化。それは、ハビエルが生徒に意見やアイデアを求めたことによる生徒の態度の変化です。生徒に声をかけ、英語に対する態度についての質問紙調査を行っただけで、生徒が問題に注目し、生徒自身の不安や懸念を認識する手助けになったのです。
- B. 新たな行動による変化。ハビエルは、様々なアイデアを試してみました。その中には、おそらく教師としての研修をもとにしたもの(励ましながら訂正するなど)もあるでしょう。あるいは、同僚や他の教師、インターネットなどから得たものかもしれません。また、看板を作る活動のように、自分で考えたものもあったようです。

このように、ハビエルは問題を解決するために、様々な情報源を新たな行動に活用したのです。興味深いことに、彼のアクション・リサーチは1つの大きな変化ではなく、いくつかの小さな変化を伴い、それぞれが全体の結果に貢献しました。

### 7.3 変化のための計画を立てる

ここでは、上記7.1で述べた様々な変化の源を振り返ってみましょう。(もちろん、他にもあるかもしれませんが):

ご存知のように、さらなる行動は必要ではなく、教室の変化は次のように起こります。

- 教師の理解の変化
- 児童生徒の意見や考えを求めたことによる児童生徒の態度の変化
- 結果を共有することによる児童生徒の態度の変化

新たな行動を起こさなくても、探索的な研究によって、このようなことが起こりえます。新たな行動を起こせば、教室は以下のように変化する可能性があります。

- 児童生徒の提案を実行する
- 自分自身のアイデアを実行する
- 他者のアイデアを実行する

このような行動によって起こった変化は、アクション・リサーチによって評価することができます。では、自分の教室に変化をもたらすために、どのように新たな行動を計画できるかを考えてみましょう。

#### 課題 7.2

あなたの新しい授業のアイデアは、どこから生まれる傾向にありますか。当てはまるものすべてにチェックを入れてください。

授業アイデアの源	当てはまるものにチェックをしてください
A. あなたの児童生徒の提案	
B. あなた自身から	
C. 他の教師との会話から	
D. 指導書	
E. 学会	
F. 教師のグループや団体での討議	
G. 学術的研究	
H. 他の教師の研究	
I. その他(どこから)	

#### 児童生徒の提案を実行する

責任を与えられたとき、児童生徒は自分のニーズや好み、そして、教室での課題や問題について、理解を示すようになることがあります。

第6章では、授業中に生徒があまり話さない理由を調べたダニエラを紹介しました。彼女は、教師としての自分の行動に原因があることがわかっただけでなく、ゲームやディベート、ドラマやロールプレイ、歌や映画など、スピーキングスキルを向上させるための活動について、学習者から有益な示唆を得ました。児童生徒からの提案は、「外からの」アイデアよりも成功する可能性が高く、生徒がうまくいくことについて関心を共有するため、とくに役立ちます。生徒からの提案にもとづいてクラスの座席配置を変更したマウロ(第5章)の場合は、とくにそうでした。生徒は自分たちからの提案だとわかっていたため、うまくいってほしいと思った可能性があります。

この章で最初に聞いたチャンピオン・ティーチャーの1人、カーク・オジェダの振り返りはこうでした。

「生徒の声を聞くことで、授業の計画や指導の方法をいろいろと考えることができるようになります。そうすると、自分自身の教育実践のためのインスピレーション、やる気、そして自信を得る機会が増えます」

同じくチャンピオン・ティーチャーのロベルト・デルガドは、生徒の意見を参考にすることの大切さを強調します。彼は次のように述べています。

「生徒とやり取りしなければなりません。この先、うまくいっていないことがあっても、生徒の視点を考慮せずに対策を講じることはしたくありません。これは一種の対話だと思うようになり、それがとても役立ちました。これから授業をするときは、そのことから始めようと思います」

ロベルトの言葉を考えると、授業の活動について児童生徒に提案を求めたことはありますか。もしそうであれば、何について尋ねましたか。

### 課題 7.3 @

本書で読んできた多くの話では、どのように生徒が教室での活動を提案したかが書かれています。テレサ(第4章)は、生徒から面白いアイデアを得た教師の1人です。生徒は彼女に何を伝えたのでしょうか。

#### 自分自身のアイデアを実行する

アクション・リサーチの利点の1つは、あなた自身の教室で、新しいアイデアを試したり、既存のアイデアを改変したりすることで、自分自身の創造性を高める機会となることです。アクション・リサーチの枠組みの中でこれを行うことで、自分の創造性の影響を観察し、どのような効果があるのかについてデータを収集することができます。第1章では、そのよい例として、ポーラの高校の生徒が、国名や国籍を覚えるのに苦労していたことを紹介しました。ポーラは、自分の経験、創造性、学習者に関する知識を活かして、ドミノゲームを作るアイデアを思いつき、彼女が直面していた課題に対する効果的な解決策となりました。学習者はゲームを楽しみながら、語彙を学ぶこともできました。その結果、この例では、ポーラの教師としての創造性が、彼女の介入の主な源であることがわかりました。

ダニエラ(6.1参照)は、生徒が何を望んでいるかを見出し、自分で考えたことを行動に移した教師の一例です。量的・質的データを分析した結果、彼女は以下のことをしました。

- A. 学習者をリラックスさせるために、席替えをしたり、生徒や保護者と面談をしたり、学校心理士の支援を仰いだり、クラスの話し合いを行ったりして、よりよい雰囲気を作った。
- B. スピーキングを促すために、ペアワークやグループワーク、指名棒<sup>1</sup>の使用、より多くの形成的評価、理解度を確認するための質問など、様々な活動を行った。

### 課題 7.4 @

第6章の課題6.1と6.2に戻り、ダニエラの調査結果を読み直してください。彼女が行動(a)と(b)をとろうと決めるのに、主にどの結果が役立ったのでしょうか。自分の答えを解答で確認しましょう。

行動	気づいたこと
A. 学習者をリラックスさせるために、席替えをしたり、生徒や保護者と面談をしたり、学校心理士の支援を仰いだり、クラスの話し合いを行ったりして、よりよい雰囲気を作った。	
B. スピーキングを促すために、ペアワークやグループワーク、指名棒 <sup>1</sup> の使用、より多くの形成的評価、理解度を確認するための質問など、様々な活動を行った。	

#### 他者のアイデアを実行する

教師として、私たちは様々なレベルのコミュニティに属しています。学校のコミュニティがあり、そこでは、同僚からアイデアや教材を得ることもあります。また、より大きな国内外の教師のコミュニティもあります。これら2つのコミュニティで交流する機会を最大限に活用することで、自分の指導に取り入れるアイデアを得ることができます。恰好の情報源となるのが、自身の教室でアクション・リサーチを行っている教師です。もしこの教師があなたと似たような状況(小中学校や高校など

で)で教えていて、とくにあなたと同じ国にいるのであれば、この教師のアイデアが、あなたの教室でもうまくいくかもしれません。ですので、もしこの本をアクション・リサーチ・プログラムの一環として使う場合は、(現在または過去の)他の参加者が同じようなプロジェクトを行っていたか、参加者がどのようなアイデアを持っていたか、それらのプロジェクトやアイデアがどのぐらいうまくいったかを調べてみるとよいでしょう。

<sup>1</sup> 生徒の名前が書かれた色付きの木の棒。その棒を彼女はランダムに選び、各生徒に英語で話す機会を少なくとも1回与えていました。

学会に出たり、会報や雑誌を読んだりすることで、あなた自身の国や世界の他の教師の教室で何がうまくいっているのかわかることができます。しかし、リストはそれだけではありません。あなたが使っている教科書、教材や資料、教師向けのウェブサイト、Facebookグループやその他のオンラインコミュニティなど、どこからでもアイデアを得ることができます。しかし、英語教師は世界中でかなり異なる状況で働いているため、異なる教室でうまくいったことが、必ずしもあなたのあるところで役立つ、適切であるとは限りません。ですから、そのようなアイデアを批判的に評価し、必要に応じて調整を加えてから使用することが賢明です。

第3章では、アンドレアが <https://busyteacher.org/> というウェブサイトから、授業をまとめるという彼女の研究分野の最初のアイデアを得たことがわかりました。教室でうまくいくアイデアを最終的に発展させたのは、様々なアイデアを試し、学習者からのさらなるフィードバックを得て、その中からうまくいったアイデアを採用するというだけのものでした。このように、アンドレアの介入が成功したのは、生徒の提案と自分のアイデアと他者のアイデアを組み合わせることで実行したからなのです。

### 課題 7.5

あなたの同僚が、自身で探索的アクション・リサーチを行い、新たな行動を実行する必要があると決めたと想像してください。結果を分析し、解釈してみると、同僚は以下のことが必要だと認識しました。

1. リスニングの授業を生徒にとってより面白いものにする。
2. グループワークの際、成績のよい生徒と悪い生徒の両方のニーズにさらに対応する。
3. 発話の誤りを訂正する方法を改善する。

同僚にどこでアイデアを探るように助言しますか。メモを取るか、または、誰かと話し合ってみてください。

---



---



---

### 課題 7.6

第4章で、あなた自身の探索的アクション・リサーチ・プロジェクトのために焦点を当てるテーマを定め、また、探索型の問いを特定しました。さらに、データ収集のプロセス(第5章)に入り、そのデータの分析(第6章)を始めたかもしれません。もしそうでなければ、これらの作業を行ってから、この課題に戻ってくるとよいでしょう。

あるいは、この課題のために、自分がデータを集めて分析したと想像して、以下の探索的アクション・リサーチの表を完成させてください。

私のテーマ
(第4章を参照)

私の探索的な問い
(第4章を参照)
1.
2.
3.
4.



私の主な成果
簡潔なまとめを1、2文で書いてください。



これまでの変化
探索の結果、既に何か変化があったかどうかをメモしてください。

可能な「行動」
さらなる変化をもたらすために、あなたが今実行したいと思う(種類の)行動を書き留めてください。

ここで、同僚やメンターにあなたの表、とくに可能な行動を見てもらい、フィードバックをもらいましょう。結果と一致していますか。あなたの同僚やメンターは、それがよいアイデアだと思いますか。同僚やメンターは、別の可能な行動を考えることができますか。アイデアを学習者と共有したいと思うかもしれません。学習者は可能な行動についてどう思うでしょうか。

## 7.4 計画通りに変化を実行する

可能な行動を特定し、同僚やメンターから(場合によっては学習者からも)フィードバックを得たら、変化を実行する準備が整ったこととなります。この節では、あなたの助けとなるいくつかのアドバイスを紹介し、直面する可能性のある課題についても検討します。

### 変化を実行するためのアドバイス

1. 仕事の増加量を考慮する  
変化を実行すると、一時的に仕事量が増える可能性があります。これには、行動の計画、実行、効果の観察が含まれます。可能であれば、仕事量があまり多くない時期に実行するか、行動が日頃の授業から大きく外れないようにしましょう。
2. 行っていることを周りの人に知らせる  
理由は明白ですが、あなたの学校の校長先生や同じ学習者を教えている教師に、自分が何をしているのかとその理由を知らせておくといでしょう。もっとも重要なのは、どのようにして学習者にその変化を取り入れるかを注意深く考えることです。おそらく、変化を実行する前に学習者に説明するとよいでしょう。
3. 事前に計画を立てる  
必要となる時間を考慮に入れ、不測の事態に備えて時間も確保して、行動計画を立てることが重要です。例えば、休日や成績評価の期間は、実行の妨げになることもあるので、必ず考慮するようにしてください。

成果が得られなかったり、予期せぬ問題に遭遇したりした場合どうなるか。

誤りや困難は、どんな学習プロセスにおいてもよくあることです。たいていの場合、私たちは成功からだけでなく、誤りや困難からも多くを学びます。ですから、何よりもまず、これらを恐れてはいけません。それらを観察することこそ、アクション・リサーチのサイクルの一部となります。

もし、予定していた行動を途中で止めなければならなくなったときは、この決定をする原因となった観察内容を振り返り、必要に応じて、(学習者にインタビューするなど)さらにデータを集め、問題をより詳細に理解し、中断することが正しい判断であるかどうかを確認します。この段階で集めたデータは、あなたが意図した行動を修正して、再度試みるときに役立ちます。

### 残りのスケジュールを立てる

第5章(5.4節)では、研究の探索的な部分でやるべき様々なことを把握するために、研究スケジュールを計画することを勧めました。ここでは、プロセスの中でも「行動」の部分で新たにやるべきことについて述べてきました。以下のスケジュールの1.から6.を経て、ステップ7.に到達したことがわかるでしょう。

やるべきこと	時間
1. 学校、児童生徒、その他の関係者に知らせ、許可を得る。	1週間
2. 関係する可能性のある同僚に相談する。	1週間
3. データ収集の日時を計画する。	1週間
4. データ収集の方法(質問紙、インタビューの質問、観察チェックリスト、振り返りノートなど)を設計する。	2~3週間
5. データを収集する。	4~6週間
6. 収集したデータを分析し、振り返りを行う。	2週間
7. 行動計画を作成する。	2週間
8. 行動計画の適用とそれに伴うデータ収集のための日時の計画をする。	1週間
9. データ収集の方法(質問紙調査、インタビューの質問、観察チェックリスト、振り返りノートなど)を設計する。	2~3週間
10. 行動計画を適用して、データを収集する。	4~6週間
11. 収集したデータを分析し、振り返りを行う。	2週間

## 課題 7.7

上記の行動と時間のリストにもとづいて、また、自分の研究、行動計画、収集すべき情報の種類を考慮して、以下の表にあなたの研究における行動の部分の自身の研究スケジュール(上記スケジュールの7.以降)を書き入れてください。

Month 1 – すべきこと		Month 3 – すべきこと	
Week 1		Week 1	
Week 2		Week 2	
Week 3		Week 3	
Week 4		Week 4	
Month 2 – すべきこと		Month 4 – すべきこと	
Week 1		Week 1	
Week 2		Week 2	
Week 3		Week 3	
Week 4		Week 4	

### まとめとフォローアップ

本章では、「探索」から「行動」の局面に移行する探索的アクション・リサーチの方法について学んできました。私たちは、特定の介入を計画する必要があるか、また、探索そのものが十分であったのかを考えました。私たちは、変化が起こりうる様々な方法を検討し、実際の教師の例を見ることで、教師の変化には、様々なアプローチの組み合わせや、当初のアイデアを応用したものもあることを見てきました。また、皆さんには、探索の局面を経て、どのような変化を起こしたいのかを考えたり、物事が計画通りに進まなかった場合に役立つヒントやアドバイスを考えたりする機会がありました。

次章では、どのように変化の効果を観察し、分析するかについて説明し、何が起きたのか、そしてその意味についてどのように振り返るかを考えてみます。

### フォローアップ

エステバン・ロペスは、探索と行動を何度か繰り返し、探索的アクション・リサーチ・プロジェクトを実施しました。最初の行動は、それまで行ったことのない「インプットにもとづく指導」と呼ばれる新しい方法を使ったものでした。それを実行し始めたとき、彼はいくつかの課題に直面しました。例えば、次のようなことに気づきました。

- この方法では、生徒が自分でルールを見つけたときよりも、関わり度が低い。
- インプットにもとづく指導は、言語能力の低い学習者にとっては過度なものになることがあるように感じられる。
- 生徒は、彼が期待していたほどの自発的な発言はまだ見られない。

あなたがエステバンだと想像してみてください。このような状況であなたは何をしますか。できればメモをとったり、同僚と話し合ったりしてください。その後、エステバンの話を読んで、彼が実際に何を次にしたかを確認してください。 <https://bit.ly/estebanlopez>



# 8. 何が起きているのか

本章では、あなたのプロジェクトのアクション・リサーチにおける「新たな行動」の効果を観察し、分析することに焦点を当てていきます。データを集める様々な方法を再検討し、データがどのように分析されるかを再考します。また、そこで気づいたことを振り返り、それが何を示唆するかを考える方法についても見ていきます。つまり、本章では、あなたが次の質問に答えるための支援に焦点を当てます。

## 自分が試みた変化の効果は何か

つまり、探索的な研究で明らかにするのは「現状はどうなっているのか」という基本的な問いと関連するのに対し、アクション・リサーチで明らかにすることは、あなたの実践を変化させた結果、何が起きているのかを教えてください。



## 8.1 ロレーナの話(再考)

まず、第2章で初めて読んだロレーナ・ムニョスの探索的アクション・リサーチのプロジェクトを再び見てみましょう。次の要約と抜粋を読んでから、以下の課題を行ってください。

ロレーナは、9年生から11年生の生徒がリスニングの授業に積極的に参加していないことに気づきました。彼女の探索的な研究の段階では、生徒への質問紙調査、フォーカス・グループ・インタビューの実施、生徒と教師による授業観察が行われました。その結果、生徒は音声のテーマに興味を持っていることがわかりましたが(これはロレーナにとって驚きでした)、多くの音声は長すぎて活動を終わることができないことがわかりました。そのため、生徒はイライラしておしゃべりなど他のことをしてしまっていました。また、生徒の中で歌が一番人気があり、その理由は単純に短くて課題をこなせるからだとわかりました。そこで彼女は、音声の課題を歌のようにすることにしました。音声をいくつかのセクションに分け、「情報を順番に並べる」「空欄を埋める」「正しい単語に下線を引く」「内容と異なるものを消す」などの活動を作りました。

彼女が行動計画を実行した後起こったことを読み返してみましょう。

「2週間が終わるまでに、いくつかの変化が見られました。最初の変化は、生徒がきちんと活動に取り組み、ハンドアウトには正しい答えが記入され、授業に参加しようと多くの手が挙がるのが確認できたことです。また、別の質問紙調査では、リスニング教材を歌のように扱うことで、しっかり取り組めたという回答がありました。生徒は、文章から情報を見つけ出すことができたことや、もっとも好きな活動は、正しい単語に下線を引く、穴埋めをする、仲間はずれを消す活動であることなどを答えてくれました。それでも音声は速すぎることもあり、情報を順番に並べることは難しいようでした。フォーカス・グループ・ディスカッションの参加者は、課題がうまくこなせるようになったことで、やる気が高まり、うまくいっている感じがすると述べています。この

ことは、別の相互観察でも確認されました。観察中、生徒は活動に集中していて他のことに気が散ることはなかったと、ある実習生が話してくれました」

### 課題 8.1 @

「私が試みた変化の効果は何か」という問いに答えるためにロレーナが収集した証拠についてわかる単語やフレーズに下線を引いたり、マーカーで強調したりしてみましょう。

その後、メモを取ったり、同僚と話し合ったりして、以下の質問に答えてください。

1. 彼女が変化の効果に気づき始めるまでに、どのくらいの時間がかかりましたか。
2. どの種類の証拠が「量的」で、どれが「質的」でしたか。
3. 何をもって彼女はその変化が効果的だと知りましたか。

### 解説

ロレーナは、同じ方法を使って、変化を加えた実践を実施する前と後にデータを収集しました。彼女はその後、異なる情報源からのデータを分析し、彼女の実践が効果的であったかを検証しました。

第5章で述べたように、異なる視点から、異なる種類の情報を用いて証拠を見つけようとするプロセスを「トライアングレーション」と呼びます。すべての探索的アクション・リサーチ・プロジェクトでこれを行う必要はありませんが(1種類の証拠で十分な場合もあります)、ロレーナの場合は、複数の視点から物事を見ようとするれば、実践研究はかなり信頼できるものになることを示しています。

## 8.2 研究方法についての注意点

アクション・リサーチの段階では、自分の指導に関する様々な新しい実践(または全体的に新しい実践)を計画することになります。また、「自分が試みた変化の効果は何か」、言い換えれば「何が起こるのか」という問いにできるだけ客観的に答えるために、どのようなデータが必要かを計画する必要があります。

この時点で、第5章で見たデータの種類を再確認する必要があります。

### 課題 8.2

以下のデータの種類に目を通し、それぞれのデータの例を、本書ですでに読んだ実践研究の話から思い出してみてください。

1. 自分が書いた振り返りやメモ	2. そのテーマに関する他の人が書いたアイデア
3. 同僚との雑談のメモ	4. 児童生徒が書いた振り返り
5. フォーカス・グループ・ディスカッションのメモや録音	6. 個人とのインタビュー／会話のメモあるいは録音
7. 質問紙の回答	8. 授業案や教材
9. 授業を録音(画)したもの	10. 授業を批評してくれる友人のメモ
11. 授業の写真	12. 課題に対する児童生徒のパフォーマンス(書かれたもの、あるいは録音(画)されたもの)

### 課題 8.3

あなた自身の探索的アクション・リサーチのプロジェクトについて考えてみてください。課題7.6で作成した表を振り返るのもよいでしょう。メモを取ったり、同僚と話し合ったりして、以下の質問に答えてください。

1. 探索の段階と同じ種類のデータを収集しますか、それともいくつかの変更や追加を行いますか。
2. 新しい実践を実行し始めてから、どのくらいの期間でそのデータを収集しますか。
3. 同じ研究方法を使うことができますか。もしそうであれば、どのような調整が(もし必要であれば)必要ですか。

### 解説

通常、探索の段階と同じ方法を少なくとも1つ使用することをお勧めします。そうすることで、実践の前後を直接比較することができます。

ロレーナが生徒の挙手の数の変化に気づいたときにそうだったように、多くの実践では、学習者の行動を観察しているとすぐに、自然とデータ収集が始まることに気づくでしょう。しかし、質問紙調査やインタビューをしたり、振り返りを書かせたりする前に、学習者がその実践に慣れるための時間を必要とするかもしれません。ロレーナの場合のように、2週間であ

れば、実践が安定するのに十分であり、また学習者やあなたが忘れてしまい、実践の前後の状況を比較できなくなるほどではないかもしれません。

あなたの実践が、教室に新しい活動や学習方法を導入する場合には、あなたが用いたデータ収集方法に変更を加える必要があるでしょう。その変更とは、新たな活動について学習者や観察者がどう思うか、あるいは何に気づくかを尋ねるために、質問紙やインタビューの質問、観察の枠組みに質問やその他の項目を追加することです。ロレーナはアクション・リサーチの段階でこれを行いました。観察をする実習生に、生徒の参加と関わりにもっと焦点を当てるように依頼したのです。2回目のフォーカス・グループ・ディスカッションでは、生徒が新しい種類のリスニング活動を気に入った理由を尋ねました。

### 8.3 探索的な研究とアクション・リサーチの結果の比較

第4章では、自分のテーマと探索型の問い(exploratory questions)を確認しました。そして、第5章では、これらの問いに答えるための情報を収集し、それによって学習者や指導状況についての理解を深める手助けをする様々な方法を検討しました。あなたが得た最初の探索的な情報は、本章の重要な問いである改善型の問い(action questions)に答える際に、とても役立ちます(実際のところ、必要になるでしょう)。

#### 私が試みた変化の効果は何か

ローレーナのように、探索の段階において、以前に収集したデータと実践後に収集したデータを比較することで、アクション・リサーチの基本的な問いにもっとも効果的に答えることができます。

これが、探索的アクション・リサーチのサイクルでの探索の部分が不可欠な理由です。状況をできる限り完全に理解するための初期の観察と記述がなければ、あなたが行ったことの効果进行分析することは困難です。毎回全く同じ種類のデータを集める必要はありませんが、同じものであるほど、その効果を評価しやすくなります。

例えば、同じ質問紙や、ほんの少しの修正を加えて同僚に渡す観察の枠組みなど、多くの場合、同じ方法で情報を収集することができます。

#### 課題 8.4 @

第7章の最後に読んだエステバンの話を振り返ってみましょう。介入の前後に、彼がどのようにデータを収集したかに注目してください。前後で同じ方法を使って証拠を集めていましたか。彼はその方法を何か変えましたか。自分の答えを解答で確認してみてください。

新しい実践の前後で同じ種類のデータを収集する場合、とくにデータに数字が伴う場合は、その変化に気づくのが容易になります。つまり、データを比較することができ、どんな差にも気づくことができるのです。ハビエルの探索的アクション・リサーチの研究を振り返り、これを練習してみましょう(6.3と7.2ですでにこれを行っています)。



ハビエルの質問紙のデータは、1回目と2回目とは、2回目の授業の生徒数が多かったので多少変わりましたが、それでも、彼の新しい実践の効果が、いくつかの差から気づくことができるでしょう。

提示文	1回目の実施			2回目の実施		
	賛成	無関心	反対	賛成	無関心	反対
1. Inglés es un idioma muy difícil. [英語はとても難しい言語である。]	3	2	2	9	3	11
2. Me pongo nervioso cada vez que tengo clases de Inglés. [英語の授業があるときはいつも緊張する。]	6	0	1	5	4	14
3. Inglés me frustra porque no sé nada. [英語について何も知らないので、イライラする。]	5	1	1	6	4	13
4. Me siento imposibilitado de aprender Inglés. [英語を学ぶのは不可能だと思う。]	2	2	3	4	4	15
5. Siento que Inglés está muy lejos para aprender. [英語を学ぶのに長い時間がかかると思う。]	3	0	4	3	6	14
6. Yo puedo aprender Inglés pero siento que es difícil. [英語を学ぶことはできて、難しいと思う。]	4	2	1	17	2	4
7. Me siento motivado debido a mis notas en Inglés. [英語の成績のおかげで、やる気が出る。]	4	2	1	13	5	5
8. No aprendo inglés por flojera. [怠け者なので、英語を学べない。]	3	1	3	6	2	15
9. Me siento avergonzado en inglés porque pienso que me puedo equivocar. [英語で恥ずかしいと感じるのは、間違っているかもしれないと思うからだ。]	3	2	2	8	4	11
10. Me da vergüenza preguntar en inglés. [英語で質問するのは恥ずかしい。]	5	0	2	6	4	13
11. Creo que puedo aprender inglés pero no confío en mí. [英語は学べると思うが、自分に自信がない。]	3	3	1	11	1	11
12. Creo que puedo aprender inglés. [英語を学べると信じている。]	4	2	1	19	1	3
13. Entiendo las palabras pero no sé cómo pronunciarlas. [単語は理解しているが、発音の仕方がわからない。]	6	1	0	12	7	4
14. Me aterra inglés porque no sé cómo pronunciar. [英語の発音の仕方がわからないので怖い。]	3	2	2	7	5	11

### 課題 8.5 @

上のハビエルのデータを見てください。何か気づいたことはありますか。この探索的アクション・リサーチを生徒と一緒にやったハビエルの目的は、「生徒の自信を高め、温かく前向きな教室の雰囲気を作る」ことでした。彼はこの目的を達成したと思いますか。

## 8.4 自己批判的に解釈する

あなたが実行した実践だけでなく、他の要因があなたの調査結果に影響を与える可能性があるかもしれないことを認識することは重要です。とても簡単ですが、役立つヒントは、自分のデータを批判的に見て、自分自身に質問することです。

私が気づいている以外にも変化の要因は何かあるだろうか

### 課題 8.6

第3章のアンドレアの話覚えていてでしょう。彼女の探索的アクション・リサーチ・プロジェクトでは、授業のまとめ方を調査し、学習者が授業内容をより覚えておくことができるよう変更しました。彼女はいくつかの異なる種類のデータを集めました。とてもシンプルな1つの方法は、生徒に前回の授業で覚えていることを書き出してもらうことでした。

#### 授業の変更前

「私は生徒に紙を渡し、前回の授業で何があったかを書くように伝えました。その結果、23名が覚えておらず、3名が回答せず、8名が正しく答えました」

#### 授業の変更後

「最初に観察した授業と同じ手順を繰り返し、生徒に前回の授業で覚えていることを(スペイン語で)紙に書いてもらいました。結果として、30名が前回の授業を覚えていて(ほとんどがマップの活動を覚えていた)、4名は覚えていませんでした」

この情報だけを使って、私たちが提案した批判的な問いを自問してみてください。つまり、私たちがそのデータで気づいたもの以外にも(授業をまとめるためのアンドレアの新しい試み以外に)、何か他にその変化に影響を与えるものはあるのでしょうか。

### 解説

アンドレアがこのデータだけに頼った場合、その差は以下のいずれかで説明できます。

1. 偶然の結果 - 生徒がどれだけ覚えているかは、授業ごとに常に変化する。
2. 2回目の授業の話題の方が面白かったか、簡単だったかもしれない。
3. アンドレアは、2回目の授業に向けてよりよい準備をしていたのかもしれない。
4. アンドレアは、授業のまとめ方を変えただけではなく、授業全体で努力していたのかもしれない。
5. 生徒は、とりわけアンドレアが成功を望んでいることを知っていれば、もっと努力したかもしれない。
6. まとめ活動が新しいものであったため、生徒がより多く覚えていたのかもしれない。毎回の授業で同じ活動をしていたら、目新しさが薄れてしまい、あまり覚えていないかもしれない。

幸運なことに、アンドレアは、これよりもはるかに多くのデータを集めました。様々なまとめの活動を導入した後、生徒に好きな活動を選んでもらい、同僚に変更を加えた実践を実施する前後の授業観察をしてもらったのです。このように、トライアングレーションの重要性を再認識することができます。これらの異なる情報源の情報すべてを慎重かつ批判的に解釈し、調査結果に影響を与える可能性のある他の要素を考慮した後、アンドレアは、授業をまとめるための新しい指導が生徒の記憶をより定着させるのに役立っていると確信したのです。

データはあなたをどこへ導くのか

変化に気づき、その原因を突き止めようとするのは、その変化を評価するための最初のステップに過ぎません。データやその実践への示唆を理解するためには、研究の探索の段階で行ったように、さらに解釈を深める必要があります。

第6章で見たように、「解釈」とは、「だから何か」という問いに答えて、「意味づけ」を行うことです。実践研究の場合、何かの意味や「価値」を知っていることは、主に、あなたの実践のために、あるいは、あなた自身の問いに関連して、それが何を意味するのかを知っていることなのです。

あなたはその結果に満足し、その成功体験を後の授業で再現しようとするかもしれません。あるいは、うまくいかなくて、(1)他の方法で理解を深めたので気にしない、(2)うまくいかなかった理由をもっと知りたい、同じ目的で新しいことを試してみたい、という場合もあるでしょう。いずれの場合も、新しい実践が自分の指導や継続的な研究に与える示唆を考えると、「だから何か」という問いに答えているのです。問いに対して十分な答えが得られないこともよくあります。この試み自体が十分に役立つことかもしれませんし、後の段階で変更を加えたり、より多くのデータを収集したりすることを促してくれるかもしれません。

また、前章の最後で紹介したエステバンの場合のように、調査結果から新たな問いが生まれることもよくあります。

■ アクション・リサーチ、そして探索的アクション・リサーチの重要な特徴は、私たちが教え続ける限り、行った実践を適応させたり改善したりし続けることができるということです。同時にこれらの指導の変更点の影響を調査し、省察し続けることができるということです。発見のプロセスに終わりはないのです。

## 8.5 自分の成長を振り返ること、それは大きな発見か

振り返る:(動詞)「何かについて注意深く、深く考えること」<sup>1</sup>

教師が自分の仕事について「注意深く、深く考える」べきだということに反対する人はいないでしょう。しかし、残念なことに、私たちは忙しすぎてこれを行うことができず、振り返りを「思い込み」に置き換えてしまうことがあります。第1章で紹介したテレサ・ペレの話に戻ると、彼女はクラシック音楽を流しても課題での生徒の集中力に影響しないと思ひ込み、上司の勧めがあつたにもかかわらず、クラシック音楽を流すことをやめました。しかし、実践研究のプロセスで、生徒が音楽を流すことが有益であると感じることがわかったのです。

では、彼女が最後に考えたことはどんなことでしょうか。

### 課題 8.7

これらの最後の振り返りをもう一度注意深く見てください。そして、次の2つの質問について考え、メモを取るか、同僚と話し合ってください。

1. テレサは、将来に役立ちそうな自分の研究から何を学びましたか。
2. 今度、上司から、研究で証明されているから何かをするように言われたら、彼女はもうどうすると思いますか。

### 解説

テレサの最後の振り返りから、彼女がいくつかの重要なことを学んだということが推察されます。

- 私たちは皆、間違ふことがあるが、それを恐れてはいけません。それは学習の機会である。
- 生徒の行動の「兆候」だけにもとづいて推測することは避けるべきである(第1章で「兆候」と「証拠」を区別したことを思い出してください)。
- 他の人が勧めたことに批判的になっても構わない。また、自分の教室でそれを試してみることは、その助言を受け入れるべきかどうかを見極めるのに最適な方法である。

### 課題 8.8 @

本書で出会った他の教師は、探索的アクション・リサーチのプロセスを通じて貴重なことを学んでいます。そして、教師が提供してくれた洞察は、あなたにとって自分のデータ分析と解釈のスキルを磨くよい機会になります。

共通するテーマ、何度も出てくる表現、重要な単語について以下の振り返りを分析し、これらの振り返りにもとづいて、探索的アクション・リサーチが、教師である私たちにどのような影響を与えるか短い文章にまとめてください。あなたの答えは、解答にある私たちの文章と比較することができます。

「私たちは、自分の関心事に集中するのをやめて、生徒の関心事にもっと注意を払う必要があります。このプロジェクトの結果、私はより共感的になったと感じています」  
カミラ・ヴィラロボス

「私は生徒の声を聞きました。私は自分自身を見ました」  
レイラ・ヌニェス

「もしあなたが経験豊富な教師で、同僚や生徒から何も学ぶことがないと思っているなら、それは間違いです」  
アンドレア・ロブレス

「この探索的なプロセスで、私は生徒から何かを得られると期待していましたが、生徒がまず必要としているものを与えていなかったことを発見しました」  
テレサ・リオス

「アクション・リサーチが重要なのは、革新的で、よいアイデアを持ち、生徒のニーズに気づき、指導アプローチを変えることを厭わない教師が、教育には必要だからです」  
マウロ・サエズ

「今後、私がリスニングを教える方法は、学習者集団が求めるものに依じて、異なるものになるでしょう」  
ロレーナ・ムニョス

「このプロジェクトは、私にとって非常に多くの恩恵をもたらしてくれました。自分の教えるスキルを向上させるだけでなく、生徒や同僚とよりよい関係を築くことができました」  
ハビエル・アバロス

「研究は、私たちが切実に必要としている変化を起こすための素晴らしいツールであり、機会でもあります」  
ダニエラ・ガハルド

最後に、(第1章の最後で紹介した)レイラからの近況報告をご紹介します。プロジェクト終了から約4年が経過した今、彼女は自分の学びについてこう語ってくれました。

「探索的アクション・リサーチ・プロジェクトに参加したおかげで、私は今、生徒と私自身が教室での変化をもたらす積極的な主体であると考えています。教室で、期待通りにいかないことについて、システムや生徒、あるいは自分自身を責めるのをやめました。また、うまくいっていること、つまり、やがては探索し体系化する価値があることを大切にすることを学びました。そして何よりも、物事が起こる理由を決めつけないことを学びました。教室で起こることには何かしらの理由があり、それを明らかにする必要があります。その一番よい方法は、その理由を別の関係者である生徒に尋ねることです。生徒は常に重要な情報を持っています。生徒は、私の指導実践を改善し続けるためのやる気の源なのです」

<sup>1</sup> Oxford English Dictionary

## まとめとフォローアップ

本章では、探索的アクション・リサーチを行った結果として、指導に加えた変更点をどのように観察、分析、振り返ることができるかについて学びました。私たちは、いつ、どのようにこれらの実践の効果を観察することができるか、また、評価のプロセスの中でそれらに気づくことと解釈することの違いを学びました。また、変化の指標を批判的に見る練習をし、変化が本当に起こったことを示すためにトライアングレーションがなぜ重要な役割を果たすのかを再認識しました。最後に、私たちは、教師が探索的アクション・リサーチを振り返ったときに、より根本的な変化、つまり学習者、同僚、自分自身、そして教師育成プロセスをどのように見ているかの「考え方」の変化に、教師がどのように気づくかを見ました。

探索的アクション・リサーチにおけるもっとも重要な発見の1つは、教師としてのあなたの中で起こりうる変化(たとえあなたがこれを期待したり計画したりしていなかったとしても)です。そしてそれは最終章で検討するように、あなたの成果を共有する際に、強調するのによいものの1つです。

### フォローアップ

第1章であなたが最初に出会ったカミラは、何人かの生徒を支援するために探索的アクション・リサーチを行いました。彼女はとくに、インクルージョンプログラムに参加している生徒を支援することに興味を持っていました。ここでカミラの話を読み、以下の質問に答えてみてください。 <https://bit.ly/camila-villalobos>

1. カミラは授業にどのような変化を導入しましたか。
2. 彼女はその効果をどのように評価しましたか。
3. カミラはこの経験から何を学びましたか。

# 9. この先どのように進めば よいか

本書のこれまでの章では、探索と行動の旅へと誘ってきました。この旅では、あなたの実践を振り返り、探索する分野を特定し、探索を計画し、データを収集して探索し、データを分析して解釈し、行動計画を提案して実行し、その効果を検証するように求めてきました。私たちは、探索的アクション・リサーチのプロセスのそれぞれの主要なステップを詳細に見て、この旅の中であなたを支援してきました。今や私たちは最上段に到達しました。さて、この先どのように進めばよいでしょうか。





## 9.1 あなたの研究を他者と共有する

### 課題 9.1

読み進める前に、上記の質問について少し考えてみてください。

- これはあなたの旅の終わりですか。それとも、始まったばかりですか。
- 学んだことについて、どのように感じますか。
- 学んだことを共有したいですか、それとも発展させたいですか。

もちろん、これらのどの質問にも、1つの単純な答えがあるわけではありません。この段階での決断は、あなた自身、あなたの研究、そしてあなたの生活における他の責務に大きく依存しています。1つできることは、研究で学んだことを共有することです。参加者の権利を尊重しつつ、口頭または書面による報告を通して、どのように共有できるか考えていきます。実践研究者のより広いコミュニティに参加したいと思うかもしれませんが、プロセスを再開して新たな探索的アクション・リサーチの経験を始めたいと思うかもしれません。

つまり、最初の探索的アクション・リサーチ・プロジェクトが、終わりを迎えるというより、より長いスパンでの成長プロセスや他の実践研究者との交流の始まりとなる可能性があります。

チャンピオン・ティーチャーズの1人であるダニエラは次のように述べています(皆さんも同意してくださることを願っています)。

「研究は、私たちが切実に必要としている変化を始めるための素晴らしいツールであり、機会なのです」

まずは、どのようにあなたの研究を同僚に発表したり、発表した内容を音声や映像で記録してさらに共有したりできるかを見てみましょう。

### 課題 9.2 @

あなたの研究を他の人と共有することの利点をリストに書き出してください。他の教師だけでなく、あなた自身にもどのような利点があるのか考えてみましょう。解答に、考えられる利点をいくつか記載しています。

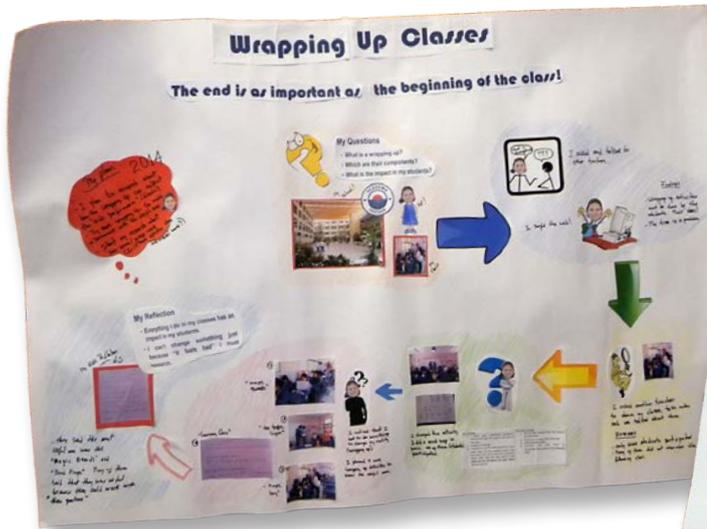
探索的アクション・リサーチの結果を共有するための最初のステップとして、他の教師に簡単な発表をしてみることができるでしょう。あなたの学校における教師成長のための研修会や、地域のワークショップ、地元の教師の勉強会、または学会で、発表できるかもしれません。ほとんどの人がそうであるように、発表に不安を感じるのであれば、同僚の前で発表することから始めるのが一番よいかもしれません。異なる場所で同じ内容の発表をすればするほど、よりよい発表になります。発表はそれほど長くなくても構いません。次の例のように、ポスターの前で3~5分話すだけでもよいですし、写真や引用、結果の図表などのパワーポイントのスライドを数枚見せるのもよいでしょう。最後に質問や話し合いの時間を設けることを忘れないでください。それは、あなた自身にとっても同僚にとっても、発表の中でもっとも役立つ部分となりますはずです。

課題 9.3 @

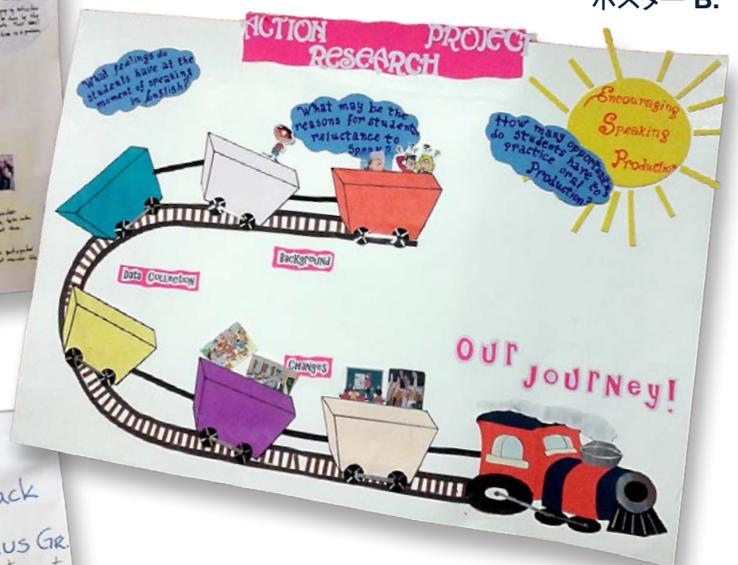
もっとも簡単な発表方法の1つは、ポスター発表です。ポスターは事前に準備でき、何度も使うことができますし、テクノロジーに頼る必要もありません。ここでは、本書で出会った教師の4つのポスターを紹介します。

1. 誰がどのポスターを作ったかわかりますか。
2. どのポスターが一番好きですか、そしてその理由は何ですか。

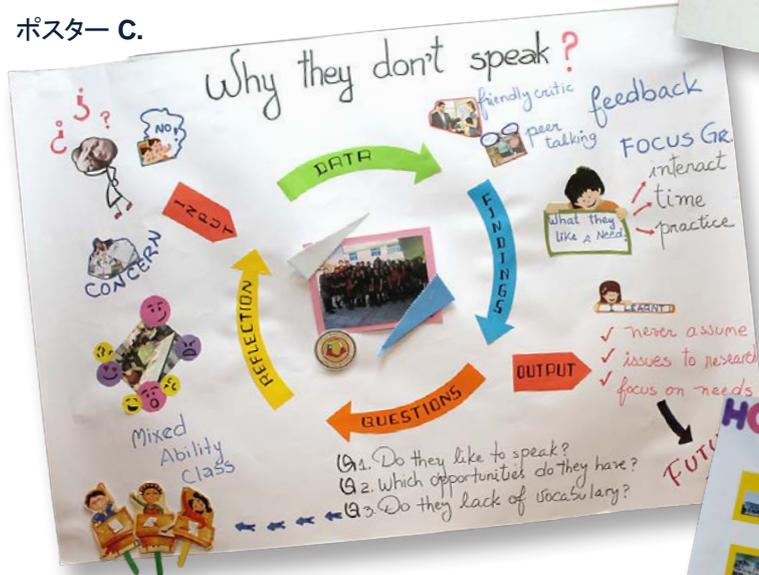
ポスター A.



ポスター B.



ポスター C.



ポスター D.



解説

2つ目の質問は、おそらく全員異なる答えになるでしょうが、その多様性により、それぞれの教師が研究プロセスをどのように理解しているかを知ることが役に立てることができます。例えば、ポスターCは、アクション・リサーチがよく円で表現されることを表しています(下記9.5も参照)。一方、ポスターBでは、研究プロセスは旅として表現されています。

## 課題 9.4

上記のポスター(A~D)の中から1枚選んでください。必要であれば、それらの詳細について記憶を呼び起こすために、それぞれに対応する話をもう一度読んでから、次の質問に答え、メモを取ったり、同僚と話し合ったりしてみてください。

1. この教師は、ポスターに掲載するためにどのような情報を選びましたか。
2. どこに画像を使うことにしましたか。なぜですか。
3. 発表後、あなたは教師にどのような質問をしますか。
4. あなたは、ポスターで何か異なることをしますか。

発表のスキルに自信がつき、あなたの研究が他の人にも価値があると感じるようであれば、教師団体の会議で発表したりワークショップをしたりしてみたいかどうでしょうか。第2章で報告をしたチャンピオン・ティーチャーのロレーナは、そのようにしました。彼女は、RICELT(Red de Investigador@s Chilen@s en ELT:チリの英語教育研究者のネットワーク)が主催する会議で他の実践研究者たちと一緒に研究を発表しました。彼女の発表はこちらでご覧いただけます。 <http://championteachers.weebly.com/lorena>

自分の研究を他の人と共有する別の、または、追加の方法として、ソーシャル・メディアを利用することができます。簡単な方法の1つは、デジタルカメラや携帯電話で、研究成果を発表しているところを録画し、YouTubeやFacebook、その他のプラットフォームにアップロードすることです。学会やワークショップ、あるいは他の教師の少人数グループの前で話をする場合は、同僚の教師に発表を録音してもらい、ポスターの写真と一緒にアップロードしてはいかがでしょうか。

以下のウェブサイトでは、オンライン上の発表例をいくつか見ることができます。

<http://classroombasedresearch.weebly.com/outcomes.html>

また、以下のFacebookグループには、さらに多くの例があります。また、このグループに参加して自分の動画を共有することもできます。

<https://www.facebook.com/groups/teachersresearch/>

## 9.2 書くことで研究を共有する

第1章では、教師が研究に対してもっているイメージを紹介し、それをどのように修正できるかを示しました。その1つが、書くことでした。

教師が研究に対して持つ主な不安は、時間がないのに、学術的な文章をたくさん書く必要があるのではないかということです。前の節で説明した口頭での発表から文書による幅広い共有まで、どのように文章を書けばよいのかを紹介したいと思います。

自分の研究について書く方法は、数時間で書けるような形式ではない簡単な説明から、かなり時間のかかる学術論文まで様々です。いくつかの方法を見てみましょう。

### 口頭発表から報告書へ

ここで提案しているのは、口頭での発表を録音し、それを書き起こして編集し、報告書として共有することです。言い換えれば、執筆は、録音された口頭発表をもとに行うことができます。そのためには、録音ファイル、ノートパソコン、ヘッドフォンが必要です。



スタイルや形式などを気にすることなく、ただ録音を聞いて、聞こえたものをタイプし、詳細を追加したり、文字で伝えたくないことを削除したり、文法や語彙の選択を改善したりして編集します。さらに、理解に役立つ写真を加えれば完成です。この報告書を同僚に見せて、フィードバックをもらうことを強くお勧めします。(自分で行ったことですので)自分では理解できても、他の人には理解できないことがあります。ですから、同僚に報告書を読んでもらい、フィードバックをもらうことは常に役立ちます。

最終報告書をソーシャル・メディアで共有したり、発表を行ったワークショップの説明の一部として共有したりすることもできるでしょう。また、その報告書を短いブログ記事にすることもできるかもしれません。

## 課題 9.5

あなたがすでに知っている教師であるアンドレアの例を見てみましょう。アンドレアは、課題9.3のポスターAを作った教師です。彼女は自分の話を録音し、その録音を聞いて、聞いたことをほぼ正確に書き起こしました。その成果をチャンピオン・ティーチャーズのウェブサイトにもアップロードしました。そのページにアクセスして、彼女の発表を録音したものを聞いてください。 <http://championteachers.weebly.com/andrea-robles.html> そして、次の2つの質問に答えてください。

- A. 報告書は録音とどの程度一致していますか。
- B. 彼女は何を変更、追加、あるいは削除しましたか。

口頭発表では、アンドレアが自分のプロジェクトについて自然に話していることに注目してください。比較的簡単に理解することができ、聴衆も参加しやすいものになっています。その後、報告書を書き上げたとき、彼女は同じ構成を使い、より明確にするために文章に少し変更を加えました。

## 書いた報告書を共有する

自分の研究経験をより多くの人と共有したい場合は、ブログや会報、さらにはFacebookグループや自身のウェブページに文章を掲載することができます。自分のブログやウェブサイトを作成したい場合は、WordPress.comやWeebly.comなどのウェブサイトを利用すれば、数分で開設できます。

自分のブログを立ち上げたくない場合は、ブログを所有する実践研究コミュニティや教師の団体があります(例えば、International Festival of Teacher-Research in ELT: <https://trfestival.wordpress.com/>)。これらの団体は、あなたにゲストブロガーとして貢献してほしいと思うかもしれません。

## The International Festival of Teacher-Research in ELT

Face-to-face and online events promoting teacher-research as an empowering means of professional development for English teachers working in difficult circumstances worldwide

ABOUT · UPCOMING EVENTS · EVENTS SO FAR · RESOURCES ·  
STEERING COMMITTEE · SUPPORTERS · CONTACT · FESTIVAL FAQS

書いたものを会報や雑誌で紹介したい場合は、まず、自分がアクセスできたり、あなたの話を掲載したりしてくれそうな会報を考えてみましょう。

また、あなたの経験に関心を持つ人がいるかもしれないので、(英語教師だけではなく)様々な教科の教師を対象とした会報を考えてみるのもよいでしょう。

### 課題 9.6

成功しているブログ記事の多くは、あなたのような忙しい教師のために書かれた、わずか1~2ページのもので、既に発表を書き起こしているのであれば、以下の課題を自分の報告に適用することを考えてみてください。あるいは、<http://championteachers.weebly.com/lorena> のロレーナの発表にもとづき、短い報告を作成してみてください。書き起こした後、次のことを考えてみましょう。

1. 記事のタイトルは何にしますか。注目を集めなければならないことを覚えておきましょう。
2. どのような3枚の画像を使用しますか。記事の最初の画像は、ソーシャル・メディア・サイトのプレビューとして表示されることを覚えておきましょう。
3. どのような見出しを使用しますか。3~5つで十分です。

## 9.3 参加者の権利への配慮

研究を報告する際には、常に守秘義務と安全性に対する参加者の権利を尊重する必要があります。これは、研究における「倫理的問題」に関連しています。

研究結果を公の場で共有し始めたらずい、たとえ自分の学校内であっても、その結果が研究参加者に与える影響を積極的に想像する必要があります。そこで、重要なアドバイスを紹介します。

1. データを匿名化します。参加者が本名の使用を希望しない限り、参加者の名前を変えます。
2. 子どもの写真や動画を親の十分な同意なしに公開しないようにしましょう。本人に尋ねるだけでは不十分で、保護者が書面で同意することが理想的です。
3. あなたの研究のもっとも熱心な読者は、参加者自身かもしれないことを覚えておいてください。参加者は研究の中に自分自身を見ることを楽しむかもしれませんが、お互いのことをよく知っているため、児童生徒や同僚を見分けることができるかもしれません。したがって、参加者の言葉を引用する場合は、他の研究参加者が参加者の言うことから参加者を見分けることができないようにしてください。

### 課題 9.7

あなたの研究における倫理的問題

あなた自身の探索的アクション・リサーチ・プロジェクトを開始したのであれば、以下の質問に対する回答をメモし、同僚と共有してください。まだ始めていないのであれば、本書で紹介されている実践研究者のうちの1人の視点から考えてみてはいかがでしょうか。

1. 研究のために、子どもの動画や音声を記録したり、写真を撮ったりしましたか。それらをどのように安全に保管しますか。研究を共有する際に、本当にそれらを使う必要はありますか。
2. 参加者からどのような個人情報を収集しましたか(名前、仕事、出身地など)。この情報を研究結果に含める必要がありますか。必要な場合は、このデータを匿名化することができますか。
3. 研究の文脈をどのように説明しますか。他の人が関係する学校や組織を特定することができますか。もしそうであれば、役立つものでありながら匿名性を担保するために、この記述をどのように変更できますか。

## 9.4 幅広いコミュニティへの参加

研究を共有することは、さらにいくつかの利点があります。それは、研究を公開することで、以下のように、発表者や執筆者としてより広いコミュニティに参加できるという点です。

- 同じような問題に関心のある他の人たちと出会うことができます。課題について話し合っ共有したり、より効果的な研究方法について他の人々から学んだりすることができます。
- 他の実践研究者のメンターになる機会を得て、リーダーや「教師教育者」としての能力を高めることができます。
- 研究を共有することで、さらなる機会を提供してくれる、例えば大学や機関、ネットワークの代表者などと有益な関係を築くことができます。

本章では、研究を共有したり、他の人から学んだりできるいくつかのネットワークやコミュニティの名前を紹介してきました。以下では、主に国際的なコミュニティやグループを紹介します。しかし、参加するのにもっとも有益でやりがいのあるグループは、多くの場合、地元や国内の団体やグループで、そこではあなたと同じような課題を持つ教師と交流することができます。

### IATEFL

1967年に英国で発足したIATEFL(the International Association of Teachers of English as a Foreign Language)は、現在では国際的な組織に成長しました。IATEFLは、毎年、ウェビナー(オンラインセミナー)とウェブ会議を開催しており、主要な大会は英国で行われます。また、IATEFL Research SIGやTeacher Development SIGなど、多くの専門研究グループ(Special Interest Group:SIG)があり、これらのSIGを大いに活用することができます。

IATEFLのウェブサイト: <https://www.iatefl.org/>

IATEFLの研究SIGウェブサイト: <https://resig.weebly.com/>

IATEFLの Teacher Development SIG ウェブサイト: <https://tdsig.org/>

また、IATEFLは、多くの国に支部を有しています。

### TESOL

1966年に米国で発足したTESOL(Teachers of English to Speakers of Other Languages)国際協会は、IATEFLと同様に、定期的に地域セミナーを開催し、毎年、北米で主要な大会を開催するなど、国際的な活動を行っています。多くの「専門研究部(Interest Sections)」は、IATEFLのSIGと似ていますが、とくに教師の研究を専門とする専門研究部はありません。

ウェブサイト: <http://www.tesol.org/>

## Teachers Research! Facebook グループ

オンラインには、英語教師のための実践研究に関わるコミュニティが数多く存在します。あなたにとって関連するコミュニティであれば、Teachers Research! グループでしょう。このグループは、探索的アクション・リサーチだけでなく、「探究的実践」やより正式な教室での研究を含む、あらゆるタイプの実践研究に特化しています。 <https://www.facebook.com/groups/teachersresearch/>



自分の国で実践研究の共有と促進を支援するコミュニティやネットワークに参加することもできます。チリのチャンピオン・ティーチャーズの多くは、RICELT(チリの英語教育研究者のネットワーク)に加入し、発表者として大会に参加しました。



第1回RICELT大会のチャンピオン・ティーチャーズ

最後に

専門性向上のための教師での研究に関するElectronic Village Online (EVO)

EVOは、毎年1月から2月にかけて活動する自主コミュニティで、世界中の教師たちにオンラインの教師教育プログラムを無料で提供してきました。近年では、専門性向上のために、教室での研究に関するEVOは、探索的アクション・リサーチを通して教師を支援しています。 <http://classroombasedresearch.weebly.com/>

## 9.5 研究の継続

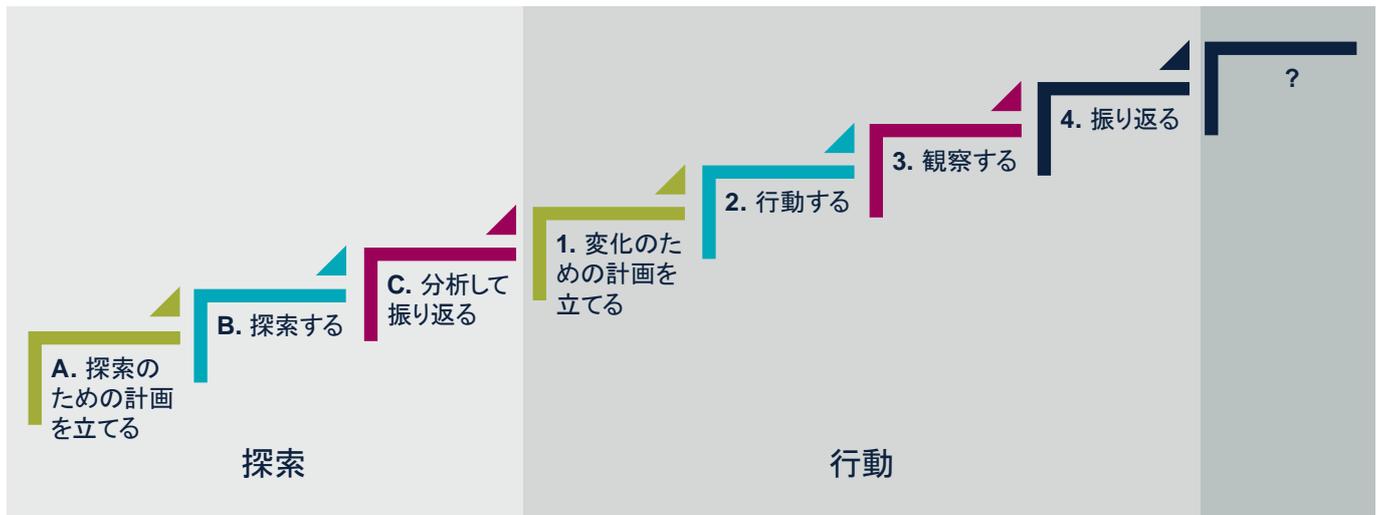
本書では、階段を使って探索的アクション・リサーチの主要なステップを説明してきました。しかし、アクション・リサーチは他の方法でも視覚化できます。

### 課題 9.8 @

インターネットの検索エンジンに「アクション・リサーチ」と入力して、表示された画像結果を見てみましょう。

1. もっとも多く出てきた図の種類は何ですか。
2. 通常、いくつの段階がありますか。
3. なぜ、直線ではなく、円やらせんで示されると思いますか。

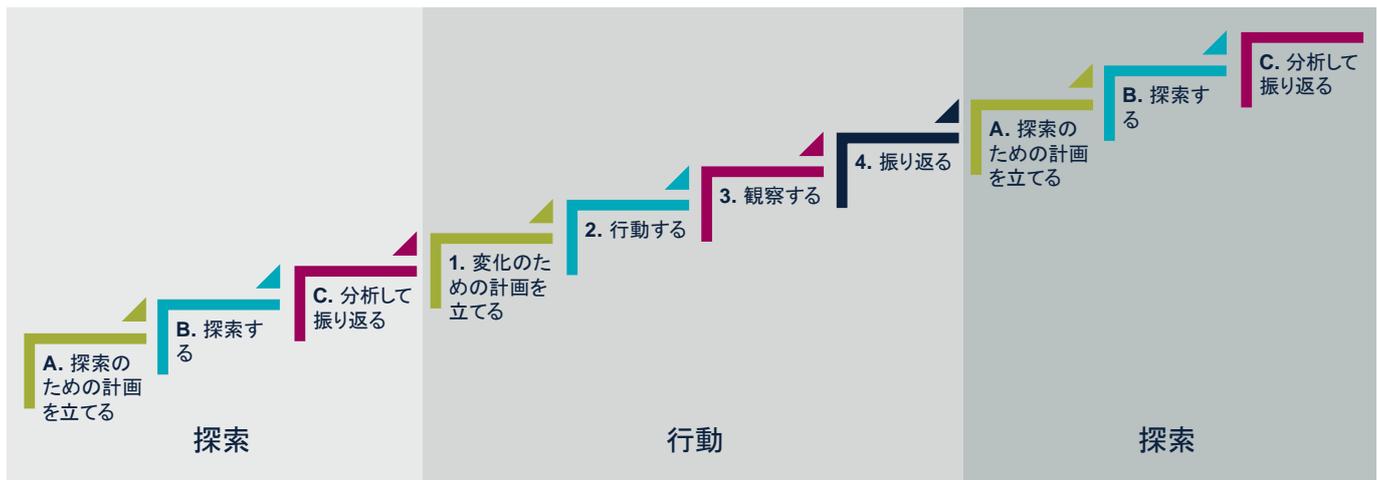
私たちは、探索的アクション・リサーチを、あなたがインターネットで見つけたであろうアクション・リサーチのサイクルにある段階を含む段階として表現しましたが、階段の図ではそれらのステージ(1.から4.)の前に、探索のステップ(A.からC.)があります。



本書では、アクション・リサーチに入る前の探索的な段階の(私たちの見解での)必要性を強調し、プロセス全体が、「上向き」の一連のステップを通して、学習と専門家としての成長を促進することを示すために、階段のイメージを使うことにしました。とはいえ、このプロセスは、確かに円またはらせん状と見るすることができます。なぜなら、再び始まる可能性があるからです。

観察と振り返りから新たな解答すべき疑問が生まれ、その結果、探索と行動の別のサイクルが再び始まるかもしれません。学べば学ぶほど、私たちは好奇心を持つようになるかもしれないのです。

(探索的)アクション・リサーチプロジェクトを終えた教師の多くは、教室で非公式に、あるいは資格取得の一環としてより公式に、さらに研究を進めていくようです。この研究は、1人でも同僚と一緒にでも行うことができます。もし研究を進めるのであれば、例えば、以下のように、私たちのEARの階段はどんどん高くなっていくかもしれません。



以上のことが起こるいくつかの可能性を見てみましょう。

1. 最初の探索的アクション・リサーチ(EAR)は、あなたの質問に部分的にしか答えていませんが、より完全な答えを見つけるためにどこを見ればよいかを教えてください。
2. 最初のEARからのデータを分析すると、予想していなかった、あるいは説明できないことが明らかになります。
3. 得られた答えは一般的なもので、より具体的な答えが欲しいため、より詳細な研究課題を作成します。
4. 研究成果を共有した後のフィードバックによって、試してみたい新しいアイデアが出てきます。
5. 研究成果を共有することで、新たな研究プロジェクトを他の人と共同で行う機会が得られます。

例えば、第1章の終わりに出会ったレイラは、最初のプロジェクトから4年後の今、探索的アクション・リサーチをいくつかの新しい方法で用いてきたと私たちに知らせてくれました。

「私は、ブリティッシュ・カウンシルによる ARAS(The Action Research Award Scheme、アクション・リサーチの報奨プログラム)の中で、ジェンダー教育に関するEARプロジェクトを指揮しました。また、国際的なプロジェクトにも参加し、様々な国の13名の教師がアクション・リサーチを行いました。最近では、長年除外されてきた特別支援学級の生徒に足場がけをする指導方略を開発するためのEARを開始しました。現在では教育におけるインクルージョンの新しい法律により、その生徒をクラスの一員とすることになっています」

本書で案内してきた最初のプロジェクトと同じように、理解を深めるために状況を探りたいだけなのか、それとも状況を変えるために新しい介入を試みたいのかを決めることができるということを覚えておいてください。また、いつこのようなことをしたいのかを決めることもできますが、最初に一息つきたいと思うかもしれません。いつものように、決めるのはあなたなのです。

### 課題 9.9

これまでの自身の探索的アクション・リサーチを振り返ってみてください。

1. あなたが答えたいと思う新たな問い、または理解したいと思う悩みを明らかにしましたか。それらは何ですか。
2. 研究をするプロセスで、将来的に共同研究をする可能性のある人と出会えましたか。もしそうであれば、どのようなプロジェクトがあなたがた2人の興味を引くでしょうか。
3. 当初の研究課題で、まだ理解できていないことはありますか。もっと調べてみたいと思いますか。

最後に、探索的アクション・リサーチは、経験を積みれば積むほどうまくいきます。研究課題の策定、方法の選択、研究の計画と実行、データの分析とデータにもとづく振り返りのすべてが時間とともにはるかに容易になり、研究を共有し、より広く公開し、自分の経験で得たものを他の人と共有する機会が増えるでしょう。

実践研究者の中には、研究プロジェクトに着手している他の教師を支援するメンターになる人もいます。自分の学校や、地域の教師の団体、あるいはワークショップや会議の他の教師たちと一緒に活動することもあるでしょう。このような経験はやりがいがありますし、自分の教室での研究に新たなインスピレーションをもたらすことがあります。

例えば、9.1節を読んでいると同時に動画で発表を見たかもしれません。第2章と第8章で話を紹介したロレーナは、その後、次のようなことすべてをしています。

「私はアクション・リサーチのメンターとして、チリの2つのグループ(13名の教師)、そして現在は3つ目のグループのペルーの教師(10名の教師)と活動をしています。また、今年度は教師による評価について同僚を指導しています。ポートフォリオの要素の1つは、教師の協働的活動であるべきなので、アクション・リサーチとして行うことを提案しました。なぜなら、この成果のアイデアは、どのように授業で協働して問題を解決するかだからです。体育科はそのアイデアを受け入れ、バレーボールに関連して行っています」

レイラも「いつも教育実践を『改善』するために、学会や専門性向上のためのイベントで、自分のしていることを話したり、見せたりしていますし、教室での問題について悩んでいる教師と話をしています」と報告しています。

このように、このハンドブックと共に歩んできた旅は、多くの旅の最初に過ぎないかもしれません。

## 9.6 このハンドブックとのあなたの個人的な旅

本書の序章の最後に、診断ツールを使って、探索的アクション・リサーチに必要な主要なスキルに関する能力を評価することを勧めました。今、本書の最後までできましたので、あなたが得たものを見る1つの方法として、その時に行った同じ自己評価を再び行ってみるとよいでしょう。読む前と読んだ後の2つの自己評価を比較して、どれだけの変化があったかを確認することができます。

次のページの能力の表に、以下のレベルの能力記述文を使って、「レベル」の欄に0から4までの数字を丸で囲んで記入してください。

レベル 0	現在この能力を持っていない。
レベル 1	この能力を使い始めている。
レベル 2	この能力を使っているが、向上させる必要がある。
レベル 3	自信をもってこの能力を使っている。
レベル 4	この能力を強みとして使っている。

能力	レベル
A. 自分の実践を振り返り、分析することができる。	0 1 2 3 4
B. どのように自分の実践を向上させたらよいかわかっている。	0 1 2 3 4
C. 自分の実践について、よい点をあげることができる。	0 1 2 3 4
D. 授業でどのような問題が起きているか理解することができる。	0 1 2 3 4
E. 実践研究をするために、どこに焦点を当てたらよいか決めることができる。	0 1 2 3 4
F. うまくいっていることや課題、その他の問題から、どのように研究課題を設定したらよいか考えることができる。	0 1 2 3 4
G. 研究課題に適した証拠となる情報や資料を特定することができる。	0 1 2 3 4
H. 研究課題に答えるために情報収集の方法を決めることができる。	0 1 2 3 4
I. 研究課題に答えるための証拠を集めることができる。	0 1 2 3 4
J. 集めた証拠を分析することができる。	0 1 2 3 4
K. 児童生徒の提案や意見を自分の授業に取り入れることができる。	0 1 2 3 4
L. 実践の探究にもとづいて、(実践研究の)行動計画を立てることができる。	0 1 2 3 4
M. 実践の探究にもとづいて、行動計画を実践に移すことができる。	0 1 2 3 4
N. 行動計画の結果を評価することができる。	0 1 2 3 4
O. 口頭または文章による研究結果の伝え方や発表の仕方がわかっている。	0 1 2 3 4

## 課題 9.10

うまくいけば、あなたの点数に改善が見られるかもしれませんが。しかし、自分に正直であれば、さらなる成長の余地があることも確かでしょう。もっとも低い点数をつけた能力にマーカーで印をつけてください。そして、同僚や、可能であればメンターと一緒に、これらの能力をさらに向上させるにはどうしたらよいかを話し合しましょう。これには以下が含まれます。

- 本書の一部を読み返す。
- 自分の探索的アクション・リサーチに戻り、段階の1つを再度実行する。

- さらなる読書をする(例えば、ここにあるリソースのリストを参照してください: <https://trfestival.wordpress.com/resources/>)。
- 関連する、または全く新しい探索的アクション・リサーチのプロジェクトを開始する。
- オンラインコース、教師教育の資格、あるいは研究の学位など、より正式な教育プログラムに参加する。

振り返り・議論の結果にもとづいて、この表を完成させてください。

改善したい分野	どのように改善するか	いつ実行するか

さらなる探究を楽しんでください。



Image by: Rick Carey/Shutterstock.

# 10. 追加資料

# 1. 質問紙のサンプル

英語のリスニング活動に関する質問紙  
カロライナ・シッドとジェマ・ドナルドによる作成

あなたの意見をもっともよく表す答えにXをつけてください。

1. 英語を聞くときにどのように感じますか。	「X」をつけてください。
A. やる気がでる	
B. リラックスする	
C. 混乱する	
D. イライラする	
E. その他:	

2. 先生が英語で話すときにどのように感じますか。	「X」をつけてください。
A. やる気がでる	
B. リラックスする	
C. 混乱する	
D. イライラする	
E. その他:	

3. クラスメイトが授業で英語を話すときにどのように感じますか。「X」をつけてください。	「X」をつけてください。
A. やる気がでる	
B. リラックスする	
C. 混乱する	
D. イライラする	
E. その他:	

4. 先生やCDによる英語での指示はどれぐらい理解できますか。	「X」をつけてください。
A. とてもよく理解できる	
B. だいたい理解できる	
C. ほとんど理解できない	
D. 全く理解できない	

5. 英語の授業でどのテーマを聞くことが好きですか。	「X」をつけてください。
A. スポーツ	
B. 音楽	
C. 科学	
D. 文化	
E. その他:	

6. どのリスニング活動が好きですか。	「X」をつけてください。
A. 聞いて、完成する	
B. 聞いて、正しい絵や選択肢に印をつける	
C. 聞いて、行動を並び替える	
D. 聞いて、発展的な質問に答える	
E. その他:(活動を特定してください。)	

## 2. 観察チェックリストのサンプル

### 相互観察ガイドライン

ジェニー・フェルナンデスによる作成

目的: この相互観察ガイドラインの目的は、授業中に行われていることを文章にして明らかにすることです。観察は、英語教師の同僚が行います。最後に、この相互観察は、英語の授業における教室での生徒の参加について何が行われているかを振り返るために使用されます。

研究課題: 生徒の参加について振り返るために、同僚教師の助けと観察により、研究のプロセスで答えるべき2つの問いがあります。質問は以下の通りです。

1. 英語の授業で、私は生徒に何を期待しているか。
2. 私の英語の授業に参加している生徒はどのような人たちか。

授業を観察している間、教師と高校2年生の生徒に関する以下の質問によく考えて教えてください。

#### 1. 授業の導入で、生徒は何をしているか。

(導入の段階では、教師は生徒に挨拶し、授業の目的と授業中に生徒が行う活動を紹介します。)

#### 2. 授業の展開部で、生徒は何をしているか。

(展開の段階では、生徒は授業の主となる活動をします。例えば、文章を読んで質問に答えたり、音声を聞いてそれに関連した課題をこなしたり、特定のテーマについてペアで話し合ったりします。)

#### 3. 授業のまとめの段階で、生徒は何をしているか。

(まとめの段階では、生徒は授業のテーマに関連した質問に口頭または書いて答えたり、授業の内容を要約する活動をこなしたりします。)

4. 授業中、生徒に参加してもらうために、教師は何をしているか。  
この質問に答えるために、参加の概念を理解するために使われている定義を読んでみましょう。

「参加とは、何らかの行動や試みに参加することである。例えば、手を挙げて質問に答えること、ノートやプリントに書かれた課題をこなすこと、黒板に行って答えを書き出すこと、求められた時に、ペアやグループで活動することなどである」

5. 授業中、教師は生徒の注意を引くために何をしているか。

6. 授業中、生徒が参加するために、もっとも反応する教師の言葉、指示、合図は何か。

7. 授業中、教師はどのような方法で生徒に参加を求めているか。

8. 教師は何回、生徒に授業への参加を求めているか。

9. 授業に参加している生徒は誰ですか。その生徒の机に×をつけて消してください。


10. 生徒を観察して関連する他のコメントを書いてください。

--

# 解答

## 第1章

### 課題 1.3

1. 生徒のやる気を引き出すために彼女が使った様々な指導を私たちは知っている。
2. カミラが心配している生徒の背景を私たちは知っている。
3. 彼女が使った指導について生徒全員がどう思っているか私たちは知らない。
4. 生徒がやる気がないとカミラが判断した理由を私たちは知らない。
5. 授業の中で、ある活動に対して生徒が実際にどのように反応するか私たちは知らない。

### タスク 1.4 @

表A. 兆候

1. 生徒はやっていることに夢中になっている。 D, E
2. 生徒はとても積極的である。 D, E
3. 生徒は授業で学んだ語彙を使っている。 A, B, E
4. 生徒も先生も授業を楽しんでいる。 C
5. 生徒は単語を正しく発音していた。 A, E
6. 生徒がゲームを使った授業を楽しんでいる。 C

### 課題 1.5

教師は何をしましたか。	情報の種類
「生徒が課題に取り組んでいる間に起こったすべてのこと(生徒の態度や行動など)をメモしました」	b
「後日、生徒が取り組んだ様々な課題を集めてみると、私が流した音楽によって違いがあることに気づき始めました」	c, b
「また、私は生徒に調査をしました。生徒の意見を聞くための簡単な質問紙です」	d
「生徒にインタビューをすることにしました。BGMをかけて行ったそれぞれの活動の後に、生徒がどのように感じたか、集中できないということはなかったか、課題を終えるのに音楽が役立ったと感じたか、などを尋ねました」	a

## 第2章

### 課題2.1

例1では、ルイスは、ボゴタからロンドンへの最速かつ最安の航空券はどこで入手できるか、という明確な問いを持って検索を始めました。これに答えるため、彼は検索を行い、その結果を比較して正しい判断を下しました。この状況は、調査のプロセスの一般的なステップを表しています。つまり、問いに答えたり問題を解決したりする必要性、情報の収集、答えを出すための情報の分析です。

この例を状況3と比較すると、次のことがわかります。クラウドディアはノートパソコンを購入するために情報を探しませんでした。実際、ノートパソコンを探すという彼女の最初の意図に応えることなく、ただセール中だからという理由で最終的にパソコンを購入しています。これは、問いに対する答えを見つけ

るためにリサーチをせずに、単に衝動的に行動した例です。

例2では、フランシスは最初、何も考えずに即座に行動することで問題を解決しようとしていました(いくつかのボタンを押した)が、その後、状況を解決するために(頭にある問いに従って)体系的に情報を探しました。

# 解答

## 第2章

### 課題 2.2

3つの状況は、教室の中で教師が問題のある、あるいは悩んでいる状況に対してどのように対処できるか、異なる方法を示しています。数学教師(1)は、結果に満足できないために何かするのを止める決断をしました。たとえ彼女がしたことが妥当なものであったとしても、その問題の理由を明らかにするために証拠を集めたわけではないため、これは研究の例ではありません。同じように、理科教師(3)は、彼の生徒の参加度を改善しようとするために指導を変えましたが、指導を変える前後に、情報を集めたり、状況を分析したりすることをし

ませんでした。反対に、英語教師(2)は、生徒や同僚に尋ねて情報を集め、分析する際にその情報を比較しました。それから、ビデオにもとづく授業の間の生徒の参加度の欠如を改善するだけでなく、今度は彼女が変えたいことに関するより多くの情報を得るために指導を計画しました。彼女は、兆候だけでなくデータも探ったのです。例(2)のみが、研究の一例として見ることができます。

### 課題 2.3

1. ロレーナの当初の懸念は何でしたか。	彼女は、生徒がリスニング活動にきちんと取り組んでいないことに気づいたため、なぜ生徒がリスニング課題を終えることができないのかを知りたいと思いました。
2. ロレーナの当初の問いは何でしたか。	<ol style="list-style-type: none"><li>1. どのリスニング活動であれば、生徒はよりよく聞き取ることができるのか。</li><li>2. 授業中、リスニングはどのように提示されているのか。</li><li>3. 生徒はリスニング教材からどのような情報を認識することができるのか。</li><li>4. リスニング教材の長さが、生徒のパフォーマンスにどのような影響を与えるのか。</li></ol>

## 第3章

### 課題 3.1

#### B

これらの状況では、「行動」により状況を改善することに焦点が置かれているようです。これは教師に共通して見られることであり、理解できるものです。というのは、教師が教室の多くの問題を時間のない中で解決する必要があるからです。あなたはおそらく今行動する必要性を感じていることでしょう。

### 課題 3.2

- (1) まとめる
- (2) 問い
- (3) 質問紙調査
- (4) 観察
- (5) データ
- (6) 振り返り
- (7) 理解する

### 課題 3.3

1. A
2. B
3. B
4. C
5. A
6. B

### 課題 3.4

1. B
2. A
3. A

# 解答

## 第4章

### 課題 4.2

#### 1. アンドレアの授業のまとめについての話

動機とカテゴリー

悩み / e. その他(まとめ)

#### 2. レイラの書くことについての話

動機とカテゴリー

うまくいっていない状況 / c. 特定の指導分野

### 課題 4.5

以下は、アンドレアが実際に行った探索的な研究課題です。

1. 「効果的な」授業のまとめ方とは何か。
2. 私のまとめ方の特徴は何か。
3. 私の生徒は授業のその部分でどのように反応するか。

### 課題 4.6

テーマ:授業の最後に宿題を説明する際、明確に説明する時間が少ないことが多い。

この問題に対する考えられるいくつかの問いを表に示します。

#### 自分の認識を探る

\_\_\_\_\_とはどういう意味か。  
\_\_\_\_\_について、私はどう思うか、感じているか。  
なぜ私は\_\_\_\_\_が起こると思うのか。  
\_\_\_\_\_の代わりに何が起こってほしいと思うか。

例:「明確に説明する」とはどういうことか。

#### 行動を探る

\_\_\_\_\_はいつ、どのくらいの頻度で起こるか。  
\_\_\_\_\_が起きたとき、私は何をするか、言うか。  
\_\_\_\_\_が起きたとき、私の生徒は何をするか、言うか。

例:私は実際にどのように指示を出しているか。

#### 他者の認識を探る

私の生徒は\_\_\_\_\_についてどう思うか、感じているか。

私の同僚は\_\_\_\_\_をどう思っているか。

例:私の指示について生徒はどう思っているか。

# 解答

## 第4章

### 課題 4.8

探索型の問い	SMARTか	判断基準
1. 生徒の英語学習に影響を与えるものは何か。	いいえ	現実的ではないし、測定もできない
2. 生徒はいつ英語を使ってお互いにコミュニケーションをとるか。	はい	
3. なぜ生徒は学習しないか。	いいえ	正確ではない
4. 生徒は宿題をするときに何回辞書を使っているか。	いいえ	測定可能ではない
5. 映画を使って生徒のやる気を引き出すにはどうすべきか。	いいえ	研究志向ではない
6. 授業で、生徒はどのくらいの頻度でペアワークをしているか。	はい	

### 課題 4.10

探索型の問い	編集された質問 (改善が必要なもののみ)
1. 生徒の英語学習に影響を与えるものは何か。	例: 生徒は何が英語学習をやる気にさせると言っているか。生徒は何がやる気を失わせると言っているか。
2. 生徒はいつ英語を使ってお互いにコミュニケーションをとるか。	
3. なぜ生徒は学習をしないか。	例: 生徒は英語の何が難しいと感じているか。生徒はどんな典型的な間違いをするのか。難しさや間違いの理由について何と言っているか。
4. 生徒は宿題をするときに何回辞書を使っているか。	例: 授業でライティングの課題をするとき、生徒は何回辞書を使うか。宿題をするときに辞書を何回使うかについて、生徒は何と言っているか。
5. 映画を使って生徒のやる気を引き出すにはどうすべきか。	生徒は、授業外で英語を学ぶために何か情報源を使っているか。そのような情報源からより多くの英語を学ぶためには、どのようなことが必要だと生徒は言っているか。
6. 授業で、生徒はどのくらいの頻度でペアワークをしているか。	

# 解答

## 第5章

### 課題 5.1

表 A. アンドレアの探索型の問いと改善型の問い

1. 授業のまとめとは何か。 (a), (c)
2. 自分の授業のまとめの特徴は何か。 (b)
3. その部分で生徒はどのように反応するか。 (b), (d)
4. 私が試みた変化の効果は何か。 (b), (d)

### 課題 5.2

授業のまとめについての情報

<p>まとめとは、授業案のまとめの部分であり、生徒の頭の中に意味のある文脈で情報を整理できるようにする時間をさす。</p> <p>簡単に要約したり概観したりすることが多くの場合適切である。生徒が具体的に何を学んだのか、それが今の生徒にとってどのような意味を持つのかを簡単に話し合わせる活動も有効である。</p> <p>学習内容が今後の授業で定着するように、もっとも重要な点を補強しよう。</p> <p>まとめの段階は、評価を行う機会である。生徒が追加の練習を必要としているのか、あるいは授業をもう一度見直す必要があるのかを判断できる。こうすることで、次の授業に移ってもよい時期かどうか分かる。</p> <p>まとめの活動を使って、生徒がその授業からどんな結論を導き出したかを確認することができる。</p> <p>生徒は、授業で学んだことをどのように利用できるかを説明することができ、問題解決のために情報をどのように利用するか実演してもらうこともできる。</p> <p>まとめでは、次の授業で何を学ぶのかを予告し、次の授業へのスムーズな移行を可能にする。</p> <p>出典: <a href="https://www.thoughtco.com/lesson-plan-step-5-closure-2081851">https://www.thoughtco.com/lesson-plan-step-5-closure-2081851</a></p>
---

### 課題 5.3

- 英語の授業があるときはいつも緊張する。→  
[文の完成] 英語の授業があるときはいつも \_\_\_\_\_ を感じる。→  
[開いた Wh-の質問] 英語の授業があるときは、どのように感じるか。
- 英語の成績のおかげで、やる気が出る。→  
[文の完成] 英語の成績のおかげで \_\_\_\_\_ を感じる。→  
[開いた Wh-の質問] 英語の成績を見て、どんな気持ちになるか。
- 英語で質問するのは恥ずかしい。→  
[文の完成] 英語で質問するのは \_\_\_\_\_ と感じる。→  
[開いた Wh-の質問] 英語で質問するとどのように感じるか。

### 課題 5.4

焦点	データの種類
A. 自分自身の認識を探る	1. 自分が書いた振り返りやメモ 2. そのテーマに関する他の人が書いたアイデア 3. 同僚との雑談のメモ
B. 他者の認識を探る	4. 児童生徒が書いた振り返り 5. フォーカス・グループ・ディスカッションのメモや録音 6. 個人とのインタビュー/会話のメモあるいは録音 7. 質問紙の回答
C. 行動(パフォーマンスを含む)を探る	8. 授業案や教材 9. 授業を録音(画)したもの 10. 授業について批評してくれる友人のメモ 11. 授業の写真 12. 課題に対する児童生徒のパフォーマンス(書かれたもの、あるいは録音(画)されたもの)

# 解答

## 第5章

### 課題 5.5

教師	研究課題	データの種類
マウロ	1. 生徒が個々に座っているとき、生徒はどのよう に行動するか。	■ 授業を録音(画)したもの ■ 授業について批評してくれる友人のメモ
	2. 座席の配置は個人の活動にどのように影響を 与えるか。	■ 授業を録音(画)したもの ■ 授業について批評してくれる友人のメモ
	3. 生徒は個人の活動についてどのように感じてい るか。	■ 質問紙の回答

### 課題 5.6

教師	研究課題	データの種類
テレサ	a.1. 自分の生徒が授業で話さないのはなぜか。	■ 授業について批評してくれる友人のメモ ■ 生徒とのインタビュー/会話のメモあるいは録音
	a.2. 自分の生徒は英語で話すことが好きか。	■ 質問紙の回答
	a.3. 授業で発言するのにどのような機会があるか。	■ 授業について批評してくれる友人のメモ

### 課題 5.7

これを行う1つの方法としては、まず振り返りを書くことから始め、次に質問紙調査を行い、そしてフォーカス・グループ・ディスカッションを行うというものです。

振り返りを書くことで、宿題が嫌いな児童生徒が抱えている問題に関して(例:「つまらない」「時間がない」「自分でやるには難しすぎる」など)知ることができます。これらの問題がどの程度一般的なのかを調べるために、その後用いることができる質問紙を作成するのに役立ちます(以下の例を参照してください)。

質問紙項目の例:

1 = とてもそう思う; 2 = そう思う; 3 = どちらとも言えない; 4 = そう思わない; 5 = まったくそう思わない		1	2	3	4	5
1.	宿題をつまらないと思う。					
2.	宿題をする時間がない。					
3.	自分で宿題をするのは難しすぎると思う。					

質問紙の左側の列の記述は、児童生徒が振り返りで書いたものをそのまま使うことができることに注意してください。「よい」記述を考えるために多くの時間を費やす必要はありません。質問紙の児童生徒の回答からもっとも共通する問題を特定したら、フォーカス・グループ・ディスカッションを使って、なぜこれらの問題が存在するのか、また、児童生徒が将来宿題に取り組むために役立つ提案があるかどうかを見つけ出すことができます。

# 解答

## 第6章

### 課題 6.1

- A. 53%の生徒は、授業で英語を話すことを間違いなく楽しんでいます。
- B. 79%の生徒は、英語を話すことが重要だと考えています。
- C. 84%の生徒は、英語を話したいと思っています。

### 課題 6.3

解答	コード/ラベル	カテゴリー
A. 「私たちがわからなくなったとき、スペイン語を使ってもらえば助かると思います」	[+支援としてのスペイン語]	[+支援としてのスペイン語]
B. 「母語が使われれば、理解しやすくなると思います」	[+理解としてのスペイン語]	[+支援としてのスペイン語]
C. 「母語が使われると、授業への興味がなくなります」	[-興味を減らす]	[-興味を減らす]
D. 「理解できない場合は、スペイン語で話す方がよいです」	[+理解としてのスペイン語]	[+支援としてのスペイン語]
E. 「スペイン語が使われると、授業の進度が遅くなる可能性があります」	[-遅い授業]	[-遅い授業]
F. 「理解できたと感じると、安心します」	[+理解としてのスペイン語]	[+支援としてのスペイン語]
G. 「しばらくして、私たちが知っている言語が使われると、すぐに退屈します」	[-退屈]	[-興味を減らす]
H. 「目標言語が使われた方が、より早く学べると思います」	[-よりよい学習]	[-よりよい学習]

#### 調査結果の要約/解釈:

「私[教師]は生徒の母語であるスペイン語を教室で使用すべきか」という研究課題に関しては、理解を促進するために、解答は「そう思う」のようです。しかしながら、スペイン語が話されると授業の難易度が低くなることも生徒は認識しているため、注意が必要です。また、このデータを解釈することで、教師は授業の面白さを損なうことを避けるためにスペイン語がどのように使用されるのかを検討したり、理解を助けるためのよりよい方法を考えたりすることができます。

# 解答

## 第6章

### 課題 6.4

コメント	キーワード	カテゴリー
1. カーラ:「私たちがペアで活動するとき、マリアは私に言葉の意味を教えてください。彼女は私にとって辞書のようなものです」	+ペアワーク(特定の他の生徒から学ぶ)	+ペアワーク +生徒の選択
2. ビセンテ:「アグスティンは私の親友なので、私たちはいつも同じグループになるようにして、冗談を言い合います。とても楽しいです。でもペアワークでは、女の子と一緒に勉強するのが好きです。女の子はもっと真面目です」	+グループワーク(ジョーク/楽しさ/友達と一緒に活動する) +ペアワーク(真面目な取り組み)	+グループワーク +ペアワーク +生徒の選択
3. アグスティン:「グループは騒がしいです。また、ビセンテと一緒に活動するのは好きではありません。彼は英語を話すのが速すぎます。私は1人で活動する方が好きです」	-グループワーク(騒がしさ) -グループワーク(特定の生徒の問題) +個人作業	-グループワーク +生徒の選択 +個人作業
4. ソフィア:「グループワークでは、みんな私の答えを写します。そして私にとってもたくさんの質問をします。まず自分で練習問題をしてから、他の生徒と比較するのが好きです。その方法はとても役立つと思います」	-グループワーク(写す他者) -グループワーク(他者からの多すぎる質問) +個人作業(練習問題) +個人作業の後にペアワーク	-グループワーク +個人作業 +ペアワーク
5. マリア:「私はペアワークとグループワークが好きです。とくに、誰と一緒に活動するかを選択できる場合は好きです」	+ペアワーク(とくにパートナーを自分で選択した場合) +グループワーク(とくにパートナーを自分で選択した場合)	+ペアワーク +グループワーク +生徒の選択

おそらく、これらのキーワードの中で見つけることのできる、もっとも明白な全体的なカテゴリーは、「様々なインタラクション・パターンの好み」(ペアワーク、グループワーク、個人活動を含む)です。しかし、これは教師が生徒に書くように頼んだ内容なので、驚くことではありません。この非常に小さな一組のデータから浮かび上がる別の重要な上位カテゴリーを見つけたかもしれません。5名の生徒全員が他の生徒について何らかの点で言及しています(誰と一緒に活動するのが好きか否か、特定の人たちと効果的に活動できるかどうか、など)。これは、最初にデータを見たときにはそれほど明白ではありませんが、興味深いテーマが浮かび上がったと言えます。

考えられる2文から成る要約の例を以下に示します。どのように最初の文がテーマを紹介し、2番目の文が調査結果を説明しているかに注目してください。

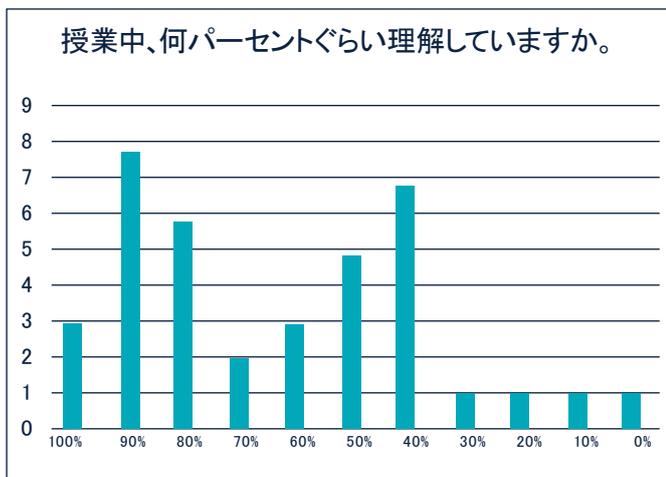
これらの学習者にとってペアワークやグループワークの重要な部分は、誰と一緒に活動するかです。どのインタラクション・パターンを学習者が好むかという評価は、ペアワークであろうとグループワークであろうと、どの程度他の人と楽しんで活動できたか否かと関係しており、何名かはペアワークをわずかですがより好むと回答していました。

研究の調査結果としてあなたがこれをとりあげているならば、あなたが指摘したい点を例示する引用を加えてよいかもしれません。

# 解答

## 第6章

### 課題 6.5



上の棒グラフには、2つの顕著な山があります。1つは、授業の90%を理解している8名の生徒と、40%を理解している7名の生徒を示す山です。もう一度山を見てください。この2つの高い山は、生徒が授業の40%以上を理解していることを示していることがわかります。このグラフが示しているのは、ダニエラは、少なくとも言語理解の点でレベルの異なる生徒がいるクラスを担当しているということです。生徒のほとんどは授業で使用される言語のほとんどを理解していますが、苦労している生徒は依然としてたくさんいるため、彼女は自分の話す言語を生徒にとって理解しやすいものにしたり、理解を助けたりすることに取り組む必要があります。

## 第7章

### 課題 7.3

テレサの生徒は、「対話」と「ロールプレイ」を楽しんだと述べ、授業でやりたいこととして「歌」にも言及しました。

### 課題 7.4

行動	気づいたこと
<b>A.</b> 学習者をリラックスさせるために、席替えをしたり、生徒や保護者と面談をしたり、学校心理士の支援を仰いだり、クラスの話し合いを行ったりして、よりよい雰囲気を作った。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 生徒は、クラスメートの前で間違いを犯すことを恐れて、話すときに、緊張したり、不安になったり、恥ずかしくなったりする。</li><li>■ また、答えが間違っているとすぐにイライラする。</li></ul>
<b>B.</b> スピーキングを促すために、ペアワークやグループワーク、指名棒 <sup>1</sup> の使用、より多くの形成的評価、理解度を確認するための質問など、様々な活動を行った。	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 授業中に口頭での活動を行うことで、正確なスピーキングスキルを身につけることができていると感じている。また、授業では、より実践的で楽しいグループ活動を希望している。</li><li>■ ある生徒は、口頭でのテストが好きではないと言っていた。</li></ul>

### 課題 6.6

ほとんどの生徒が「そう思う」や「そう思わない」と回答した内容は、概ね、恐れ、恥ずかしさ、イライラの感情に関連するものです。これらの答えは、生徒が英語を使い、発音を間違えて、自信をなくすのを恐れていることを示しています。しかし、生徒は、学び、よりよくしたいとも言っています。

「英語について生徒はどのように感じているか」「言語を学ぶことに心地よさや自信を感じているか」という質問に関して、ハビエルは次のように結論づけました。

「結果は私の疑いを裏付けました。多くの生徒は英語を学んだり発音したりできないと感じていました。しかし、同時に、生徒が最善を尽くしたいと思っていることにも気づきました」

# 解答

## 第8章

### 課題 8.1

「2週間が終わるまでに、いくつかの変化が見られました。最初の変化は、生徒がちゃんと活動に取り組み、ハンドアウトには正しい答えが記入され、授業に参加しようと多くの手が挙がるのが確認できたことです。また、別の質問紙調査では、リスニング教材を歌のように扱うことで、しっかり取り組めたという回答がありました。生徒は、文章から情報を見つけ出すことができたことや、もっとも好きな活動は、正しい単語に下線を引く、穴埋めをする、異なるものを消す活動であることなどを答えてくれました。それでも、音声が目まぐるしく変化する情報に並べることが難しいようでした。フォーカス・グループの参加者は、課題をうまくこなせるようになったことで、やる気が高まり、うまくいっている感じがすると述べています。このことは、別の相互観察でも確認されました。観察中、生徒は活動に集中して他のことに気が散ることはなかったと、ある実習生が話してくれました」

1. ロレーナの話から、自分が行った変化の効果を実感し始めるまでに約2週間かかったことがわかります。
2. 4種類の証拠がありました。彼女はまず、授業中における学習者の行動の変化を観察し(メモを取るなどして)、その後、量的データ(2回目の質問紙調査で)と質的データ(2回目のフォーカス・グループ・インタビューで)を収集しました。彼女のコメント「相互観察から」には、実習生に自分の授業を再度観察してもらい、より多くのフィードバックを提供してもらったことが示されています。これは、量的なもの(例:生徒が自発的に答えた回数)や質的のもの(例:生徒の参加の面についての一般的なメモ)でありえたかもしれません。
3. ロレーナは、新たな行動の前(探索の段階)と後に、同様の方法でデータを収集しました。これにより、データを比較し、どのような変化が起こったのかを分析することができました。4種類の証拠はすべて、生徒がより熱心になり、リスニングの授業でより成功したことを示していました。4つの異なる情報源によると、ロレーナは自分の試みた変化が成功したことをはっきりと確認することができました。

### 課題 8.4

エステバンは、探索の段階で診断テストを行い、新しい指導法を使い始めてからも同様のテストを行いました。どちらの段階でも、彼は学習者の行動の観察結果を報告しました。しかし、彼は自分の研究課題を修正することにしたため、行動の段階では、より正式な進捗テストからの情報を利用することにしました。また、指導法の修正を続けながら、授業への学習者の参加ややり取りのレベルなど、修正の変更の影響を示すより非公式な証拠を集め続けました。

### 課題 8.5

ハビエルの質問紙のデータを見てみると、指導の変更後には「英語を学ぶことができると思う」「やる気が出る」などの文に同意する傾向が見られます。また、「時間がかかると思う」、「無理だと思う」「恥ずかしいと思う」などの意見には同意しない傾向が見られました。このデータからは、生徒がより自信を持ち、授業の雰囲気がよくなったことを示していると解釈できます。その後、ハビエルは、彼の主な目的が達成されたと結論づけることができました。

### 課題 8.8

以下に要約文を示します。あなたの要約とは少し違うかもしれませんが、もちろん、それが間違っているという意味ではありません。

とりわけ、探索的アクション・リサーチのプロセスは、学習者、学習者のニーズ、学習者の認識に焦点を当てるのに役立ちます(カミラ、テレサ、ロレーナ)。そうすることで、学習者や同僚との信頼関係を築くことになります(ハビエル)。教師として成長するためには、必ずしもワークショップや研修を受ける必要はなく、学校や自分の教室で、学習者や同僚が提供してくれる洞察や支援を通して学ぶことができることを、探索的アクション・リサーチは示してくれます(アンドレア、ダニエラ、ハビエル)。その中には、自分自身の創造性を高めること(マウロ)や、人間としての自分(レイラ)やコミュニティの一員としての自分(ハビエル)について知るといっても含まれています。

# 解答

## 第9章

### 課題 9.2

研究を公開することには多くの利点があります。まずは、おそらくあなた個人にとってもっとも役立つもので、かつ、もっともわかりにくいものから始めましょう。

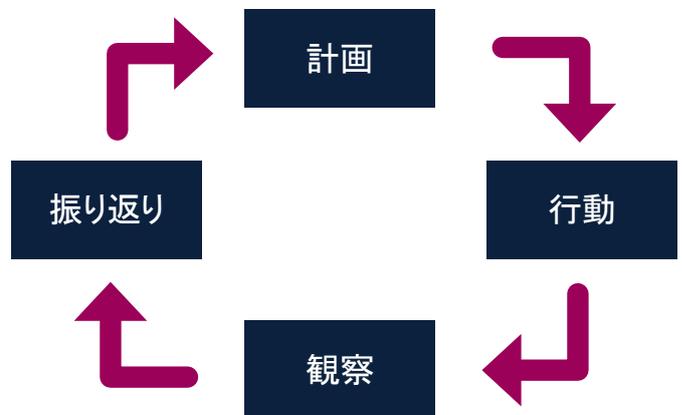
1. 研究を他の人に発表することは、新しい専門家グループ、コミュニティ、ネットワークに参加する方法であり、これは多くの予測できない点で利点があります。この点については、9.3で説明します。
2. 研究成果を共有する行為は、同僚に与える影響を見たり、専門家としての誇りを持つたりすることができるため、やる気を高めます。
3. 発表の準備をする際に、行ってきたことを注意深く振り返り、評価することができます。これにより、共有する前に新たな洞察を得ることができます。
4. あなたの研究や発見したことについて、フィードバックを得ることができます。フィードバックには、研究を再評価し、より深く理解するために役立つ褒め言葉や質問、建設的な批判が含まれます。これにより、自分の経験をよりよく理解することができるかもしれませんし、もちろん、よりよい実践研究者になるための助けにもなります。
5. 最後に、他の教師たちは、あなたの経験、課題、成功、発見から直接学ぶことができます。

### 課題 9.3

- A. アンドレア
- B. ダニエラ
- C. テレサ
- D. ロレーナ

### 課題 9.8

1. アクション・リサーチの図は、以下のようならせん状または一回りのサイクルを示す傾向があります。



2. ほとんどの図は、4つの重要な段階、行動、実行、観察、振り返りを示しています。
3. らせん状の図は、最終段階の後、前の段階や最初に戻ってどのようにプロセスが続くかを示します。

実践的で使いやすい本ガイドは、教師に探索的アクション・リサーチのステップを体験してもらうものです。この専門性の向上のための実践研究のアプローチは、最初、チリの中学・高校の教師を対象としたブリティッシュ・カウンシルのチャンピオン・ティーチャーズ・プログラムで考案されたもので、その後、インド、ネパール、ペルーの実践研究のプログラムでも採用されています。

本書は、関連出版物である*Champion Teachers: Stories of Exploratory Action Research* (British Council, 2016)に掲載されている事例を含め、実際の経験から得られた事例にもとづいており、英語教育における実践研究に関する文献の中でも、とくに比較的困難な環境で働く学校の教師を対象としている点が特徴です。

**リチャード・スミス**（英国ウォーリック大学、英語教育学・応用言語学リーダー）は、言語教育史、学習者と教師の自律、実践研究、英語教育研究の能力向上、困難な環境下での教育の分野に精通しています。幅広く出版するとともに様々な国で招待講演、セミナー、ワークショップの講師を担当してきました。また、世界中の教師や研究者の教育者、指導者、メンターとして、直接会って話をしたり、Teaching English in Large Classes network (TELCnet)、IATEFL Research SIGやInternational Festival of Teacher-Researchなどのネットワークの指導者を務めたりしてきました。現在、ELT Journalの「Key Concepts」セクションの編集者、English Language Teacher Education and Development Journalの編集長、ラテンアメリカと南アジアにおける実践研究プログラムの学術顧問を務めています。

**ポーラ・レボレド** は、小学校、中学校、大学、大学院、現職教員研修プログラムで教えてきました。チリ教育省のEnglish Open Doors Programme (EODP)の教師教育コーディネーターを経て、現在はフリーランスの教師教育者及び研究者として活躍しています。関心のある分野は、若い学習者の指導、教師教育、専門性の向上、実践研究です。ラテンアメリカ、ヨーロッパ、アジアで講演やワークショップを行ってきました。また、ブリティッシュ・カウンシルが資金提供をしている、チリとペルーのチャンピオン・ティーチャーズ・プログラムやAPTISアクション・リサーチ・アワード・プログラムなど数多くの教師研究プログラムでメンターとして指導をしています。最近では、Laureate Languagesが資金提供する「Laureate Action Research Scheme」を主導しました。また、チリの英語教育研究者による初のネットワークであるRIGELTの共同設立者でもあります。

翻訳:高木亜希子、田中武夫、南侑樹、藤田卓郎、河合創、滝沢雄一、永倉由里、酒井英樹

ISBN 978-0-86355-885-6

すべての画像は、関係する教師の許可を得て掲載されています。

© British Council 2018

ブリティッシュ・カウンシルは文化交流と教育機会を促進する英国の公的な国際文化交流機関です。